別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	短期大学の学科の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　オオサカセイケイガクエン 学校法人　大阪成蹊学園	
フリガナ 大学の名称	オオサカセイケイタンキダイガク 大阪成蹊短期大学（Osaka Seikei College）	
大学本部の位置	大阪府大阪市東淀川区相川3丁目10番62号	
大学の目的	本学は人間の徳を涵養する成蹊の名を体し、幅広く、深い教養と総合的な判断力を養い、豊かな人間性を育てるとともに、専門的な学芸教授と実際的な専門職業教育に重きを置く大学教育を施し、優秀な社会人を育成することを目的とする。	
新設学部等の目的	生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
生活デザイン学科 （Faculty of apparel design）	2	50	－	100	短期大学士 （生活デザイン）	平成28年4月 第1年次	大阪府大阪市東淀川区相川3丁目10番62号
計		50	－	100			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）

大阪成蹊短期大学　（平成27年3月認可申請）
- 幼児教育学科　〔定員増〕　(60)　（平成28年4月）
- 調理・製菓学科　(120)　（平成27年4月届出予定）
- 栄養学科　(120)　（平成27年4月届出予定）
- グローバルコミュニケーション学科　〔定員減〕　(△20)　（平成28年4月）
- 経営会計学科　〔定員減〕　(△10)　（平成28年4月）
- 総合生活学科（廃止）　(△220)

※平成28年4月学生募集停止

大阪成蹊大学
マネジメント学部
- スポーツマネジメント学科　(90)　（平成27年4月届出予定）
- マネジメント学科　〔定員減〕　(△90)　（平成28年4月）

びわこ成蹊スポーツ大学
スポーツ学部
- スポーツ学科　〔定員増〕　(　80)　（平成27年3月認可申請）

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数 講義	演習	実験・実習	計	卒業要件単位数
生活デザイン学科	42　科目	28　科目	19　科目	89　科目	62　単位

教員組織の概要

学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員
		人	人	人	人	人	人	人
新設分	生活デザイン学科	2 (2)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	48 (36)
新設分	計	2 (2)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	－ (－)
既設分	調理・製菓学科	2 (2)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	58 (50)
既設分	栄養学科	3 (3)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	45 (34)
既設分	幼児教育学科	5 (5)	9 (9)	8 (8)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	62 (62)
既設分	観光学科	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	48 (48)
既設分	グローバルコミュニケーション学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	52 (52)
既設分	経営会計学科	2 (2)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	48 (48)
既設分	計	20 (20)	15 (15)	18 (18)	0 (0)	53 (53)	0 (0)	－ (－)
合計		22 (22)	16 (16)	20 (20)	0 (0)	58 (58)	0 (0)	－ (－)

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	29 (29)	17 (17)	46 (46)	
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	図書館専門職員	1 (1)	0 (0)	1 (1)	
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	計	30 (30)	17 (17)	47 (47)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	201.52 ㎡	25,780.55 ㎡	55,805.91 ㎡	81,787.98 ㎡	大阪成蹊大学（19,280㎡）、びわこ成蹊スポーツ大学（14,400㎡）と共用
	運動場用地	0 ㎡	73,520.01 ㎡	79,482.00 ㎡	153,002.01 ㎡	
	小計	201.52 ㎡	99,300.56 ㎡	135,287.91 ㎡	234,789.99 ㎡	
	その他	0 ㎡	594.52 ㎡	4,564.28 ㎡	5,158.80 ㎡	
	合計	201.52 ㎡	99,895.08 ㎡	139,852.19 ㎡	239,948.79 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	4,348.39 ㎡ (4,348.39 ㎡)	20,532.04 ㎡ (20,532.04 ㎡)	12,415.47 ㎡ (12,415.47 ㎡)	37,295.90 ㎡ (37,295.90 ㎡)	大阪成蹊大学（13,986.80㎡）と共用

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設
	14 室	26 室	126 室	8 室 （補助職員-人）	0 室 （補助職員-人）

大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数
	生活デザイン学科	3 室

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	大学全体	291,391〔33,631〕 (291,391〔33,631〕)	2,540〔390〕 (2,540〔390〕)	257〔257〕 (257〔257〕)	3,093 (3,093)	3,449 (3,449)	34 (34)	大学全体（大阪成蹊大学との共用）
	計	291,391〔33,631〕 (291,391〔33,631〕)	2,540〔390〕 (2,540〔390〕)	257〔257〕 (257〔257〕)	3,093 (3,093)	3,449 (3,449)	34 (34)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	1,757.74 ㎡	180	303,561	
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		大学全体
	2,357.27 ㎡	該当なし	該当なし	

経費の見積及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
		教員１人当り研究費等		240千円	240千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	—千円	—千円	図書購入費には電子ジャーナルの整備費（運用コストを含む）を含む
		図書購入費	500千円	500千円	500千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
		設備購入費	2,500千円	2,000千円	2,000千円	—千円	—千円	—千円	—千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	1,270千円	1,020千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、私立大学等経常費補助金収入等をもって充当する。						

既設大学等の状況

大学の名称	大阪成蹊大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	人	人		倍			
マネジメント学部							平成15年度	大阪府大阪市東淀川区相川3丁目10番62号	平成27年度から入学定員減（△20）及び3年次編入学生募集停止（△40）（26年4月届出済）
マネジメント学科	4	180	3年次－	820	学士(経営学)	0.94			
芸術学部							平成18年度		平成27年度から美術学科を造形芸術学科に名称変更(平成26年4月届出済み) 平成27年度から造形芸術学科の入学定員を147人増 情報デザイン学科を学生募集停止（△97） 環境デザイン学科を学生募集停止（△30）（平成26年4月届出済み）
造形芸術学科	4	177	3年次－	277	学士(芸術)	1.07			
情報デザイン学科		－		－					
環境デザイン学科		－		－					
教育学部							平成26年度		平成27年度から入学定員増（20）（26年4月届出済み）
教育学科	4	120	3年次10	220	学士(教育学)	1.10			

大学の名称	びわこ成蹊スポーツ大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	人	人		倍			
スポーツ学研究科	2	10	－	20	修士(スポーツ学)	0.95	平成24年度	滋賀県大津市北比良1204番地	平成27年度からスポーツ学科を設置（280） 平成27年4月学生募集停止 生涯スポーツ学科（△124） 競技スポーツ学科（△156）（平成26年9月届出済み）
スポーツ学部			－				平成15年度		
スポーツ学科	4	280	3年次－	280	学士(スポーツ学)	1.25			
生涯スポーツ学科		－		－					
競技スポーツ学科		－		－					

大学の名称	大阪成蹊短期大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
総合生活学科	2	220	－	440	短期大学士（生活デザイン）（食物）（栄養）	1.24	昭和26年度	大阪府大阪市東淀川区相川3丁目10番62号	
幼児教育学科	2	240	－	480	短期大学士（幼児教育）	1.05	昭和31年度		
観光学科	2	90	－	180	短期大学士（観光）	1.05	昭和42年度		
グローバルコミュニケーション学科	2	50	－	100	短期大学士（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）	0.80	平成15年度		
経営会計学科	2	60	－	120	短期大学士（経営会計）	0.92	平成15年度		

附属施設の概要	該当なし	

別記様式第2号(その2の1)

(用紙　日本工業規格A4縦型)

教　育　課　程　等　の　概　要

(生活デザイン学科)

科目区分		授業科目名	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	Ⅰ群　ことばとコミュニケーション	Active English Ⅰ	1前		1			○							兼2	
		Active English Ⅱ	1後		1			○							兼2	
		TOEIC演習1	1・2前		1			○							兼1	
		TOEIC演習2	1・2後		1			○							兼1	
		英語会話1	1・2前		1			○							兼1	
		英語会話2	1・2後		1			○							兼1	
		海外語学演習(英語)	1後		2			○							兼1	集中
		海外語学演習(韓国語)	1前		2			○							兼1	集中
		基礎韓国語A	2前		1			○							兼1	
		基礎韓国語B	2後		1			○							兼1	
		基礎中国語A	2前		1			○							兼1	
		基礎中国語B	2後		1			○							兼1	
		基礎日本語A	1前		1			○							兼1	
		基礎日本語B	1後		1			○							兼1	
	Ⅱ群　健康・生命・環境をいつくしむ	健康とスポーツ	1前		2		○								兼1	
		体育講義	1前		1		○								兼1	
		体育実技	1前		1				○						兼1	
		暮らしと環境	1前・後		2		○								兼2	
		基礎化学	1前		2		○								兼1	
	Ⅲ群　世の中に眼を開く	社会福祉と暮らしの法	1後		2		○								兼1	
		アジアの未来と日本	1後		2		○								兼1	
		日本事情	1後		2			○							兼1	
		美学	1後		2		○								兼1	
		暮らしと経済	1前		2		○								兼1	
		暮らしと金融	1後		2		○								兼1	
		人権と社会	1後		2		○								兼1	
		日本国憲法	1前		2		○								兼1	
	Ⅳ群　人・心・生活をたずねる	文学・歴史・宗教	1後		2		○								兼1	
		人間学	1前・後		2		○								兼1	
		人間と文化	1前		2		○								兼1	
		日本の食文化	1後		2		○								兼1	
		ホスピタリティー論	1前・後		2		○								兼2	
	Ⅴ群　就職・社会参加に取り組む	成蹊基礎セミナー	1前	2				○				1				
		キャリアデザイン	1後		2		○								兼1	
		ビジネスコミュニケーション	1前		2		○								兼1	
		キャリア演習	1後		2			○							兼2	共同
		コンピュータリテラシーA	1前		2			○							兼1	
		コンピュータリテラシーB	1後		2			○							兼1	
		情報処理概論	1前		2			○		1		1				共同
	小計(39科目)			2	62	0	―			1		1			兼30	
学科科目		生活デザイン総論	1前	2			○				1					
		キャリアディベロップメント	1後		2		○			1	1	2				共同
		アパレル繊維学	1前		2		○					1				
		アパレル材料学	1後		2		○					1				
		ファッションデザイン論	1前		2		○					1				
		アパレル設計実習Ⅰ	1前		1				○			1			兼1	
		アパレル設計実習Ⅱ	1前		1				○			0			兼2	
		アパレル設計実習Ⅲ	1後		1				○			1			兼1	

科目区分	授業科目名	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科科目	アパレル設計実習Ⅳ	1後		1				○						兼2	
	デザイン特論Ⅰ	2前		2			○		2	1	2				共同
	デザイン特論Ⅱ	2後		2			○		2	1	2				共同
	被服整理学	1前		2		○			1						
	家庭経営学	2前		2		○				1					
	保育学	2前		2		○								兼1	
	食物学	1後		2		○								兼1	
	マーケティング論	2後		2		○				1					
	ファッションビジネス概論	1前		2		○			1						
	業界研究	1後		2		○			1						
	販売論	1後		2		○								兼1	
	ショップ経営学	2後		2		○								兼1	
	ファッション心理学	2前		2		○				1					
	ドローイング演習	1前		1			○							兼1	
	パターンメイキングⅠ	1前		2				○						兼1	
	パターンメイキングⅡ	1後		2				○						兼1	
	創作研究Ⅰ	2前		2				○			1				
	創作研究Ⅱ	2後		2				○			1				
	CAD演習	2前		1			○							兼1	
	デザイン表現実習Ⅰ	1前		1				○			1				
	デザイン表現実習Ⅱ	1後		1				○			1				
	生活造形実習Ⅰ	2前		1				○						兼1	
	生活造形実習Ⅱ	2後		1				○						兼1	
	フェースメイク演習	1前		1			○							兼1	
	ファッションアイテム演習	1後		1			○							兼1	
	ネールアート演習	2後		1			○							兼1	
	ファッションコーディネート論	2後		2		○					1				
	ブライダルコーディネート論	2前		2		○								兼1	
	ヘアメイク演習	2前		1			○							兼1	
	テキスタイル基礎実験	1後		1				○	1		1				オムニバス共同(一部)
	色彩学	1前		2		○					1				
	染色加工学	2前		2		○			1						
	衣環境学	1後		2		○								兼1	
	住居学	2前		2		○								兼1	
	インテリアコーディネート論	2後		2		○								兼1	
	ファッション文化論	2後		2		○				1					
	調理学実習Ⅰ	2前		1				○						兼1	
	調理学実習Ⅱ	2後		1				○						兼1	
	繊維加工学	2後		2		○			1						
	衣環境学実験	2後		1				○						兼1	
	材料学実験	2後		1				○			1				
	被服整理学実験	2前		1				○	1						
	小計(50科目)		2	78	0	―			2	1	2			兼19	
合計(　89科目)		―	4	140	0	―			2	1	2			兼48	

学位又は称号	短期大学士（生活デザイン）	学位又は学科の分野	家政関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通科目ではⅠ群から一か国語2単位以上、Ⅱ～Ⅴ群から成蹊基礎セミナー2単位を含む10単位以上を修得し、12単位以上を修得すること。学科科目では、必修科目2単位、学科として履修指導上の必修とする科目26単位及び、コースごと履修指導上の必修とする科目としてアパレル・スタイリストコース10単位、ファッションコーディネートコース13単位を含む、50単位以上を修得すること。以上、共通科目12単位以上、学科科目50単位以上、合計62単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:25単位(1学期) ただし、免許、資格にかかわる科目の単位数についてはこれを除く)	1学年の学期区分	2　期
	1学期の授業期間	15　週
	1時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（生活デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	Ⅰ群ことばとコミュニケーション	Active EnglishⅠ	本授業は、Linc English教材を活用したアクティブラーニングを中心に、読む・書く・聞く・話すの英語の基礎を身につけながら、日常生活における英語コミュニケーション力の習得を目標とする。「挨拶（自己紹介）」「時間（時間表現）」「健康状態の説明」「観光旅行（旅行者として）」「病気（自分の症状）」「食事（注文する）」「洋服やアクセサリー（買うために）」などをテーマに、自己表現を中心とした一般的な英語表会話を学びながら、日本文化との違いなどについても学習する。	
		Active EnglishⅡ	本授業は、Linc English教材を活用したアクティブラーニングを中心に、前期のテーマから卒業後の専門職として活躍する場面を想定した学習へと発展させ、実用的な英語コミュニケーション力の習得を目標とする。例えば、「観光旅行」のテーマでは、旅行者として食事やデザートを注文するのではなく、調理方法を説明する（調理・製菓学科）、文化的な背景から説明や推奨をする（観光学科）、健康との関わりを説明する（栄養）など、専門的情報を収集して伝えるという将来の職場で求められるような、英語表現力を養う。	
		ＴＯＥＩＣ演習１	本授業は、TOEIC試験を受験するためのリスニング、リーディングに対応した演習を行い、400点以上を取得できる英語力の習得を目標とする。TOEIC試験の入門クラスとして位置づけ、「旅行」「オフィス」「レストラン」「新聞・雑誌」「広告」「休暇」などをテーマにTOEIC試験の出題形式を確認しながら演習を行う。各文法の復習をしながら、日常会話やビジネス英語に多く触れることにより、ビジネス英語に必要な基礎的な語彙や表現方法を習得する。	
		ＴＯＥＩＣ演習２	本授業は、TOEIC試験を受験するためのリスニング、リーディングに対応した演習を行い、450点以上を取得できる英語力の習得を目標とする。TOEIC試験に頻出のテーマである「旅行」「オフィス」「レストラン」「新聞・雑誌」「広告」「休暇」などをテーマに、各文法を確実に身につけながら、日常会話やビジネス英語の基礎的な語彙や表現方法を習得し、定着させることにより、会話の大意がスムーズに理解できるようする。また、リスニングにおいて尋ねられている情報を正確に聴き取り、情報を整理できるよう演習する。	
		英語会話１	本授業は、英会話の基礎的事項に焦点を当てながら、海外旅行や留学、ホームステイの際に必要となるスピーキング・リスニングの力をつけることを目標とする。「自己紹介」「自己紹介への質問と応答」「家族紹介」「名前や住所」「写真クイズ」「英語特有の数の表現」「食べ物の紹介」などの具体的な場面を想定した英会話表現を学び、ゲーム、クイズ、ペアあるいはグループワークなどのアクティブラーニングにより英語を主体的に使用する活動を通して、英会話の基礎を習得させる。	
		英語会話２	本授業は、英語会話１での学習を基礎に、多様な場面における英語コミュニケーション力を身につけることを目標とする。「休日の過ごし方」「スポーツ」「趣味」「幼いころの経験」「将来について」「大好きなこと」などのテーマに対して、単に説明するだけではなく、ペアあるいはグループワークによる活動を中心としたアクティブラーニングにより学生同士で質問・応答を繰り返しながら、表現力を豊かにし、英語の基本的なコミュニケーション力を習得する。	
		海外語学演習(英語)	本授業は、ヴィクトリア大学（オーストラリア）における3週間の語学留学により基本的かつ実践的な英会話力を習得することを目標とする。事前授業では、現地での大学生活に素早く適応でき、積極的かつ有意義な学びとなるよう、オーストラリアの生活習慣と文化的特徴について学び、ホームステイや語学学校での生活の準備をする。帰国後の事後授業では留学期間中の成果をレポートにまとめ、短期間の語学留学の省察と成果の定着を図る。	
		海外語学演習(韓国語)	本授業は、済州観光大学（韓国）における短期交換留学により基本的かつ実践的な韓国語会話力を習得することを目標とする。事前授業では、現地での大学生活に素早く適応でき、積極的かつ有意義な学びとなるよう、韓国の生活習慣と文化的特徴について学び、ホームステイや語学学校での生活の準備をする。帰国後の事後授業では留学期間中の成果をレポートにまとめ、短期間の語学留学の省察と成果の定着を図る。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		基礎韓国語Ａ	本授業は、韓国語を全く知らない学習者が、韓国語の基礎を身に付け、韓国の生活や文化を理解しながら基本的な日常会話ができることを目標とする。文字である「ハングル」の習得からはじめ、基本文型や文法を学びながら「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」の領域をバランスよく学習する。また、グループ活動や映像等様々な資料を活用しながら、各領域の基礎を身に付け、韓国語の基礎を習得する。	
		基礎韓国語Ｂ	本授業は、本授業は「ハングル」や基本文型、文法の基礎を身につけた学習者を対象に、文法理解を高め、日常的な韓国語コミュニケーション能力を習得することを目標とする。「誕生日」「日常生活」「交通」「ショッピング」「趣味」「健康」「旅行」など具体的な場面を想定しながら、ペアあるいはグループワークによる活動を中心としたアクティブラーニングにより学生同士で質問・応答を繰り返すことで、表現力を豊かにし、韓国語の基本的なコミュニケーション力を習得する。	
		基礎中国語Ａ	本授業は、中国語学習の第一歩として正確な発音を習得し、基本的な文法や会話表現を習得することを目標とする。中国語の習得に不可欠な正確な発音を習得した後、基本文法や「自己紹介」「他者紹介」「年月日」「曜日」「家族紹介」「時間」などの基本的な表現方法を学びながら、中国語の基本文法と会話表現を身につける。グループ活動や映像等様々な資料を活用しながら、読む、書く、聞く、話すの基礎能力をバランスよく習得する。	
		基礎中国語Ｂ	本授業は、中国語の正確な発音と基本文法を習得したものを対象として、中国語の日常会話力を習得することを目標とする。中国語の正確な発音、文法を確認した上で、「買い物」「公共交通」「両替」「お金の数え方」「電話の会話」「レジャー」「見送り」「出迎え」など具体的な場面を想定しながら、ペアあるいはグループワークによる活動を中心としたアクティブラーニングにより学生同士で質問・応答を繰り返すことで、表現力を豊かにし、中国語の基本的なコミュニケーション力を習得する。	
		基礎日本語Ａ	本授業は、留学生・帰国子女を対象に、日本語での日常会話力の習得、ならびに日本文化に対する広範な知識を養うことを目標とする。「自己紹介」「デパート」「電車・バス」「映画」「お宅訪問」「病気」「道を尋ねる」「銀行・郵便局」「旅行」「電話」などの場面における日常会話について、単語や文型の確認、会話演習、CDを繰り返し聞く等して、日本語の音に慣れ、日本語での日常会話力を習得する。また、日本の文化についても理解することで、日本語力形成や日本での生活の基礎となる知識を身に付ける。	
		基礎日本語Ｂ	本授業は、留学生・帰国子女を対象に、単語や表現の幅を広げ、日本語での日常会話力を高めることを目標とする。「寮生活」「花見」「忘れ物」「工具を使う」「休みの計画」「病院で指導を受ける」「ビデオを買う」「レポートを書く」「会社の出勤・早退」「実習の予定」「手紙を書く」「社員旅行」など具体的な場面を想定しながら、単語や文型の確認、会話演習、CDを繰り返し聞く等して、単語や表現の幅を広げ、日本語での日常会話力を高める。	
	Ⅱ群健康・生命・環境・をいつくしむ	健康とスポーツ	本授業は、生活習慣病に対する基礎知識と改善方法に対するスポーツの有効性を認識し、運動処方の基礎知識及び自身の健康管理にスポーツを役立てる能力を養うことを目標とする。「発達」「筋肉のつくりについて」「栄養の代謝について」「肥満について」「糖尿病について」などの知識を習得し、運動処方としてバレーボール、バスケットボール、フットサル、バトミントン、卓球などの競技を行いながら、運動の重要性を理解し、自己の健康管理力を高める。	
		体育講義	本授業は、現代社会における健康問題についての基礎知識とその予防及び改善方法について解説し、運動や栄養が身体に与える影響についてスポーツ科学の観点から理解を深めることを目標とする。現代社会における健康を害する環境要因について考えることで、幼児から高齢者の骨の状況、肥満やメタボリックシンドローム、小児肥満、若年女性の健康問題について理解し、学習者及び周囲の人々の将来の健康や、健康な成長に対する運動やスポーツの重要性について考えられるようになる。	
		体育実技	本授業は、現代社会における健康問題の予防と改善に有用なスポーツ競技を体験しながら、学習者自身が生涯スポーツを行う上での運動技能の習得と体力向上を目標とする。生涯スポーツの一環としてさまざまな世代の人たちが行うことのできるスポーツ種目として、卓球やバドミントンを種目例とし、それぞれの基礎技術を身につける一方、シングルスやダブルスのゲームを体験することにより、ゲームや仲間との協調を通じてスポーツ種目の楽しさを理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		暮らしと環境	本授業は、少子高齢化や地球環境問題の深刻化等、私たちの暮らしを取り巻く環境が劇的に変化していることを理解し、自身の将来の暮らし方への考察力を養うことを目標とする。「暮らしと環境」という日常的なテーマに対して、住生活の視点からこれらの問題を考察する。前半では、「いえ」の中の暮らしから、住生活の変化を振り返り、さらに家族問題や環境問題への対応という視点から、近年顕在化してきた新たな暮らし方について議論し考えていく。後半では、「いえ」から「まち」に視野を広げて、京都の住まい・まちづくりの取組を通して、まちに暮らす意義について考える。	
		基礎化学	本授業は、食品学や調理学、栄養学の基礎ともなる化学の基礎知識を習得することを目標とする。「原子構造」「分子構造」「物質の三態」「元素の周期表」「原子量・分子量・式量」「溶液の濃度と溶解度」「化学反応式」「反応の量関係」「酸と塩基」「酸化と還元」「酸化還元反応と人間生活」「無機化合物と有機化合物」「合成高分子」「生物と高分子」等についての基礎を確認しながら、天然高分子化合物である食品成分や生体成分の理解へ結びつける。	
	Ⅲ群世の中に眼を開く	社会福祉と暮らしの法	本授業は、各ライフステージに沿いながら、社会福祉の意味や意義、現行の社会福祉制度の役割や課題を理解し、社会福祉制度の知識を習得することを目標とする。社会福祉の法制度やしくみ、理念や歴史を理解し、「生活保護の目的と原理・原則」「低所得者の支援」「子ども家庭福祉サービスとしくみ」「高齢者福祉サービス」「介護福祉」「障害福祉サービス」「児童福祉施設」などについて理解を深め、役割や課題について考えられるようにする。	
		アジアの未来と日本	本授業は、日本との歴史関係を整理し、アジア社会の多様性及び各国の情勢を理解しながら、グローバル化する社会の中で活躍するために必要となる基礎知識を習得することを目標とする。政治面では民主主義国（日本、韓国）、一党独裁国（中国、ベトナム）、特定の家族による独裁国（北朝鮮）、経済面では開発途上国（カンボジアやラオス）、著しい経済成長国（中国やインド）、宗教面ではキリスト教国（フィリピンや韓）、仏教国（タイ、スリランカ）などあるが、アジア地域の歴史のなかで、何がこうした多様性及び情勢の形成に影響したのかを学び、今後の動向についても考えを深めていく。	
		日本事情	本授業は、留学生・帰国子女を対象として、日常の「トピックス」や「ニュース」を取り上げながら、現代日本語の文法や会話表現、日本文化の現状と併せて、現代日本の社会事情を理解することを目標とする。「レストラン」「映画」「温泉」「習慣」「まんが」「地震」「結婚」「葬式」「ペット」「相撲」「着物」「高齢者」「住居」などの身近なテーマに沿った「トピックス」や「ニュース」を紹介しながら、現代の日本語、日本文化の学習を含め、現代日本の社会事情についての理解を深める。	
		美学	本授業は、人間が「哲学」の一部として「美学」を考え、理想的な価値、真・善・美を追究してきた歴史を理解し、「美とは何か」を考えながら「美を感じる心」を磨くことを目標とする。「日常生活における美の経験」「古代社会における芸術の評価」「芸術を生み出す人の思い」「現代社会における芸術や美的経験の役割」「美と綺麗の違い」などをテーマに考えを深める。最後に、「感性と知性を動員する美的経験」の役割を確認し、「美」や「美的経験」の無い社会を考えることにより「美」の社会的役割を理解する。	
		暮らしと経済	本授業は、経済社会の仕組みや制度、原理となる考え方など経済の基礎的な知識や視点を学び、貨幣経済社会において自立した暮らしを営む力の習得を目標とする。「市場の働き」「市場と自由の関係」「通貨・貨幣と金融機関の役割」「値段と価値、効用の理解」「企業の役割と日本の産業構造」「景気変動と日本経済の現状」「暮らしに関わる世界経済」などをテーマに学び、「自分の欲しいものが欲しい時に手に入れられる仕組み」を理解する。また、経済社会の観点から「豊かさ」や「幸せ」について考える力を身につける。	
		暮らしと金融	本授業は、現代社会における金融の仕組みを理解し、自身の社会生活において応用できる金融に関する基本的な知識を習得することを目標とする。「資本主義経済と金融の役割」「経済活動と貨幣の機能」「金融機関の役割」「金融市場システムと株式市場の役割」をテーマにお金が流通するしくみを学び、高度に発展した現代社会における金融のしくみが、円滑な経済活動が支えていることを理解し、私たちの日常生活と金融のしくみとの関わりを理解し、応用力を養う。	
		人権と社会	本授業は、「人権」とは何かを考え、様々な人権問題の考察を通して、人権に関する個人的・社会的責任力及び、人権問題に対する高い問題意識と倫理的判断力を身につけることを目標とする。「人権誕生の歴史」「世界人権宣言」「自由」「平等」「日本国憲法における人権」「子どもの人権」「障害者・患者の人権」などを学び、人権を構成する諸背景を理解した上で、グループワークや議論を通し、他者の立場、価値観を理解しながら、人権問題についての考察を深めていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		日本国憲法	本授業は、日本国憲法の基礎知識を習得し、日々の生活と日本国憲法との結びつきを理解しながら、社会における多様な問題について憲法の視点から、自分の力で考える能力を身につけることを目標とする。「日本国憲法の成立」「人権の理念」「信仰の自由」「表現の自由」「法の下の自由」「人身の自由」「生存権」「教育を受ける権利」「労働基本権」「参政権」「立法」「行政」「司法」「平和主義」「憲法改正」などをテーマに基礎知識を習得し、政治・社会問題に対して憲法の視点から自分の考えをまとめ、説明する能力を養う。	
	Ⅳ群人・心・生活をたずねる	文学・歴史・宗教	本授業は、大学生として必要な文学・歴史・宗教の基礎知識を習得することを目標とする。「遺跡・古墳」「地図」「地形」「地名」「世界遺産」「文学」「宗教」など様々な観点から、人々の生活等の文化的背景とともに、文学・歴史・宗教の基礎知識を習得する。また、社会の特徴を文学・歴史・宗教の3要素から有機的に捉えられるようにする。さらに、特定の時代や場所について、地形や地図、地名や遺産、都市や街道、宗教や文化などから歴史事象にアプローチし、考えをまとめることで理解を深めていく。	
		人間学	本授業は、「人間とは何か（本質）」「いかに生きるべきか（倫理）」という哲学的で倫理学的な問題を含む問いを、科学や宗教学など多方面の成果をふまえて、多面的に考える力の習得を目標とする。古代、中世、現代の代表的な人間観、19世紀以降の新しい人間観、20世紀に登場した文化的人間観について詳しく学び、これらの学びから、現代社会に生きる学生自身が「人間はいかに生きるべきか」という問いに答えられるよう、考える力と人間観を築いていく。	
		人間と文化	本授業は、日本の伝統芸能である「落語」を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を習得することを目標とする。自身の表現力を分析し、落語の中に工夫されている「プレゼン技術」「話し方」「表現力」「笑いの表現力」などを分析の上、落語に見出した「プレゼン技術」「話し方」「表現力」「笑いの表現力」を自身の表現に取り入れる方法を学びながら、自己表現力を豊かにし、社会人に必要なコミュニケーション力やプレゼンテーション能力を身につけていく。	
		日本の食文化	本授業は、食材ごとに伝統的な日本の食文化を学びながら、栄養価等の特徴及び日本の食生活の文化的側面についての理解を深めることを目標とする。「日本の伝統的な行事食」「米の文化」「野菜の文化」「麦・雑穀の文化」「大豆の食文化」「魚介・海藻の食文化」「茶と和菓子の文化」などを中心に、日常の食生活を振り返りながら、各特長及び文化について理解する。また、健康的な食生活についても考えを深められるようにする。	
		ホスピタリティー論	本授業は、日本文化の中での「もてなし文化」（ホスピタリティ）の歴史を学び、現代日本社会への適用を考え、現代に求められている「ホスピタリティ」に適した具体的なサービスへと展開するための基礎的な知識の習得を目標とする。自然と人間は「対立するもの」ではなく「融和するもの」とする日本文化に内在してきた「もてなしの空間」を創作する「しかけ」を理解できるよう、「茶」を通したホスピタリティの概念、「いけばな」を通した空間の演出を知り、「快適な空間、快適なサービス、快適な人間関係」を構築する「もてなし理論」について考えていく。	
	Ⅴ群就職・社会参加に取り組む	成蹊基礎セミナー	本授業は、初年次教育として建学の精神である「桃李不言下自成蹊」、行動指針である「忠恕」についての理解を深めながら、本学での2年間の学びの基礎となる能力の習得を目標とする。「成蹊の意味」「忠恕の実践」「挨拶文の書き方」「お礼状の書き方」「社会人のメールマナー」「レポートの書き方」「論文の書き方」「新聞の読み方」「情報収集の仕方」「文章の要約」「批判的な思考方法」について学びながら、本学学生として2年間学んでいくための基礎を身に付ける。	
		キャリアデザイン	本授業は、社会的適応能力を身につけながら、自身のキャリアデザインについて考えられるようになることを目標とする。自身のコミュニケーション傾向を分析し自己理解を深め、また他者との交流を通して他者理解を深めながら、言葉、表情、態度の重要性を理解し、コミュニケーション能力を養う。また、社会人として必要な知識として、経済的視点から社会経済の仕組み（保険や税金の基礎知識）を学びながら、働くことの意義について考える。随時、現状の就職情報や知識を収集しながら、自身のキャリアデザインについて考え、就職への意識を高める。	
		ビジネスコミュニケーション	本授業は、ビジネスの場におけるコミュニケーションの基本ルールを身につけ、聴く力、伝える力、自分をアピールする（売り込む）力を高めることを目標とする。好意的な印象の要件、対話におけるポジティブ・リスニング、ビジネスパーソンとしてのコミュニケーション、接客や営業活動でのコミュニケーション、自分の売りの分析、アピールとその到達度合いの検証など知識・実践力を身につけながら、単なるマニュアル的なハウツー知識の習得のための学習ではなく、自助・自立の基礎力向上を意識した学習をする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	キャリア演習	本授業は、社会の一員として、社会人に求められる基本的な知識及びコミュニケーションの能力を習得することを目標とする。インターンシップを意識して、「挨拶」「スケジュール管理」「敬語」「電話」「FAX」「メール」「ビジネス文章（社内文書・社外文書）」のマナーなど、業種に関わらず必要となるビジネスマナーや仕事術について学ぶ。日常生活からマナー等に対する意識を高めるようにし、ペアやグループでのロールプレイ等実践を行いながら、知識の定着と実践力を身に付ける。	
	コンピュータリテラシーＡ	本授業は、情報社会といわれる現代社会において必要不可欠な、コンピュータを使いこなすための基礎能力を習得することを目標とする。まず、キーボードを早く打つためにタッチタイプ（キーボードを見ないで打つ）を習得する。その上で、情報検索等インターネットを使いこなす方法やマナー、WordやExcelを使ったレポートやビジネス文書の作成、エクセルデータの活用方法など、基本的な知識や操作方法を身につけていく。	
	コンピュータリテラシーＢ	本授業は、コンピュータの基本操作、WordやExcelの基礎操作についての理解の下、実際のビジネス現場で使用頻度の高い機能を中心に、実践力・応用力を習得することを目標とする。表およびグラフ等オブジェクトを活用した文書作成を通して、WordやExcelの実践的な使い方（中級レベル以上）を習得し、また、PowerPointを活用して、特殊効果の設定やスライドのカスタマイズの方法を含め、プレゼンテーションを作成・発表する方法を身につける。	
	情報処理概論	本授業は、パソコンのアプリケーションソフトについての基本的な操作について理解を深め、情報処理能力を高めることを目標とする。アプリケーションソフトは、Word、Excel、PowerPointを用い、個々の学生の専門分野に関するテーマに沿って、情報収集、情報分析、発表資料作成、プレゼンテーションを実施しながら、各アプリケーションソフトの活用について基礎の定着を図り、情報処理能力の向上を図る。	
学科科目	生活デザイン総論	本授業は、少子高齢化及び高度な情報技術の発達、グローバル化などによる生活の変化に着目し、社会での課題について理解し、課題解決できる思考力や実践力を身につけることを目標とする。近年、私たちを取り巻く環境は急激に変化し、ライフスタイルや価値観は多様化している。そこで、現代社会の諸課題を客観的に把握し、持続可能な生活を確立し、市民として主体的な意識をもち行動できるよう、現代生活の諸課題について学習する。また、グループディスカッション等により、諸課題の解決について考えを深めていく。	
	キャリアディベロップメント	本授業は、就職準備のための力および社会人基礎力の向上を図ることを目標とする。そのため、非言語系、言語系基礎知識の習得、自己分析力、自分のことを表現できる文章力や発表力の習得、他人の意見を聞き、それについてディスカッションできる力を習得していく。さらに、業界、職種についての理解を深めるために、現職として各界で活躍する卒業生を招いてのヒアリングや業界の動き等資料収集することで、自身のキャリアの方向性を明確なものにする。	
	アパレル繊維学	本授業は、いつも着ている衣服の素材がどのような性質を持っているのかについて学び、「この素材の服はなぜ暖かいのか」「なぜ汗をよく吸うのか」などの理由について、それぞれの繊維の性質と関連付けて理解し、説明できるようになることを目標とする。はじめに繊維を構成している高分子の特性について学び、次いで被服材料として用いられる代表的な繊維の種類とそれぞれの特性を知る。最後に、改良・改質された新しい繊維やリサイクルの技術と現状について学び、インターネット検索等も活用しながら理解を深める。	
	アパレル材料学	本授業は、繊維集合体としての糸および布の性質を知り、アパレル繊維学で学んだ繊維そのものの性質と併せて、日常の衣生活や将来の仕事において活用することのできる被服材料の知識を習得することを目標とする。はじめに糸や布の製造方法と構造、これらに起因する被服材料の基本的特性について学ぶ。次いで、布の構造特性と耐久性や快適性などの諸性質との関係や、これらの性能試験方法について学習する。最後に、被服材料の知識を衣生活にどのように活かすことができるのかについて考え、理解を深める。	
	ファッションデザイン論	本授業は、ファッションデザインに必要な知識を、衣服及び生活全体から捉え、習得することを目標とする。アパレル業界全体や世界４大ファッションコレクション、オートクチュールとプレタプルテなどマーケットの知識、古代の衣服の起源から装飾の時代である中世、近世など服飾史の知識、更にアート・アンド・クラフト運動や柳宗悦の民藝など生活に密着した「用の美」の考え方など様々な知識を学び、ファッションデザインを行ううえで基礎となる知識を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アパレル設計実習Ⅰ	本授業は、平面である布地を用いて立体としての人体を美しく見せるためにはどうすればよいのかという課題の下、平面でのテクニックであるパターン及び展開と、ボディを用いて行う立体裁断のテクニック等、洋服作りの基礎を習得することを目標とする。ワンピースの製作を通して、基礎的な上半身用衣服のデザイン、パターン展開の理解、基礎的な上半身用衣服の立体構成の理解、パターン展開した衣服を縫製し制作するためのテクニックを学び、衣生活に活用できる技術を習得する。	
	アパレル設計実習Ⅱ	本授業は、和服の布地、作り方についての基礎的な理解と技術をゆかた（成人用）製作を通して習得することを目標とする。そのため、まず和服の基本的な平面構成や、和服の基本的な縫い方について学ぶ。さらに、平面構成と立体構成の相違を理解した上で、基礎縫いの練習や地直し、裁断、標つけ、袖縫い、背縫いまでの内容について学び、知識と技術を習得する。同時に、日本の伝統としての和服を理解し、伝統を受け継ぎ伝えることへの意識を持てるようにする。	
	アパレル設計実習Ⅲ	本授業は、アパレル設計実習Ⅰに続き、下半身用衣服のデザイン、パターン展開の理解、基礎的な下半身用衣服の立体構成や、ベルトや開き、ボタン付けなどディテールのパターン、縫製を習得することを目標とする。序盤はスカート製作を通して、前期に学んだ上半身用衣服のパターン展開を復習し、また、重衣料であるジャケット製作を通し、洋服を作るために必要なディテールである衿の展開とパターン、袖の展開とパターンやポケット等を習得する。そして、アレンジを加えることで、これまでに学んだことの応用化や、個々の個性を洋服に反映する技術を磨く。	
	アパレル設計実習Ⅳ	本授業は、アパレル設計実習Ⅱに続き、和服の作り方と着装等についての基礎的な理解と技術をゆかた（成人用）製作を通して習得することを目標とする。具体的に、居敷当布準備、肩当て、居敷当布つけ、衽つけ、脇縫い、裾ぐけ、袖つけ、共衿つけ、仕上げ、着装までの内容について学び、知識と技術を習得する。最終的には着装の上、それらを相互的に評価し、感想や反省点等についても意見を交換する。同時に、和服のマナーや和裁と洋裁の差異、日本の衣服文化への理解等を深められるようにする。	
	デザイン特論Ⅰ	本授業はファッションショーの企画立案、製作、発表を通して、アパレル商品の企画、製作、表現の基礎知識及び実践力の習得を目標とする。本授業では、アパレル企画の方法、ファッションマップの作成、ターゲット分析、ショップリサーチ、ファッションショーのテーマ作成とブランド企画、企画書の作成・発表までを行う。なお、本授業は卒業制作としてのファッションショーの実施に向けての準備を兼ねた授業としても位置づける。	共同
	デザイン特論Ⅱ	本授業はファッションショーの企画立案、製作、発表を通して、アパレル商品の企画、製作、表現の基礎知識及び実践力の習得を目標とする。本授業では、染色、プリント、パターンメイキング、サンプリング、モデルフィッティング、縫製等の製作及び、ホームページ作成とファッションショーの準備・開催を行う。なお、本授業は卒業制作としてのファッションショーの実施に向けての準備を兼ねた授業としても位置づける。	共同
	被服整理学	本授業は、日常生活と非常に関連の深い衣料品について、それらの特性をもとに使用・保管に至る衣料品の取り扱い方法について、生活と密着させて考え理解することを目標とする。特に洗浄について重点を置き、界面活性剤の特性や洗浄機構について科学的に学ぶ。また、繊維製品における保管時の事故について素材別に実例を紹介しながら、日常生活で見過ごしている繊維の特性とそれが原因で生じる事故との関連についても理解を深める。さらに、日進月歩する機能性を有する衣料品開発について、その最先端の技術を紹介し、衣料の将来についても考える。	
	家庭経営学	本授業は、現代の家庭を取り巻く社会環境を理解し、円滑に家庭を経営していくために必要な基礎知識の習得を目標とする。「家族」「消費行動」「衣生活」「食生活」「住生活」「保育」「高齢者福祉」の7つの観点から、現代家族の特徴と機能、家族のライフサイクル、子どもの生活や子育て支援、家庭の法律、生活設計の立て方や持続可能な生活、社会福祉等、家庭内経営及び家庭を取り巻く社会環境について理解を深めていく。	
	保育学	本授業は、乳幼児の成長・発達の状態を理解し、乳幼児の病気の特徴と予防・看護についての方法・対策等保育の基礎を習得することを目標とする。まずは保育の難しさや喜び等、保育の特性について概観する。その上で、乳幼児の特質、成長段階等、乳幼児期の発育発達について生理学的側面から理解し、また、世話の仕方、生活習慣の確立、小児看護等実際的な側面について理解を深めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	食物学	本授業は、食物に関しての基礎的な知識及び、実生活に活用する能力を身につけることを目標とする。我々の生活する日常社会は日々変化しており、それに伴い食生活も変化している。自立する力を身につけ、心豊かな生活を創っていくために、健康を支える柱の一つである食物について学習することの意義は深い。「人と食物」「健康と栄養」「食品の栄養と調理」「食の安全」「これからの食生活」「環境問題」など、さまざまな角度から食物と生活を捉え、自分たちの食生活を振り返りながら食物領域について理解を深めていく。	
	マーケティング論	本授業は、ブランディングマーケティングの視点から、ファッションビジネスにおけるマーケティング戦略の基礎を習得することを目標とする。新製品の開発、新店舗開設、ブランド育成や企画のために、商業施設、テナントやタウンリサーチを行う。また消費者を理解するために、市場調査（アンケート調査）を行うため、テーマ、仮説、調査票を作成、配布し、得られた調査結果をSPSS統計ソフトを用いてデータ解析を行い、顧客のライフスタイルや購買行動を考察する。	
	ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽ概論	本授業は、ファッションビジネスについて、繊維製品の品質、消費者行動、繊維製品の製造と流通のしくみの3つの観点から理解することを目標とする。繊維製品の品質評価、品質表示、消費者苦情の実態や企業のCSR等の理解を深める。また、川上から川下まで、繊維産業の構造変化やグローバル化による問題点、SPA企業や小売店、百貨店など流通構造の変化、さらに日本の消費者行動の歴史的変化について理解し、今後の繊維産業のあり方や方向性について学ぶ。	
	業界研究	本授業は、アパレル・ファッション業界における明確なキャリアプランを構築するために、業界研究を通しキャリア形成のための知識と応用力を高めることを目標とする。基礎研究として、繊研新聞や業界雑誌、資料などを使用し、アパレル企業の業績、内容、ブランド力について考察する。さらに、マーケットリサーチなども行い、アパレル商品企画の基本を学び、シーズンごとの企画書作成を行いながら、ブランディング手法を身につける。	
	販売論	本授業は、ファッションショップの販売員や店長がどのような業務を行うことで店舗の経営が成立しているのかについて、その概略を理解することを目標とする。ラグジュアリーブランド（高級ブランド）、セレクトショップ、ファストファッションといったファッションショップの業態（営業形態のタイプ）の違いを理解したうえで、ショップの仕事10項目について、意見を出し合いながら議論形式でその内容を身につけることができるようにする。また、人気ブランドショップの事例を基にして理解を深める。	
	ショップ経営学	本授業では、小売業において店長など店舗経営を任される立場についた場合に必要となる経営の基本を習得することを目標とする。具体的には、企業に就職した場合に役立つ専門的な基礎知識から、自身で経営者となりブランディングする際に必要となる知識までを身につけていく。実際にショップ経営計画を作成しながら、店舗が発展していくために必要なオリジナリティーのある店舗戦略、論理的な考え方、利益の出し方、計数の見方などを身につける。	
	ファッション心理学	本授業は、人間と服装の関係性を心理学を中心に社会科学的な側面から明らかにし、理解することを目標とする。着装、購買、選択などの服飾に関する行動における心理的、社会的機能に着目し、心理学、社会学、社会心理学の基礎理論を基に社会科学的な観点からファッションを捉え、服飾と自己、他者との関係性における心理的なアプローチの方法を身につける。さらに、モノとしてのファッションという捉え方ではなく、ファッションが普段の生活での人との関わりの中でどのように捉えられているのかについて考察する。	
	ドローイング演習	本授業では、デザイン画を描くために必要な、衣服を身につける人間のプロポーション、体重移動の表現、顔やヘアスタイルの描き方を習得することを目標とする。鉛筆書きや画材を使用しての着色技法等の基礎を実践を通して学び、トレンドや個々のテーマに基づいたファッション表現ができるようドローイングの能力を高めていく。なお本学科でのデザイン画は、芸術性という観点ではなく、実用性および衣服製作への発展性という観点から身につけるべきものとして位置づけている。	
	パターンメイキングⅠ	本授業は、衣服の構造を理解し、パターンの基礎能力及びパターン展開力を習得することを目標とする。まず、パターン製作に必要な基礎知識（各部名称、採寸方法、定規の使い方等）、身頃原型、ダーツの移動と分散などダーツ展開の基礎と応用を習得し、次に平面と立体の関係性の理解、軽衣料（シャツ・ブラウス・ワンピース）のダーツやボリューム展開の実践、トワル作成（試し布で作る雛形）とシルエット確認、最後にパンツの原型作成、パンツのバリエーションを学ぶことで、パターンの基礎能力及びデザインに応じたパターン展開力を高める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	パターンメイキングⅡ	本授業は、衣服の構造を理解し、パターンの基礎能力及びパターン展開力を高めることを目標とする。スカートのバリエーション（ヨークスカート、マーメイドスカート）、ブラウスのバリエーション（フラットカラー、台襟付きシャツカラー）と衿、袖のパターン、さらに重衣料（ジャケット）のパターン、テーラーカラー、衿とラペルの展開、二枚袖のパターンを、実践を通して習得する。最後に自分でデザインしたブラウスとスカートのパターン作成を行い、パターンの基礎能力及びデザインに応じたパターン展開力を一層高める。	
	創作研究Ⅰ	本授業は、衣服製作の全過程のうち、コンセプトメイキング、テーマ設定、マーケットリサーチ、デザインまでの過程について理解を深め実践力を習得することを目標とする。まず、各自のファッションコンセプトメイキングを行い、テーマを設定の上 、ターゲット選定、キーワード設定、マーケットリサーチを行い、テーマに沿った洋服のデザイン二ングを行う。また、デザインした洋服をデザイン画などで視覚化し、デザインプレゼンテーションを行うことで、プレゼンテーション能力を高めるとともに、自己のデザインの省察を行いながら、パターン製作へとつなげていく。	
	創作研究Ⅱ	本授業は、衣服製作の全過程のうち、パターンメイキング、チェック、サンプリング、ショー形式でのブランド発表までの過程について理解を深め実践力を習得することを目標とする。具体的にはパターンメイキング、ドレーピング、パターンチェック、工業用パターン作成、サンプリング、モデルフィッティングでパターンを正確に仕上げた後、作品縫製及びアクセサリー、メイク、ヘアメイク等トータルコーディネート、作品発表のためのファッションショーの企画、構成、運営までの過程を経験し、俯瞰的視野を身につける。	
	CAD演習	本授業は、アパレルCADを使用し、コンピューターによる製図作成法の基本を身につけることを目標とする。CADを使用するメリットである効率化、正確性、パターン管理のし易さ等を、1年次に身に付けた型紙を用いたパターンと比較しながら理解する。両者の特徴を把握した上で実践的なCADの技術を学ぶ。具体的には、パターンメイキングからグレーディング、マーキングまでの工程を理解し、その技術を習得する。	
	デザイン表現実習Ⅰ	本授業は、洋服をデザインするための基礎を習得することを目標とする。まずプリント柄作成を通して色に関する基本的な知識を身に付ける。次に、トレンドのリサーチを行い、色や柄、シルエットやボリューム等作成するスカートのデザインの構想を練る。人体の仕組みや基礎的な着色方法等の基本を確認しながら、個々のテーマに基づいてスカートを作成する。平面図や着色を含む仕様書まで作り、ポートフォリオにしてプレゼンテーションを行い、知識、技術の省察を行う。	
	デザイン表現実習Ⅱ	本授業は、各洋服をデザインする上で必要な知識、技術の習得を目標とする。シャツ、ブラウス、ワンピースなどの軽衣料とジャケット、コートなどの重衣料について定義や歴史、市場での流行などをリサーチし、デザインする上で必要となる知識を習得する。また3D研究を通し、各洋服のディテールやデザインポイントを明らかにする。こうした知識を踏まえ、平面図や着色を含めデザイン画を描くための技術を実習を通して身につけ、個々のコンセプトに合わせた現代的な洋服をデザインする能力を高める。	
	生活造形実習Ⅰ	本授業は、1年次の実習で習得した縫製の基礎知識と技術を生かし、バッグ（トートバッグ）の製作を通し、ファションに欠かかすことの出来ないアイテムを製作するための基礎的な技術の習得を目標とする。単に製作するに留まらず、出来上がったアイテムにリメイクを施す、コサージュなどの小物を製作する等付加価値の付け方についても学習する。出来上がった作品は、実際に着装の上、コーディネートを踏まえた発表を行う。以上の製作、発表を通じ、衣装ファッションだけでなく、トータルファッションを幅広く扱えるための感覚と基礎技術力を高める。	
	生活造形実習Ⅱ	本授業では、生活造形実習Ⅰにおいて修得したアイテム製作の基礎的な技術を生かし、帽子及びスカートの製作を通して一層の技術を身に付けることを目標とする。前半は帽子を製作するが、単に製作するに留まらず、出来上がった作品にリメイクを施して付加価値を付ける力を磨く。また、後半は、これまでに習得した技術をさらに応用し、パンツをスカートにリメイクしたオリジナルスカートの製作を目指す。同時に、リメイク製作に使える手芸テクニック（刺繍、スモッキング等）についてもその技術を習得し応用力を身につける。	
	フェースメイク演習	本授業では、単にビューティアップを目的としたメイクではなく、皮膚の構造からスキンケア、フェースメイクの基本を学び、目的・用途・ファッションテイストに合わせたメイク技術を習得することを目標とする。 ファッションをトータルで表現し完成させるにあたり、ファッション、メイク、ヘアースタイルは密接な関係にあり、お互いが重要であることを理解しなければならない。授業では、常にファッションとの関連を意識しながら、ファッション全体の中でのメイクの位置付けを理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ﾌｧｯｼｮﾝｱｲﾃﾑ演習	本授業ではファッションコーディネートに欠かせないアクセサリーや小物を実際にデザイン・製作する事を通して、ニードルフェルト・織等の技術を身につけ、ファッションアイテムの構造や性質についてを深めることを目標とする。現代の生活の中にはさまざまファッションアイテムがあふれているが、演習を通じて、単に製作技術を習得するだけでなく、それぞれのアイテムの特性について理解を深め、また素材に対する理解を深めることにより、衣服以外のファッションアイテムの知識をも含めファッションを総合的に考えることができるようにする。	
	ネールアート演習	本授業では、ネイルをメイクすることに焦点を絞り、ネイルの健康と特徴を理解した上で「ネイルテクニックの基本であるネイルケアの基礎知識」「ネイルの正しい基礎知識」「基本のネイルアートを学びテーマを表現する力」を習得することを目標とする。ファッションをトータルで表現し完成させるにあたり、ファッション、メイク、ヘアースタイルは密接な関係にあり、お互いが重要であることを理解しなければならない。常にファッションとの関連を意識しながら、ファッション全体の中でのネイルの位置付けを理解する。	
	ファッションコーディネート論	本授業は、日常生活において、T.P.Oに沿い且つ似合う服装について、素材、デザイン、色彩、ライフスタイルの観点から、ファッションコーディネートの基本について理解し、実践できる技術を身につけることを目標とする。現代の着装の基本について、公的な場と私的な場における服装規範を考慮し、場面に適応し、流行を採用しつつ、その人の個性を最大限にひきださせ、他者とのコミュニケーションを円滑にするための着装方法について、実践を織り交ぜながら、理解を深め、技術を身につけていく。	
	ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ論	本授業では、ブライダル業界の内容、結婚にまつわる基礎知識（挙式･披露宴の流れや一般常識）について学ぶことを目標とする。ブライダルは伝統的な知識も必要であるが、一方では時代の流れに応じたニーズや流行の変化を捉えることも必要である。こうした基本的な知識の習得の下、実践を織り交ぜながらホスピタリティやプランニング力を身につける。また、グループで協力しあう内容を取り入れながら、協調性や提案力を身につけることもめざす。	
	ヘアメイク演習	本授業では、ヘアーアレンジの基礎知識及び技術を身につけることにより、ファッションと合わせたセルフプロデュースが出来るようになることを目標とする。ファッションをトータルで表現し完成させるにあたり、ファッション、メイク、ヘアースタイルは密接な関係にあり、お互いが重要であることを理解しなければならない。常にファッションとの関連を意識しながら、ファッション全体の中でのヘアメイクの位置付けを理解する。	
	ﾃｷｽﾀｲﾙ基礎実験	本授業では、被服の整理分野と材料分野に関して、その基礎的な取扱いや性質について実験を通じて学び、後に開講される被服整理学実験、材料学実験の導入となる基本的な知識を習得することを目標とする。 授業は、クラスを2つに分け、何れのクラスも整理分野と材料分野について各7回の授業を実施する。 （オムニバス方式／全１５回） （１　澤田和也　７回） 繊維の洗浄性と界面活性剤との関係及び、基礎的な染色性を実験を通して理解する。 （５　淺海真弓　７回） 繊維の形態や燃焼性などの基本的性質及び、基礎的な性能評価を実験を通して理解する。 （１　澤田和也　・　５　淺海真弓　／１回）（共同） 授業概要の説明と基礎知識の確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
	色彩学	本授業は、普段、何気なく目にしている風景や物体の色が持つ働きについて考え、日常の生活の中で活用することのできる色彩の知識や配色技法を身につけることを目標とする。「なぜ色が見えるのか」に始まり、混色の種類や色の表示法、色の心理的効果や視覚効果、配色理論に基づいた様々な配色について演習を交えながら学習する。以上の色彩に関する基礎の下、アパレル・ファッション分野における色の役割と活用事例について学び、色が日常生活の様々な場所で非常に重要な役割を担っていることを理解する。	
	染色加工学	本授業では、日常生活と密接に関連している衣料品の染色に付いての理解を深めるため、周辺領域（色・染料・堅牢性・伝統染色・加工など）を含め、染色全般に関しての知識を身に着けることを目標とする。身のまわりには非常に多くの染色製品があり、その色彩はデザインや柄と共に衣料品を評価する際の重要な要素である。一方、染色手法やメカニズムは多岐にわたり、その結果、色落ちや退色等に繋がっている。そこで、特に日常の衣生活と関連の深い繊維の色と堅牢性については重点を置いて解説し、退色の実例について原因を推測するこが出来るようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	衣環境学	本授業では、人間 - 衣服 - 環境の関係を総合的に捉え、着衣によって人体の生理機能がいかに影響されるのかを明らかにして理解することを目標とする。衣服は常に人間の皮膚を覆い、皮膚と接触するものであり、生理・心理・健康に大きな影響を及ぼしている。さらに衣服は個人ごとに、また季節や衣服の種類ごとにポータブルな環境を作り出していると言える。衣服の持つ種々の機能を理解し、人間にとって快適で健康な衣環境をデザインするための基礎力を身に付けることで、今後の衣環境生活を快適に過ごすための知恵を学ぶ。	
	住居学	本授業では、住居の歴史や様式、設計、環境問題や社会問題などの概略を総合的に学び、また人間が生活を営む場所である「住環境」を、居心地（快適性）、美しさや清潔感（デザイン性）、使いやすさ（機能性）などの観点から検証し理解を深めることを目標とする。家族の理想的な暮らし方や環境の問題を考えることにより、「住居」は、日常生活をより豊かにすることが出来る。そのため、快適な住生活を維持するための基礎的知識を習得し、現代に求められる住居について考え、その答えを自ら考える力を身につける。	
	ｲﾝﾃﾘｱｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ論	本授業は、様々なインテリアの色彩・素材・空間に関する基礎知識を習得して、心地よい暮らしの空間の提案や創造ができる技術を身につけることを目標とする。インテリアコーディネートに必要な基礎知識（色彩、照明、仕上材、建具、ウィンドウトリートメント等）を身につけ、空間のイメージや色彩を専門用語を使って正確に表現することができるようにする。また、空間を図面から読むことができ、図面を使って表現できる力を養う。	
	ファッション文化論	本授業は、西洋と日本の服飾の歴史や世界の民族服から、服飾デザインや服飾の変遷が時代性や文化とどのような関係性にあるのか、また現代ファッションにどのように影響を及ぼしているのかについて理解を深めることを目標とする。時間軸と空間軸における2つの軸の接点から、現代ファッションを再考し、ブレーンストーミングやKJ法を用いて、現代ファッションにおける課題を発見し、解決方法について考える力を身につける。	
	調理学実習Ⅰ	本授業は、調理技術を学ぶ上での第一ステップとして、基本的な知識・技術の習得を目標とする。日本料理・西洋料理、及び中国料理における定番メニューの調理を行いながら、調理の基本を実践を通して学ぶと共に、ジャンルを越えた基本的な調理作業のポイント、並びに各素材の持つ調理特性とその取り扱い方法を学び、それらの知識・技術を活用することにより、あらゆる料理の調理を可能にする。また、調理作業のみならず、基本的な盛り付けの際のポイントの習得も目指す。	
	調理学実習Ⅱ	本授業は、調理技術を学ぶ上での第二ステップとして、調理学実習Iで学んだ調理の基本をベースに、よりレベルの高い知識・技術の習得を目標とする。その為、日本料理・西洋料理、及び中国料理における応用メニューの調理を行いながら、調理の応用を実践を通して学ぶと共に、ジャンルを越えた応用的な調理作業のポイントを学び、それらの知識・技術を活用することにより、様々なジャンルの料理の調理やオリジナルメニューの作成をめざす。	
	繊維加工学	本授業は、日々進歩している繊維製品の機能性を付与するためのさまざまな加工技術を理解することを目標とする。そのため、既に学んだ繊維素材の知識（アパレル繊維学およびアパレル材料学）、取扱いの知識（被服整理学）、および染色と色に関する知識（染色加工学及び色彩学）の全てを基礎にして、それらの基礎技術の上に最先端の繊維加工技術がどのような経緯で発展してきたかを含め、繊維加工の理論や活用の実際を学ぶ。最終的には、繊維加工の将来としてどのような方向性が期待されるかを考えることができるようにする。	
	衣環境学実験	本授業は、人間 - 衣服 - 環境系の関わりについて、衣環境学の講義および他のアパレル関連の講義で得た知識を基礎とし、科学的検証として実験を通しそれらを確かめ、理解を深めることを目標とする。具体的には、衣環境学で学んだ基礎知識を中心に、外部環境が変化した場合に、着衣により人体の生理機能がいかに応答するかを種々の方法で実験する。そして、それらの実験結果の発表や議論を通じて、衣環境に対する理解を一層深める。	
	材料学実験	本授業では、アパレル繊維学、アパレル材料学で学んだ被服素材への理解を、実験を通して深めるとともに、将来、繊維製品を扱う様々な現場で活躍できるよう、被服材料の試験に関する技術を身につけることを目標とする。前半の実験では繊維の鑑別の基礎となる諸性質の測定法を学んだ後、テキスタイル基礎実験で習得した手法も活用して、未知試料の鑑別を実践する。後半の実験では、糸や布に対してJIS規格に基づいた各種性能評価試験機による測定を行い、その操作方法と評価法を習得する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	被服整理学実験	本授業では、繊維製品や染料の取扱いに関する専門知識を習得し、必要に応じて適切な方法で性能試験を行うことの出来る能力を育成することを目標とする。１年次のテキスタイル基礎実験で修得した被服整理に関する内容を基礎に、JIS規格に準じた精度の高い実験評価を行い、将来衣料品扱いの現場で通用する技術を身に着ける。実際に、種々の特性を持った染料を用いて、種々の白布に対して染色を行い、その堅牢性（紫外線、摩擦、洗濯等）を様々な手段で評価すると共に、日常の衣生活における着用と染色堅牢度との関係を科学的に理解する。	

① 都道府県内における位置関係の図面

大阪府

滋賀県

セミナーハウス
滋賀県大津市和邇北浜天川519

②　最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面
大阪成蹊短期大学

■阪急相川駅より東へ 200m。

■地下鉄今里筋線井高野駅から西へ 850m。

■JR 京都線吹田駅下車。阪急バス（31-86 系統）乗車。阪急相川下車。東へ 250m。

■ 阪急京都線（地下鉄堺筋線乗り入れ）
大阪「梅田駅」から「相川駅」下車
京都「河原町駅」から特急・急行で「高槻市駅」で普通に乗り換え、「相川駅」下車

■ JR京都線
「吹田駅」から阪急バスで「相川駅停留所」下車
「摂津富田駅」下車　徒歩2分で阪急「富田駅」から梅田行き、天下茶屋行きで「相川駅」下車

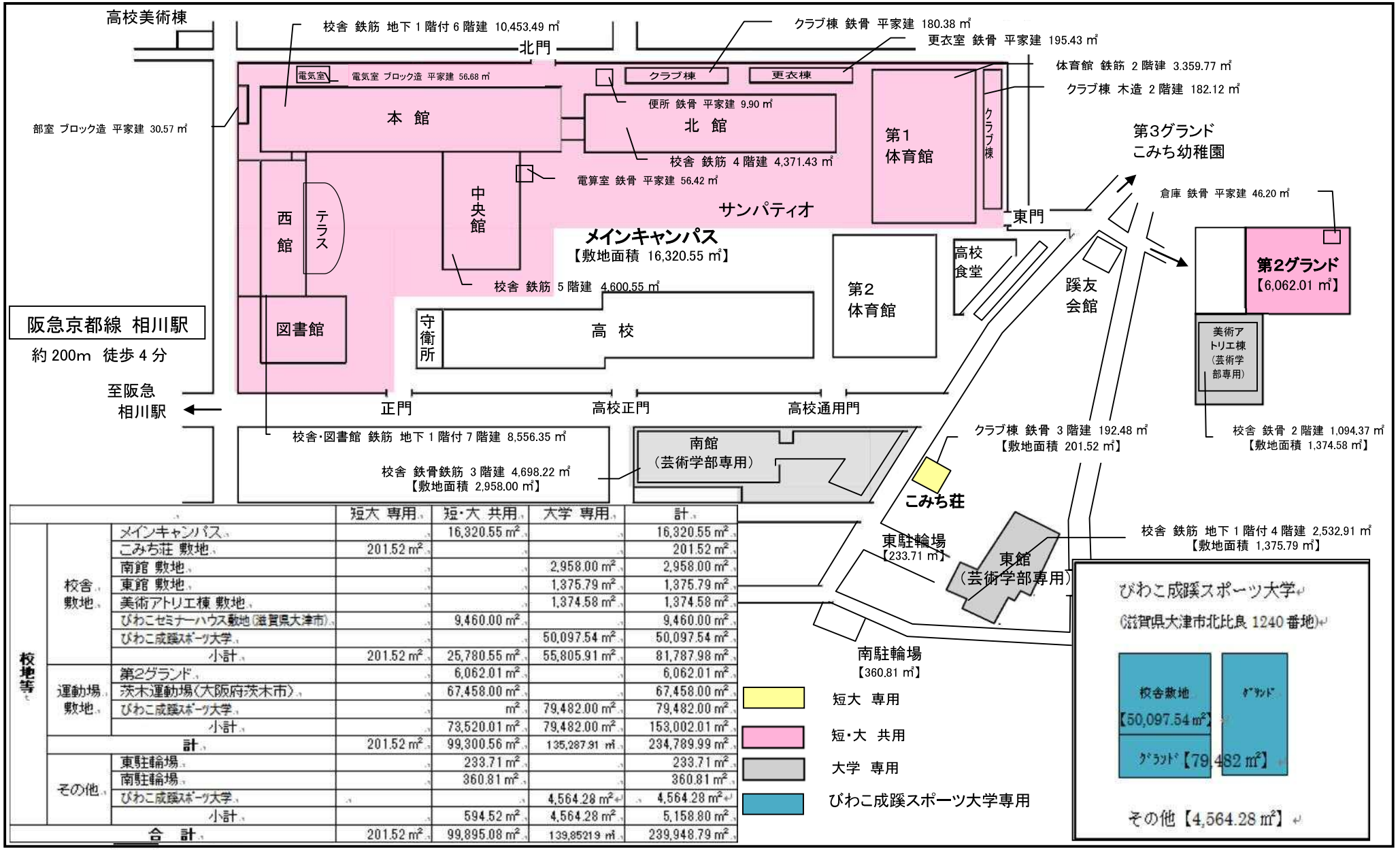
■ 地下鉄今里筋線
JR学研都市線「鴫野駅」で地下鉄今里筋線「鴫野駅」と連絡、京阪本線「関目駅」で地下鉄今里筋線「関目成育駅」と連絡、「井高野駅」下車　西へ850m

■ 京阪電車
「北浜駅」から地下鉄堺筋線高槻市行きで「相川駅」下車
「門真市駅」からモノレールで「南茨木駅」下車　阪急京都線に乗り換え、「相川駅」下車

■ 近鉄電車
「日本橋駅」から地下鉄堺筋線高槻市行きで「相川駅」下車

■ 南海電車
「天下茶屋駅」から地下鉄堺筋線高槻市行きで「相川駅」下車

③ 校舎、運動場等の配置図



			短大 専用	短・大 共用	大学 専用	計
校地等	校舎敷地	メインキャンパス		16,320.55 ㎡		16,320.55 ㎡
		こみち荘 敷地	201.52 ㎡			201.52 ㎡
		南館 敷地			2,958.00 ㎡	2,958.00 ㎡
		東館 敷地			1,375.79 ㎡	1,375.79 ㎡
		美術アトリエ棟 敷地			1,374.58 ㎡	1,374.58 ㎡
		びわこセミナーハウス敷地（滋賀県大津市）		9,460.00 ㎡		9,460.00 ㎡
		びわこ成蹊スポーツ大学			50,097.54 ㎡	50,097.54 ㎡
		小計	201.52 ㎡	25,780.55 ㎡	55,805.91 ㎡	81,787.98 ㎡
	運動場敷地	第2グランド		6,062.01 ㎡		6,062.01 ㎡
		茨木運動場（大阪府茨木市）		67,458.00 ㎡		67,458.00 ㎡
		びわこ成蹊スポーツ大学		㎡	79,482.00 ㎡	79,482.00 ㎡
		小計		73,520.01 ㎡	79,482.00 ㎡	153,002.01 ㎡
	計		201.52 ㎡	99,300.56 ㎡	135,287.91 ㎡	234,789.99 ㎡
	その他	東駐輪場		233.71 ㎡		233.71 ㎡
		南駐輪場		360.81 ㎡		360.81 ㎡
		びわこ成蹊スポーツ大学			4,564.28 ㎡	4,564.28 ㎡
		小計		594.52 ㎡	4,564.28 ㎡	5,158.80 ㎡
合 計			201.52 ㎡	99,895.08 ㎡	139,852.19 ㎡	239,948.79 ㎡

大　阪　成　蹊　短　期　大　学　学　則

第 1 章　　総　　則

（名称）

第 1 条　本学は大阪成蹊短期大学と称する。

（目的）

第 2 条　本学は人間の徳を涵養する成蹊の名を体し、幅広く、深い教養と総合的な判断力を養い、豊かな人間性を育てるとともに、専門的な学芸教授と実際的な専門職業教育に重きを置く大学教育を施し、優秀な社会人を育成することを目的とする。

（自己点検・評価）

第 3 条　本学は教育水準の向上を図り、目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2　前項の点検及び評価を行うにあたっての項目の設定、実施体制等については別に定める。

（学科、学科の目的及び学生定員）

第 4 条　本学において次の学科を置く。

生活デザイン学科

調理・製菓学科

栄養学科

幼児教育学科

観光学科

グローバルコミュニケーション学科

経営会計学科

2　前項の学科における教育研究目的は次の各号に掲げる通りとする。

(1) 生活デザイン学科

生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する。

(2) 調理・製菓学科

食の領域において豊かな食生活を探求し、フードサービス業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する。

(3) 栄養学科

栄養の領域において、健康で快適な食生活をサポートできる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する。

(4) 幼児教育学科

幼児教育を専門とするところの技術と知識を高め、豊かな人間性を育み、常に探究心を持って将来教育・保育に携われる人材を育成する。

(5) 観光学科

観光ビジネスを理解し、21 世紀の観光・ツーリズムの推進を担う、ホスピタリティ・サービス精神、コミュニケーション力、実務力を身につけた人材を育成する。

(6) グローバルコミュニケーション学科

言語表現、絵画、映像、身体パフォーマンスなどを学び、クリエイティブな発想力、コミュニケーション力、表現力を持った社会人としてグローバルに活躍できる人材を育成する。

(7) 経営会計学科

ビジネス社会を構成する一員として社会を支えることができる、社会人基礎力と実践的なビジネス実務能力を身につけ、円滑な人間関係を築ける心豊かな人材を育成する。

3　前項の各学科の学生定員は次の通りとする。

学　　科	入学定員	収容定員
生活デザイン学科	５０	１００
調理・製菓学科	１２０	２４０
栄養学科	１２０	２４０
幼児教育学科	３００	６００
観光学科	９０	１８０
グローバルコミュニケーション学科	３０	６０
経営会計学科	５０	１００
合　　計	７６０	1,５２０

第 2 章　教 職 員 組 織

（教職員）

第 5 条　本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手及び事務職員を置く。職員の定員は別に定める。ただし、教育研究上の組織編制として適切と認められる場合は、准教授、講師、助教又は助手を置かないことができる。

2　本学に、前項のほか、副学長、技術職員その他必要な職員を置くことができる。

（職務）

第 6 条　学長は本学を代表し校務を掌り、所属教職員を統括する。教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。講師は教授及び准教授に準ずる職務に従事する。

2　その他の事務職員等の職務については、別に定める。

第 3 章　教　授　会

（教授会）

第 7 条　本学に教授会を置く。教授会は学長、専任の教授、准教授、講師及び助教をもって組織する。教授会は学長がこれを招集し、その議長となる。学長に支障あるときは、その指名により他の教授がこれに代わる。教授会は必要に応じ専任の教授、准教授、講師及び助教以外の職員を陪席させることがある。

（教授会の審議事項）

第 8 条　教授会は、学長が次に揚げる教育研究に関する事項について決定を行うにあたり審議し意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び卒業に関すること。

(2) 学生の学位の授与に関すること。

(3) その他本学の教育研究に関する重要な事項

2　教授会の審議事項を専門的に審議するため、専門委員会等を置くことができる。

3　教授会の運営に関する事項は別に定める。

第 4 章　入学、退学、休学、復学、転学、除籍、復籍

（入学資格）

第 9 条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）

(3) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程

を修了した者

(5) 専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定（以下「旧検定」という。）に合格した者を含む。）

(8) 学校教育法第 90 条第 2 項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

(9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳に達したもの

（入学の出願）

第１０条　本学に入学を志願する者は所定の手続きを行わなければならない。

２　入学志願の手続きは別に定める。

（入学者の選考）

第１１条　入学志願者は別に定めるところにより選考を行う。

（入学手続き）

第１２条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は所定の入学手続きを行わなければならない。

２　入学の手続きは別に定める。

（入学の時期）

第１３条　本学入学の時期は毎年４月又は１０月とする。

（休学及び退学）

第１４条　病気その他やむを得ない事由により、退学又は休学しようとする者は保証人の連署をもって願い出て、学長の許可を受けなければならない。

２　疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は、休学を命ずることができる。

（休学の期間）

第１５条　休学の期間は１年を超えることができない。ただし、特別の事由があるときは学長は１年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

２　休学の期間は通算して２年を超えることができない。

３　休学期間は第 24 条に定める在学年限に算入しない。

（復学）

第１６条　休学期間中にその理由が消滅した場合には、保証人の連署をもって願い出て、学長の許可を得て復学することができる。

（再入学及び転入学）

第１７条　本学に再入学又は転入学を志願する者があるときは、欠員の有る場合に限り、選考の上、教授会の審議を経て、学長は相当年次に入学を許可することがある。

２　前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、教授会の審議を経て学長が決定する。

（転学）

第１８条　本学から他の大学に転学しようとする者は事由を具し、願い出て学長の許可を受けなければならない。

（除籍）

第１９条　次の各号の一に該当する者は、教授会の審議を経て学長が除籍する。

(1) 授業料その他の学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(2) 休学期間終了までに復学、休学延長、退学のいずれの手続きも取らない者

(3) 第 24 条に定める在学年限を超える者

(4) 第 15 条第 2 項に定める休学期間を超えて、なお修学できない者

(5) ２年以上にわたって行方不明の者

（復籍）

第２０条　前条（1）により除籍となった者が復籍を希望する場合は、学長の許可を得て復籍することができる。

第　5　章　　学期及び休業日

（学年及び学期）
第２１条　学年は４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わる。
２　学年を次の２学期に分ける。
前期　４月１日から９月 30 日まで
後期　10 月１日から翌年３月 31 日まで
３　前項の規定にかかわらず、学長は学期ごとの授業の開始日及び終了日について、変更することができる。
（1 年間の授業期間）
第２２条　１年間の授業日数は定期試験等の日数を含め３５週にわたるものとする。
（休業日）
第２３条　本学の休業日を下記の通り定める。
(1) 日曜日
(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
(3) 本学園記念日　4 月 20 日
(4) 春期休業日　　3 月 1 日から 3 月 31 日まで
(5) 夏期休業日　　8 月 1 日から 9 月 30 日まで
(6) 冬期休業日　　12 月 25 日から 1 月７日まで
２　必要がある場合、学長は前項の休業日を臨時に変更することができる。
３　第１項に定めるもののほか、学長は臨時の休業日を定めることができる。

第　6　章　　修業年限及び学習の評価、課程修了認定に関する事項

（修業年限）
第２４条　本学の修業年限は２年とし、４年を超えて在学することはできない。
（卒業）
第２５条　本学に２年以上在学し、本学の定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定する。
（学位）
第２６条　前条の規定により卒業した者には、本学学位規程の定めるところにより短期大学士の学位を授与する。
（試験）
第２７条　試験は学期末又は学年末にその履修した科目について、筆答、口述、論文、実技等によって行う。
（単位の授与）
第２８条　各授業科目の学習の評価は秀、優、良、可、不可をもって表し、可以上を合格と認め、所定の単位を与える。

第　7　章　　教育課程及び履修方法

（教育課程の編成方針）
第２９条　本学は、学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。
２　本学の授業科目を分けて、共通科目、学科科目、自由科目、他大学における履修科目とし、必修科目及び選択科目に分ける。
３　授業科目及び単位数並びに履修の方法については、履修に関する規程に定める。
（教育課程、司書教諭課程及び司書課程）
第３０条　前条に定めるもののほか、教職、教科又は教職、司書教諭及び司書に関する科目を置く。
（単位）
第３１条　各授業科目の単位数は、1 単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて 45 時間とし、次の基準により計算するものとする。
(1) 講義については 15 時間の授業をもって１単位とする。ただし、別に定める授業科目については 30 時間の授業をもって１単位とする。
(2) 演習については 30 時間の授業をもって１単位とする。ただし、別に定める授業科目については 15 時間の授業をもって１単位とする。
(3) 実験、実習及び実技については 45 時間の授業をもって１単位とする。ただし、別に定める授業科目については 30 時間又は 40 時間の授業をもって１単位とする。

（履修単位）

第３２条　各学科においては履修に関する規程にしたがって、共通科目 12 単位以上、学科科目・自由科目 50 単位以上合計 62 単位以上を修得しなければならない。

２　一学期に履修科目として登録することができる単位数の限度を定める。

（本学の履修とみなす学修）

第 32 条の２　本学において教育上有益と認めるときは、次の各号の一に規定する修得単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(1) 学生が本学に入学する前に短期大学又は大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位

(2) 他の短期大学又は大学との協議により、学生が他の短期大学等で履修した単位

(3) 本学が認めた外国の短期大学又は大学への留学により得た学習成果

(4) 学生が行なう短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修（入学前の学修を含む。）により修得した単位

２　前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

（本学の履修とみなす学修の単位数）

第 32 条の３　第 32 条の２の規定により、第 32 条の２の第１号、第 2 号、第 4 号をあわせて３０単位、第 32 条の２の第 2 号、第 3 号、第 4 号をあわせて３０単位、第 32 条の２の第１号、第 2 号、第 3 号、第 4 号をあわせて４５単位を超えない範囲で単位の認定を行うものとする。

（教育職員免許状）

第３３条　教育職員免許状を取得しようとする者は、第 32 条の規定によるほか教育職員免許法及び同法施行規則に規定された単位を修得しなければならない。

２　教育職員免許状取得に関する細則は別に定める。

（司書教諭課程修了証書）

第３４条　司書教諭課程修了証書を取得しようとする者は、第 32 条並びに第 33 条各項の規定によるほか、学校図書館法及び学校図書館司書教諭講習規程に規定された単位を修得しなければならない。

２　司書教諭課程修了証書に関する細則は別に定める。

（栄養士免許証）

第３５条　栄養士免許証を取得しようとする者は、第 32 条の規定によるほか栄養士法及び同法施行規則に規定された単位を修得しなければならない。

２　栄養士免許証取得に関する規程は別に定める。

（調理師免許証）

第３６条　調理師免許証を取得しようとする者は、第 32 条の規定によるほか調理師法及び同法施行規則に規定された単位を修得しなければならない。

２　調理師免許証取得に関する規程は別に定める。

（保育士証）

第３７条　保育士証を取得しようとする者は、第 32 条の規定によるほか児童福祉法施行規則第 39 条の２第１項第３号に規定された単位を修得しなければならない。

２　保育士証取得に関する規程は別に定める。

（司書課程修了証書）

第３８条　司書課程修了証書を取得しようとする者は、第 32 条の規定によるほか図書館法及び同法施行規則に規定された単位を修得しなければならない。

２　司書課程修了証書取得に関する規程は別に定める。

（取得できる資格）

第３９条　各学科において取得できる資格は次の通りである。

学　科	免　許　状　等　の　種　類	
	免　許　状　等	免許教科
生活デザイン学科	中学校教諭二種免許状	家　　庭
	司書教諭課程修了証書	
調理・製菓学科	調理師免許証	

栄　養　学　科	栄養士免許証	
	栄養教諭二種免許状	
幼 児 教 育 学 科	幼稚園教諭二種免許状	
	保育士証	
グローバルコミュニケーション学科	中学校教諭二種免許状	国　語
	司書教諭課程修了証書	
生活デザイン学科 調 理 ・ 製 菓 学 科 栄　養　学　科 幼 児 教 育 学 科 観　光　学　科 グローバルコミュニケーション学科 経 営 会 計 学 科	司書課程修了証書	

第　8　章　　学　　費

（入学検定料、入学金、授業料等及び納付方法）

第４０条　入学検定料、入学金、授業料その他学生の負担すべき金額及びその納付方法は下記の通り定める。

(1) 入学検定料　　3 万円

(2) 入学金　　25 万円（入学時）

(3) 授業料

生活デザイン学科、調理・製菓学科、栄養学科、幼児教育学科　102 万円（前期 51 万円･後期 51 万円）

観光学科、グローバルコミュニケーション学科、経営会計学科　96 万円（前期 48 万円･後期 48 万円）

ただし、別に実験・実習費は若干額を徴収することがある。

２　授業料は２期に分納するものとし、納付の時期は別に定める。ただし、特別の事情があると認められる者は、延納を認めることがある。

３　一旦収受した納付金は、返還しない。

（退学等の場合の授業料）

第 40 条の２　学期の途中で退学し、又は除籍された者の当該学期分の授業料は徴収する。

２　停学期間中の授業料は徴収する。

（休学等の場合の授業料）

第 40 条の３　休学を許可され又は命ぜられた者については､休学した月の翌月から復学した月の前月までの授業料を免除する。

２　休学者は、休学期間中の在籍料を納付しなければならない。

在籍料　年額　30,000 円

（復学の場合の授業料）

第 40 条の４　学期の途中で復学した者は、復学した月から当該学期末までの授業料を、復学した月に納付しなければならない。

（学年の途中で卒業する見込みの場合の授業料）

第 40 条の５　学年の途中で卒業する見込みの者は、卒業する見込みの月までの授業料を納付するものとする。

第　9　章　　図書館、厚生施設

（附属施設）

第４１条　本学に図書館、教育研究支援センター、保健センターを設ける。

２　図書館、教育研究支援センター、保健センターに関する規定は別にこれを定める。

第　１０　章　　賞　　罰

（表彰）

第４２条　学生として表彰に値する行為があった者は、教授会の審議を経て学長が表彰する。

（懲戒）

第４３条　本学の学則、規則に違反し又は学生の本分に反する行為のあった者は、学長は教授会の審議を経てこれを懲戒する。

（懲戒の種類）

第４４条　懲戒は次の３種とする。

(1)　譴　責

(2)　停　学

(3)　退　学

２　前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行う。

(1)　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2)　正当な理由がなくて出席常でない者

(3)　本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第 １１ 章　　委託生、科目等履修生、単位互換履修生、研究生及び外国人留学生

（委託生）

第４５条　公共団体その他の機関から本学に特定の学科につき修学を委託されたときは本学の教育に支障のない範囲において選考の上、教授会の審議を経て、学長は委託生として受諾することがある。

２　委託生に関して必要な事項は別に定める。

（科目等履修生）

第４６条　本学の授業科目につき聴講することを志願する者があるときは本学の教育に支障のない範囲において選考の上、教授会の審議を経て学長が科目等履修生として修学することを許可する。

２　科目等履修生に関して必要な事項は別に定める。

第 46 条の２　本学が他の短期大学又は大学との間で単位互換協定を結ぶことにより、該当する互いの学生が、単位互換履修生として授業科目を履修することができる。

２　単位互換履修生に関して必要な事項は別に定める。

（研究生）

第 46 条の３　本学の授業科目について研究することを志願する者があるときは本学の教育に支障のない範囲において選考の上、教授会の審議を経て学長は研究生として修学することを許可することがある。

２　研究生に関して必要な事項は別に定める。

（委託生及び科目等履修生の履修の証明）

第４７条　委託生及び科目等履修生はその履修した科目及び単位の証明を求めることができる。

（外国人留学生）

第４８条　外国人で、短期大学等において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、教授会の審議を経て学長が外国人留学生として入学を許可することがある。

２　外国人留学生について必要な事項は別に定める。

（交換留学生）

第 48 条の２　外国人で、本学と学生交流に関する協定を締結している外国の大学又は短期大学に在籍する者のうち、当該大学長よりの推薦を受けた者については、学長が交換留学生として許可することがある。

２　交換留学生について必要な事項は別に定める。

（準用）

第４９条　本学則の規定は特別の規定がない限り委託生・科目等履修生・単位互換履修生・研究生・外国人留学生及び交換留学生にもこれを準用する。

附　則　（略）

附　則（平成　　年　　月　　日）

本学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行し、平成 28 年度入学生から適用する。

１．　設置の趣旨及び必要性

【学科を設置する理由、必要性】

本学園は、昭和８年４月大阪府下吹田観音寺において、「女子にも教育を」との時代の要請に応え、「桃李不言下自成蹊（徳が高く、尊敬される人物のもとには徳を慕って人々が集まってくるという意味）」を建学の精神として、「高等成蹊女学校」を創設したことに始まる。昭和 23 年４月には学制改革により大阪成蹊女子高等学校と改称し、昭和 26 年４月には、大阪成蹊女子短期大学を開設した。同時に、本学科の前身となる家政科が国文科とともに開設された。その後、平成 15 年４月に男女共学化し、大阪成蹊短期大学と名称変更するまで、併設女子高校を含め ９ 万人以上の女子教育に多大な貢献をしてきた。同年の名称変更と同時に、家政科は総合生活学科と名称変更し、衣・食・栄養を学びの主軸として、生活デザインコース、食物コース、栄養コースを設けた。

その後、現在に至るまで、総合生活学科に設けた生活デザインコースでは、教育課程の改編等、様々に教育の充実を図ってきた。近年、生活デザインコースの専門領域である衣の領域に係る社会の動向をみると、衣の領域における専門職業人に対する需要は急速に高まってきている。

たとえば、矢野経済研究所「国内アパレル市場に関する調査結果 2014」によれば、2013 年のアパレル総小売市場規模は前年比 101.4%の９兆 2925 億円であった（巻末資料１参照）。品目別でみても、紳士服、婦人服、ベビー・子ども服のいずれも前年を上回っている。こうした市場規模の拡大に対して、特に販売職の人材不足が課題となっている。発行部数 20 万部のファッションビジネス専門誌「繊研」の電子版 2014 年９月５日の記事「売り手市場が顕著、厳しい採用環境」によれば、退職者の補充や出店に伴う人の手当てが追いつかず、昨年から高卒も含め新規採用枠を拡大する企業が増えており、昨今ファッションビジネスにおける就職セミナーの開催や参加企業が増えている（巻末資料２参照）。

以上のような、アパレル・ファッション業界における動向をみるに、デザインやファッション、スタイリングやコーディネートの知識を備えた人材の需要は、今後一層高まってくる。実際、それに呼応するように、近年、アパレル・ファッション業界に興味を持つ高校生の、現在の生活デザインコースを希望する高校生が増加傾向にある。

以上の社会の動向より、「衣」に関する高い専門性を持ち、アパレル・ファッション業界で活躍できる人材養成への社会的な要請の高まりに応えるため、教育研究の内容や育成する人材像をより明確にして、適切な教員配置の下、専門性を身につけた人材を養成する短期大学としての使命を一層重く担い、社会的な責任を果たしていくため、現在の生活デザインコースを基に、新たに生活デザイン学科を設置する。

【人材育成の目的】

生活デザイン学科では、生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた

良識ある人材を育成する。また、学科内には、「アパレル・スタイリストコース」「ファッションコーディネートコース」を設ける。「アパレル・スタイリストコース」では、素材やデザインに関する専門的な知識をはじめ、着る人の個性を表現するための豊かな感性を持ち、イメージを形に変えるために必要な知識と技術を身につけ、衣服デザイナーやスタイリスト等の衣服製作の専門性を修得した人材を育成する。また、「ファッションコーディネートコース」では、ファッションに関する総合的な知識を養い、TPO と流行を見極める感性と技術を身につけ、衣服等ファッションに係る販売の専門性を修得した人材を育成する。

以上の学科及び各コースにおける人材育成の目的に示された資質、能力を修得させ、当該人材を育成する。

【学問分野】

「繊維材料および加工に関する分野」「衣服制作分野」「アパレル消費・流通分野」を中心的な学問分野として研究対象とする。

【教育研究上の数量的・具体的な到達目標等】

日本衣料管理協会が認定する、アパレル・ファッション業界に通用する専門的な資格である、「2 級衣料管理士」の資格取得に関し、数量的な到達目標を設定する。この資格は、本学科の開講科目の中から、日本衣料管理協会が規定する内容を満たし、かつ有識者判定により適切であると認定を受けた全ての授業（17 科目 29 単位）の単位を修得することで、卒業時にその資格が得られる。

本学では、協会が提示する規程に従い、衣料管理士資格取得をめざす学生を「衣料管理士課程学生」として登録し、衣料管理士資格取得のバックアップを行っている。本学科では、同登録学生の資格取得率 100%を目標とする。

２． 学科の特色

平成 17 年中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」における「3 高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」では、高等教育のうち特に大学は、7 つの機能（1.世界的研究・教育拠点　2.高度専門職業人養成　3.幅広い職業人養成　4.総合的教養教育　5.特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究　6.地域の生涯学習機会の拠点　7.社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等)）を併有し、各大学は保有する機能や比重を選択しながら、個性・特色を明確化することで機能別に分化していくことが示されている。

生活デザイン学科は、上記機能のうち「4.総合的教養教育」、及び「専門職業人養成」の機能を重点的に担い、以下の特色を発揮する。なお、職業人養成に関して、本学科が担う機能を「専門職業人養成」としたのは、学科設置の趣旨に示した社会の求める人材を育成するにあたり、「（衣の領域に係る）専門職業人養成」機能を重点的に担うためである。

（１）衣の領域に係る専門性の修得

衣服を扱う者として必要な衣服の基礎（繊維・構成・衣環境等）及び食生活や住生活、家庭生活や育児生活等生活全般に対する基礎を身につけ、それらの基礎の上に、各コースにおける専門性をさらに高めていく。具体的には、「アパレル・スタイリストコース」では、衣服制作の理論と実践を通して、デザインだけではなく、機能性にも優れた衣服を生み出すための専門的な知識・技術・感性の修得をめざす。「ファッションコーディネートコース」では、おしゃれのプロフェッショナルとしてTPOを踏まえたコーディネートや衣服等ファッションに係る販売の専門的な知識・技術・感性の修得をめざす。

こうした専門性を発揮する機会として、卒業制作発表会（ファッションショー）を設ける。アパレル・スタイリストコースとファッションコーディネートコースの学生が協力し、準備・実行するが、デザインに始まり、染色、パターン、裁断、縫製、仕上げ、プレゼンテーション（ホームページ作成やブランドアピール）という、ファッション業界の流れ全体を凝縮した内容となっている。こうした機会を通し、2年間の学びの振り返りや修得した専門性の発揮、一層の実践力の修得、学修到達度の確認等を行う。

専門的な理論に留まらず、技術や感性といった実践力を修得することが、本学科の特色である。

（２）専門的な資格取得

本学科では、衣の領域に関する様々な資格の受験及び、在学中に所定の単位を修得することによる「2級衣料管理士資格」取得に対して、サポートを充実させ、学生が専門的な資格を取得することによって成長できる体制を整える。また、希望する学生には「中学校教諭二種免許（家庭）」「司書教諭資格」「図書館司書資格」の取得を可能にしている。

（３）教養教育の充実

本学の建学の精神である「桃李不言下自成蹊（徳が高く、尊敬される人物のもとには徳を慕って人々が集まってくるという意味）」のように「徳があり、人に慕われ、信頼される人」を育成することを教育の目標としており、新入生には、「成蹊基礎セミナー」で本学の建学の精神の理解を深め、このような人となることの重要性を認識させる。また、「ことばとコミュニケーション」、「健康・生命・環境をいつくしむ」、「世の中に眼を開く」、「人・心・生活をたずねる」、「就職・社会参加に取り組む」の5領域から10単位以上を選択し社会人として必要となる教養を身につける。

３．学科の名称および学位の名称

本学科では、生活全般に対する理解を深めながら、衣服に関する専門的な技術・知識を身に付け、おしゃれを創出し、日常生活を豊かに創造（デザイン）することをめざすため、学科名称を「生活デザイン学科」とする。学科英名称は、衣服の学びを中心とする教育課

程を反映するため、Faculty of Apparel Design とする。

学科英訳名称：Faculty of Apparel Design
学位名：短期大学士（生活デザイン）

４．教育課程の編成の考え方及び特色

本学では、幅広く、深い教養と総合的な判断力を養い、建学の精神「桃李不言下自成蹊（徳が高く、尊敬される人物のもとには徳を慕って人々が集まってくるという意味）」とその実践規範「忠恕（『忠』は誠実、『恕』は思いやりを表し、誠を尽くし人の立場になって考え行動するという意味）」にもとづいた豊かな人間性を育てるとともに、社会で活かせる実践力を身につけた専門職業人を育成することを教育目標に掲げている。

本学科において育成する専門職業人とは、生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる人材である。衣に係る一層の専門性としてアパレル・スタイリストコース、ファッションショーディネートコースの 2 コースを設定し、教育を実施する。

これら教育課程編成の基本方針の下、（１）共通科目（２）学科科目の区分を設け、次のとおり教育課程を編成する。

（1）共通科目

共通科目では、人間性や自己を取り巻く環境に対する深い関心と理解を持ち続け、自ら価値を見出し創造する力を身につける。一般的な常識や基礎学力を充実させるだけでなく、物事を総合的・主体的に捉え、考える力を身につける。

本学では、以下の 5 群で共通科目を構成している。

Ⅰ群：ことばとコミュニケーション
Ⅱ群：健康・生命・環境をいつくしむ
Ⅲ群：世の中に眼を開く
Ⅳ群：人・心・生活をたずねる
Ⅴ群：就職・社会参加に取り組む

Ⅰ群	**ことばとコミュニケーション** 言語を通じて他者への理解を深める
	Active English Ⅰ／Active English Ⅱ／TOEIC 演習 1／TOEIC 演習2／ 英語会話 1／英語会話 2／海外語学演習（英語）／海外語学演習（韓国語）／基礎韓

	国語 A／基礎韓国語 B／基礎中国語 A／ 基礎中国語 B／基礎日本語 A／基礎日本語 B
Ⅱ群	**健康・生命・環境をいつくしむ** からだと環境への関心を高める
	健康とスポーツ／体育講義／体育実技／暮らしと環境／基礎化学
Ⅲ群	**世の中に眼を開く** 社会への関心を高める
	社会福祉と暮らしの法／アジアの未来と日本／日本事情／美学／暮らしと経済／暮らしと金融／人権と社会／日本国憲法
Ⅳ群	**人・心・生活をたずねる** 文化を学び教養を身につける
	文学・歴史・宗教／人間学／人間と文化／日本の食文化／ホスピタリティー論
Ⅴ群	**就職・社会参加に取り組む** 社会で生きていくための実践力を身につける
	成蹊基礎セミナー／キャリアデザイン／ビジネスコミュニケーション／キャリア演習／コンピュータリテラシーA／コンピュータリテラシーB／情報処理概論

幅広い教養を身につけた人材を育成するため、Ⅰ群より外国語を 2 単位以上、Ⅱ～Ⅴ群より 10 単位以上の修得を卒業要件とする。なおⅤ群では、本学学生に求められる建学の精神や実践規範を身につけられるよう、「成蹊基礎セミナー」を必修とする。

配当年次については、Ⅰ群においては、1 年次に基礎英語として「Active English Ⅰ,Ⅱ」を配当し、希望に応じて 2 年間を通して学習できるよう英語会話等を配当している。また、英語以外の外国語に係る科目として、韓国語や中国語を学ぶことができるが、第 2 外国語として学ぶことを鑑み、2 年次に配当している。その他の群の科目については、2 年間の学びの中で広い教養を身につけた上での専門性の修得をめざすため、全て 1 年次に配当する。

（2）学科科目

コースの別なく必修とする学科科目として、日常生活を豊かに創造（デザイン）する上で必要な知識を総合的に身につける科目として「生活デザイン総論」を、2 年間の学びの基

礎となるよう１年次に開講する。その他の科目については、生活全般に対する基本的な理解を深める科目及び、「衣」の専門性を修得する科目（『衣服を知る』『科学的に検証する』『感性を磨く』『造形する』『デザイン力を養う』『ビジネスを知る』『キャリアを磨く』の７つのカテゴリーに分けられる）で構成される。

生活全般に対する基本的な理解を深める科目として、自立した心豊かな生活を創造するために必要な健康を支える食物について、その基礎知識を習得する「食物学」、社会の変化の中にあって主体的に家庭生活を営むために必要な基礎知識を習得する「家庭経営学」、家庭生活における子どもの成長・発達や、子どもの病気予防や看護についての基礎知識を習得する「保育学」、住生活の歴史を理解した上で快適な住生活を維持する上で必要な基礎知識を習得する「住居学」を開講する。これらは１年次から２年次にかけて開講し、食生活や住生活、家庭生活や育児生活の学習を通し、生活全般に対する基礎知識を習得できるよう教育課程を編成している。加えて、「調理学実習Ⅰ」「調理学実習Ⅱ」を開講し、中学校教諭二種免許状（家庭）の取得をめざす学生を中心に、基本的な調理技術を習得できるようにする。

また、「衣」の専門性を修得する科目として、以下の科目を開講する。

１年次

衣を扱う上での基本的な知識を習得するため、『衣服を知る』として、繊維素材全般についての基本的な知識を習得するための「アパレル繊維学」、継続的に衣服を着用する上で必要な、洗浄や保管に関する基礎知識を習得するための「被服整理学」、繊維の特徴を理解する上で必要な、素材・材料に関する基礎知識を習得するための「アパレル材料学」、生活行動と衣服内環境に関する基礎知識を習得するための「衣環境学」を開講する。これらの科目で習得した衣服の整理学的要素と材料学的要素の基本について、実験を通して理解を一層深められるよう、『科学的に検証する』として、「テキスタイル基礎実験」を開講する。また、『感性を磨く』として、ファッションの基本となる色に関する基礎知識や、色彩心理に関する基礎知識を習得するための「色彩学」、衣服を含めたトータルファッションを考える上で必要なフェースメイクの基礎知識・技術を習得するための「フェースメイク演習」を開講する。

さらに、『デザイン力を養う』として、古代から現代に至るファッションデザインの変遷や、ファッションデザインとマーケットとの関係等を理解するための「ファッションデザイン論」、ファッションデザイン画を描くための基礎技術を身につけるための「ドローイング演習」を開講する。また、『造形する』のカテゴリーでは、洋裁に関する基本工程を学ぶために、「アパレル設計実習Ⅰ」「アパレル設計実習Ⅲ」を、和裁に関する基本工程を学ぶために、「アパレル設計実習Ⅱ」および「アパレル設計実習Ⅳ」を開講する。

以上の「衣」に関する基礎的な知識・技術を習得する科目に加え、『ビジネスを知る』として、アパレル・ファッション産業について理解するための「ファッションビジネス概論」、ファッションショップの形態や基本的な業務について学ぶ「販売論」、ファション業界における個々のキャリアプランを早い段階で明確にするための「業界研究」を開講する。

また、『キャリアを磨く』として、将来の就職活動に向けての自己分析や社会人となるに必要な基本的な知識・態度等の習得に加え、業界で活躍する様々な方の話を聴き就業意欲を高められるよう「キャリアディベロップメント」を開講する。

２年次

1 年次に習得した衣を扱う上での基本的な知識の下、専門性を一層深められるよう、『衣服を知る』として、衣料品の染色について、その手法やメカニズムを化学的に理解するための「染色加工学」、繊維の特殊加工等について理解を深めるための「繊維加工学」を開講する。また、『科学的に評価する』として、衣服の取扱について、整理学的要素をもとに衣服の堅牢性を実験的に評価する「被服整理学実験」、材料学的要素をもとに衣服の強度や構造を実験的に評価する「材料学実験」及び、日常生活と衣服内環境に関連して衣服と生体との関連を実験により評価する「衣環境学実験」を開講し、実験を通して 1 年次の学びに対する理解を一層深められるようにする。加えて、『感性を磨く』のカテゴリーでは、ファッション文化の変遷を理解してトレンドを予測する能力を養うための「ファッション文化論」、衣服の着装・購買について社会心理学的に分析するための「ファッション心理学」を開講し、流行を読み解く感性を磨く。

以上の「衣」に関する一層の専門性を修得する科目に加え、『ビジネスを知る』として、アパレル・ファッション業界におけるマーケティング戦略を理解し、商品企画に反映させる力を養うための「マーケティング論」、店舗経営を想定し、経営計画の作成を通し、ブランディング等経営戦略に関する知識を習得するための「ショップ経営学」を開講する。

最後に、2 年間の学びの集大成となる卒業制作として「デザイン特論Ⅰ」「デザイン特論Ⅱ」を開講する。この科目は、それまでに習得した知識、技術を、卒業制作の企画運営の中で発揮することを通し、社会に通用する確かな実践力を修得する科目である。

また、コースの特徴に合わせて以下の科目を開講する。

① アパレル・スタイリストコース

衣服制作における基礎技術や、製作に必要な流行やニーズに対するリサーチ力を習得するための「デザイン表現実習Ⅰ」「デザイン表現実習Ⅱ」、パターンの基礎技術を養うための「パターンメイキングⅠ」「パターンメイキングⅡ」を開講する。また、各自のコンセプトメイキングから独自ブランドの発表までの過程を通し、商品の企画・作成能力を身につ

けるための「創作研究Ⅰ」「創作研究Ⅱ」を開講する。さらに、コンピューターを用いた製図作成法を習得するため「CAD 演習」を開講する。

② ファッションコーディネートコース

衣服を含めたトータルファッションを考える上で必要なネイルの基礎知識・技術を習得するための「ネールアート演習」を開講する。同様に衣服を含めたトータルファッションを考える上で必要なヘアメイクの基礎知識・技術を習得するための「ヘアメイク演習」を開講する。また、ファッションコーディネートの専門性を一層深める科目として「ファッションコーディネート論」、さらに、ブライダルでのファッションコーディネートに対する理解も深められるよう「ブライダルコーディネート論」を開講する。また、ファッションアイテムの製作を通してその理解を深めるための「ファッションアイテム演習」、ファッションアイテム製作の基本技術を習得するため「生活造形実習Ⅰ」「生活造形実習Ⅱ」を開講する。加えて、住空間全体においてファッションを考える科目として「インテリアコーディネート論」を開講する。

これら学科科目のうち、日常生活を豊かに創造（デザイン）する上で必要な知識を総合的に身につける科目として「生活デザイン総論」の 2 単位を必修とし、学科の育成する人材として身につけるべき生活全般に対する基本的な理解を深める科目として「食物学」「家庭経営学」「保育学」「住居学」の 8 単位、学科の育成する人材として身につけるべき衣の専門性を修得する科目として「アパレル繊維学」「アパレル材料学」「ファッションデザイン論」「アパレル設計実習Ⅰ」「アパレル設計実習Ⅱ」「アパレル設計実習Ⅲ」「アパレル設計実習Ⅳ」「デザイン特論Ⅰ」「デザイン特論Ⅱ」「被服整理学」及び「キャリアディベロップメント」の 18 単位を履修指導上の必修とする。

また、コース設置の趣旨を鑑み、アパレル・スタイリストコースでは「パターンメイキングⅠ」「パターンメイキングⅡ」「創作研究Ⅰ」「創作研究Ⅱ」「デザイン表現実習Ⅰ」「デザイン表現実習Ⅱ」の 10 単位を履修指導上の必修とする。同様に、ファッションコーディネートコースでは「ファッションアイテム演習」「ネールアート演習」「ヘアメイク演習」「ファッションコーディネート論」「ブライダルコーディネート論」及び「販売論」「マーケティング論」「ショップ経営学」の 13 単位を履修指導上の必修とする。

本学科はこれらを含めて 50 単位以上の修得を卒業要件とする。

以上より、共通科目から 12 単位以上、必修を含め学科科目から 50 単位以上、合計 62 単位以上の修得を卒業要件とする。各科目の開講、配当年次の設定、必修科目を含めた卒業要件の設定の下、本学科の育成する人材として必要な能力を身につけたアパレル・ファッション業界で活躍できるプロフェッショナルを養成する教育課程を編成している。

５．教員組織の編成の考え方及び特色

本学科では、教育課程に従い「繊維材料・整理分野」を専門とする専任教員を 2 人（教授 1 人、講師 1 人)、「衣服設計・制作分野」を専門とする専任教員を 1 人（講師)、「ファッション流通・消費分野」を専門とする専任教員（教授 1 人、准教授 1 人）を配置する。「繊維材料・整理分野」では、教授内容として学術的要素が高いことから、博士の学位を有する教授 1 人と修士の学位を有する講師 1 人を配置する。何れも、学術学会における活動や成果が優れており、さらに繊維業界とも深いつながりのある教員である。「衣服設計・製作分野」では、実務経験が豊富で、さまざまな分野での制作実績を残し、現在も意欲的に創作活動に取組んでいる講師 1 人が担当する。また、「ファッション流通・消費分野」では、マーケティングや商品企画などファッションビジネスの高い専門性を有する教授 1 人、准教授 1 人が担当する。以上の 5 人の専任教員は、先述の衣料管理士資格取得に関連し、それぞれの専門分野の研究業績や実績に対して日本衣料管理協会の審査を受け、各担当授業に対する認可を受けた上で授業を行う。

また、教育課程編成における専任教員の配置について、教員 1 人あたりの担当授業の過多はなく、学生への教育に対する支障はない。

次に、専任教員の年齢構成は 30 代 1 人（講師)、40 代 2 人（教授 1 人、講師 1 人)、50 代 1 人（准教授)、70 代 1 人（教授）である。定年に関して、本学では、専任教員について 65 歳を定年と定めているが、70 代の教員 1 人については特別招聘教員として採用し、完成年度まで継続雇用する（平成 27 年 4 月 23 日理事会承認)。今後、定年後の後任となる教員の補充を含め、若手教員の採用によって、年齢構成のバランスを図っていく（巻末資料 3「大阪成蹊学園定年規程」及び「大阪成蹊学園特別招聘教員就業規則」参照)。

６．教育方法、履修指導方法及び卒業要件

【履修指導方法】

本学科では 1 年次から、アパレル・スタイリストコース、ファッションコーディネートコースの 2 つのコースを設置する。コースの決定については、入学手続き時に学生のコース希望を明らかにし、なるべく希望に沿うよう個々のコースを決定する。コース毎に、年次授業開始前及び後期授業開始前のオリエンテーションで、「シラバス」「時間割」等を用いて履修指導を行う。卒業要件や必修科目についても説明するが、各コースにおいて履修指導上必修とする科目や履修を奨める科目、取得可能な資格・免許等が異なっているため、コース毎履修モデルを示しながら説明する。2 年次にも、年次授業開始前及び後期授業開始前にオリエンテーションを行い指導する。また、履修登録の状況を、Web 上または出席簿などで確認し、教務部との連携の下、アドバイザーが個別に指導を行う。また、各授業の開講時には、担当教員が授業の目的や進め方について明確に説明する。

【授業内容に応じた授業方法】

シラバスに授業計画、授業時間外の学習を明示するとともに、学生が予習・復習を確実に行うよう、授業でシラバス記載の課題を与え、提出するよう指導する。授業の内容に応じた授業の方法について、知識の習得等を図る講義系科目においては、教員のみが言葉を発す、一方的な授業とならないよう、全授業において、双方向授業を実施する。学生が自分の考えを話す機会、学生同士で意見を交換する機会等を十分に確保し、能動的主体的な学習が行える授業を徹底する。また、実物や資料等に触れながら、アパレル・ファッション分野の内容を体感できるように配慮し、学生が積極的に授業に参加できるようアクティブラーニングを実施する。

学科科目では、科目間の系統性を担保し、学習効果を高められるよう、教員間の連絡を密にとり、授業の内容や進度、学生の理解度の共有の下、授業の指導方針を決定する。

【授業方法に適した学生数の設定】

共通科目では、Ⅰ群の外国語科目については、30 人以下での開講を基本とする。その他のⅡ~Ⅴ群の科目については、学科やクラスの別なく 50 人以下での開講を基本とする。ただし、「成蹊基礎セミナー」や「キャリアデザイン」等、学科もしくはクラスでの開講が適切と考えられる科目についてはクラス単位での開講となる。

学科科目では、専門性を修得する上で効果的な適正規模や、コース運営等を鑑み、1 クラスあたり 40 人以下として、アパレル・スタイリストコース 1 クラス、ファッションコーディネートコース 1 クラスでの開講を基本とする。なお、衣服製作系の実習科目については、何れの場合も 1 クラスあたりの受講者数を 30 人以下とし、個々の受講生の作業スペース確保や、教員からの実技指導を効果的に受けることが出来る人数に設定している。また、化学的要素を含む実験科目については、1 グループ 4 人～5 人程度とした共同作業とし、1 クラスあたりの受講者数を 30 人以下とする。実験実施上の安全性を確保し、また教員からの実技指導を効果的に受けることが出来るよう、学生数を設定している。

【配当年次の設定】

共通科目については、Ⅰ群の科目として、1 年次に基礎英語として「Active English Ⅰ, Ⅱ」を配当し、希望に応じて 2 年間を通して学習できるよう英語会話等を配当している。また、英語以外の外国語に係る科目として、韓国語や中国語を学ぶことができるが、第 2 外国語として学ぶことを鑑み、2 年次に配当している。その他の群の科目については、2 年間の学びの中で広い教養を身につけた上での専門性の修得がめざされるため、全て 1 年次に配当する。

学科科目については、生活全般に対する理解を深める科目を 1 年次及び 2 年次に配当し、食生活や住生活、家庭生活や育児生活の学習を通し、生活全般に対する基礎知識を 2 年間で習得できるよう教育課程を編成している。また、衣服を扱う上での基本的な知識を習得

する科目や、技術習得に向けた基本的な知識を習得する科目、技術の基礎を習得する科目、衣服についての見識を広げる科目を中心に、1 年次の教育課程を編成する。そして、1 年次に習得した基本的な知識を基にさらなる専門性を修得する科目、1 年次に修得した技術を基に一層の実践力を修得する科目、学生の能力や関心に応じた知識・技能を習得する科目を中心に、2 年次の教育課程を編成する。また、2 年間の学びの集大成として、卒業作品展に向けた卒業制作を行い、知識、技術の振り返りや発揮をする科目を 2 年次に配当する。以上のとおり、1 年次に学習することと、2 年次に学習することとの系統性に十分配慮して配当年次を設定している。

【卒業要件】

共通科目から、Ⅰ群より 1 か国語 2 単位以上、Ⅱ～Ⅴ群より「成蹊基礎セミナー」を含め 10 単位以上、学科科目から必修 2 単位を含む 50 単位以上を修得し、合計 62 単位以上の修得を卒業要件とする

【具体的な人材像と履修モデル】

本学科の人材育成の目的は、生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材の育成である。特に、衣に係る一層の専門コースとしてアパレル・スタイリスト、ファッションコーディネートの 2 コースを設定している。各コースの育成する人材において修得すべき専門性を身につけるための、各コースの履修モデルは巻末資料 4-1,4-2 のとおりである。

【履修科目の年間登録上限（CAP 制）】

学生の十分な学修時間を確保することを目的に、履修登録に制限を設け、1 学期 25 単位までとする。ただし、免許、資格にかかわる科目の単位数についてはこれを除く。

【他大学における授業科目の履修等】

大阪成蹊学園三大学単位互換制度及び大阪学院大学との単位互換制度に基づき、協定を結んでいる他の大学が提供する授業科目を履修した授業科目について修得した単位を、本学の授業科目により修得した単位として認定する。

７．施設、設備等の整備計画

ア．校地、運動場の整備計画

本学科の設置に伴う校地及び運動場の用地の整備については、既存大学等との校地を共用する。校地面積は、99,502.08 ㎡（相川キャンパス（大阪市東淀川区）16,522.07 ㎡、第 2 グラウンド 6,062.01 ㎡、茨木校地（茨木市彩都あさぎ）67,458.00 ㎡、セミナーハウス（大

津市和邇）9,460.00 ㎡）である。中心校地である相川キャンパスには、校舎 37,295.90 ㎡、体育館 2,357.27 ㎡等の主要施設を整備しているほか、北館の南側にはサンパティオと呼ぶ芝生の憩いの場や西館の前面にテラスを設け、学生同士が談笑できるスペース（約 2,500 ㎡）を用意している。茨木校地は、課外活動のグラウンドとして活用しており、また、セミナーハウスは、学生の厚生補導施設として活用している。

イ．校舎等施設の整備計画

今回の学科の設置は、従来のコースをベースとした設置であり、入学定員は現行のコースの在籍者数と同程度の 50 人としているため、基本的に施設、設備の新たな整備は必要としない。上記の教育課程の実施において、必要となる講義室、演習室、PC 教室等確保できる。なお、大学との共用が講義室の一部であるが、教育研究に支障はない（巻末資料 5 参照)。また、研究室について、生活デザイン学科は、学科教員間の情報共有の下、学生指導を円滑に行う観点から、共同研究室を整備しており、各教員に対し十分な研究スペースを確保している。

ウ．図書等の資料及び図書館の整備計画

図書館棟 4, 5 階及び地下 1 階の図書館の面積は 1,757.74 ㎡で閲覧席数 180 席（AV・PC ブース 20 席、グループ閲覧席 140 席、ブラウジング 20 席含む)、収納可能冊数 303,561 冊となっている。全体で 291,391 冊、学術雑誌 2,540 種を有しているが、そのうち家政学関係の図書 5,618 冊、雑誌 52 種を備えている。また現在、図書館ネットワーク整備の一環として図書館システム「E-cats」を導入しており、利用者が OPAC（Online Public Access Catalog）・WebOPAC により、図書館内外から迅速な蔵書検索が行える環境を整備している。併せて、NACSIS-CAT/ILL にも加入しており、他大学との相互協力に積極的に参加している。

館内に設置している PC はすべて学内 LAN に接続しており、常設のデスクトップ PC は勿論のこと、館内の限られたスペースを有効活用すべく、ワイヤレス LAN 環境を整え、学内 LAN に接続可能なノート PC にて情報検索等を行える環境も整備している。
開館時間については利用者のニーズを考慮し、授業期間中については平日 9 時から 20 時まで、土曜日は 9 時から 17 時までとしている。また、授業のない夏期休業、冬期休業などの休業期間中は平日 9 時から 18 時 30 分まで、土曜日は休館としている。

８．入学者選抜の概要

本学での学びに必要な基礎学力を有し、本学の建学の精神「桃李不言下自成蹊」と教育目標を理解し、21 世紀の知識基盤社会を支える職業人に求められる実務力と専門性を身につけようとする意欲のある人を求める。

生活デザイン学科の専門性及び人材育成の目的等の観点から、以下のアドミッションポ

リシーを定めている。

・衣服に興味があり、衣服をもとにした衣生活を考えることで豊かな感性を常に追い求めるような向上心や向学心にあふれる人
・積極的にさまざまな物事に熱意を持って取り組める人
・将来、アパレル・ファッションのプロとして同業界で活躍したいとの夢を持っている人

上記アドミッションポリシーのもと、入試選抜として推薦入試（公募推薦入試、指定校推薦入試、併設高校入試、ファミリー入試)、AO 入試、一般入試、大学入試センター試験利用入試及び、留学生や社会人に対して、社会人入試、外国人留学生入試を実施する。

【推薦入試】

推薦入試では書類審査（調査書、推薦書等）に基づき、高等学校での学習到達度と生活態度を評価する。公募推薦入試では、書類審査に加え、面接（志望理由、学科適性、意欲、態度、資質の 5 項目について評価）または、学科試験（国語・英語）により合否を判定する。指定校推薦入試、併設高校入試、ファミリー入試では、書類審査と面接（志望理由、学科適性、意欲、態度、資質の 5 項目について評価）で合否を判定する。募集定員は 24 人とする。

【AO 入試】

AO 入試では、一次選考で志望理由書（志望動機と将来の希望)、二次選考においては課題レポート、面接（志望理由、学科適性、意欲、態度、資質の 5 項目について評価)、書類審査（調査書等）により合否を判定する。募集定員は 12 人とする。

【一般入試】

一般入試では、本学科で学ぶために必要な基本的な学習能力を評価するために、国語または英語の試験（読解能力、表現能力)、または面接（志望理由、学科適性、意欲、態度、資質の 5 項目について評価)、書類審査（調査書等）により合否を判定する。募集定員は 4 人とする。

【大学入試センター試験利用入試】

大学入試センター試験利用入試では、大学入試センター試験（国語、英語）の成績、及び書類審査（調査書等）に基づき合否を判定する。募集定員は 4 人とする。

【社会人入試、外国人留学生入試】

社会人入試、外国人留学生入試では、書類審査（社会人は「志望の動機・修学の目的」、

最終出身学校の在学全期間の学業成績証明書、留学生は最終出身学校の、在学全期間の学業成績証明書)、面接（志望理由、学科適性、意欲、態度、資質の 5 項目について評価）によって合否を判定する。外国人留学生のうち、日本留学試験（日本語）受験者は、その成績を加えて、合否を判定する。募集定員は 6 人とする。

なお、社会人入試の出願資格は「入学年 4 月 1 日に満 25 歳に達している者で、社会人経験を有する者」で、かつ次の①・②・③のいずれかに該当する者とする。

① 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者、及び入学年 3 月卒業見込みの者
② 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者、及び入学年 3 月修了見込みの者
③ 学校教育法施行規則第 150 条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、及び入学年 3 月 31 日までにこれに該当する見込みの者

また、外国人留学生入試は、「日本国籍を有さず、日本に滞在して学業に専念できる者」「在留資格が『留学』の者、その他本学が認める者」「入学年 4 月 1 日に満 18 歳に達している者」「入学以前 2 年間に『日本留学試験』の教科『日本語』を受験した者、または日本語能力試験N2 以上を取得した者」という条件を充たし、かつ次の①・②・③のいずれかに該当する者とする。

① 外国において、外国の学校教育に基づく 12 年の課程を修了した者、及び入学年 3 月 31 日までに修了見込みの者
② 外国において、外国の学校教育に基づく 12 年の課程を修了した者と同等以上の学力があると認められる者、及び入学年 3 月 31 日までにこれに該当する者
③ 文部科学大臣が指定した者（国際バカロレア資格等を有する者）

９．取得可能な資格

本学科では、日本衣料管理協会の認定を受け、本学科の所定の単位を修得することにより、卒業時に 2 級衣料管理士（民間資格）の資格が取得できる。また、本学科およびその他の所定の単位を追加修得することにより、卒業時に中学校教諭二種免許（家庭)、司書教諭課程修了証書及び司書課程修了証書を取得することができる。ただし、いずれの資格についても修了要件ではない。

その他、民間資格であるパターンメイキング技術検定、きもの文化検定、販売士、色彩検定、ファッションビジネス能力検定の資格取得に役立つよう本学科の教育課程を編成している。

１０．実習の具体的計画

本学科では、所定の単位を修得することで、中学校教諭二種免許（家庭）を卒業時に取得することが可能である。同免許取得に伴い、介護等体験実習および教育実習を実施する。介護等体験は、大阪府により設定された体験施設先の決定後、担当教員が各施設と面談して綿密な打ち合わせをした上で、教育者をめざす学生にとって、最大限の実習効果が得られるよう事前事後指導を含め、適切に指導する。具体的には、事前指導として、中学校教育実習の意義と目的、教育実習記録の作成、授業設計の仕方や学習指導案の作成、教育実習の基本的事項や実習を行う上での課題の設定等について指導する。事後指導として、実習の報告と反省の上、各自の実践的な課題や実習を通して得たもの等について考えられるよう指導する。また、教育実習においては、原則学生自身が実習校を自己開拓し、決定次第、上記介護等体験の実習と同じく、事前事後指導を含め、学生指導を実施する。なお、介護等体験及び教育実習先については大阪市教育委員会から受入の承諾書を得ており、実習先を確保している（巻末資料 6 参照）。

実習先との連携については、実習の目標を効果的に達成できるよう、実習前から実習後までを通じて密な連携をとる。実習前には、実習内容についての資料を送付し、実習の内諾から実習日時、人数、評価方法などを確認し、電話や訪問によって直接打ち合わせを行う。実習中には最低 1 回以上専任教員が実習先へ訪問し、万が一トラブルが発生したときには、即時対応する。実習後には、学生に礼状を送付するよう指導し、PDCA を行うため、学生と実習先の双方にアンケートをとり、改善すべき点を見出し、以後の実習の更なる充実をめざす。成績評価は、実習先の評価や実習ノートの記載状況等により本学科の教員が 10 段階評価を行い、6 以上を合格として単位を認定する。

なお、実習前には、健康診断の結果を確認して結核予防対策を講じ、全員に検便を義務付ける。事故対策としては、実習前の指導において十分な学生指導を行ったうえで、学生の対応、保険による対処について実習先と情報を共有する。保険については、入学時に全員が加入している「学生教育研究災害傷害保険」及び「学生教育研究火災賠償責任保険」で対応する。また、個人情報保護対策として、事前指導において個人情報の保護について理解を徹底し、施設に応じて、個別に誓約書を交わす。

１１．管理運営

教学面における管理運営体制は、学長のガバナンスの下、教授会が重要な事項について審議している。学長に対して意見を述べるものとして位置づけ、学則においては以下のように規定している。

学則（平成 27 年 4 月 1 日施行）

(教授会)

第 7 条　本学に教授会を置く。教授会は学長、専任の教授、准教授、講師及び助教をもっ

て組織する。教授会は学長がこれを招集し、その議長となる。学長に支障あるときは、その指名により他の教授がこれに代わる。教授会は必要に応じ専任の教授、准教授、講師及び助教以外の職員を陪席させることがある。

(教授会の審議事項)
第 8 条　教授会は、学長が次に掲げる教育研究に関する事項について決定を行うにあたり審議し意見を述べるものとする。
(1)　学生の入学及び卒業に関すること。
(2)　学生の学位の授与に関すること。
(3)　その他本学の教育研究に関する重要な事項

なお、教授会は、月 1 回を定例とし、入試判定やその他審議が必要な場合は、適宜開催している。

また、本学全体の教学運営に関する重要な事項の審議については、学長、副学長、学科長及び事務部門の各部長で構成する運営協議会を設置しており、教務的事項や学生生活事項などの個別的専門的事項については、学科選出教員および各事務部局員で構成する審議会や委員会を設置している。なお現在設置している委員会等は以下の通りである。

教務委員会
教員資格審査委員会
教職課程審議会
司書教諭課程審議会
共通教育審議会
学生生活委員会
図書館委員会
入試委員会
情報教育委員会
自己点検評価委員会
FD 委員会
人権委員会

１２．自己点検・評価

本学においては、自己点検評価委員会を設置し、自己点検・評価作業を行っている。委員会は、学長、副学長、ALO、学科長、専攻・コース主任、総務部長、就職部長ならびに教務、学生、入試の各部長・各委員長及び図書館、教育研究支援センターより選出された各 1 人によって構成する。委員会は学期ごとに開催し、自己点検・評価シートを利用して

全学的に実施し、その内容は HP に公開している（平成 25-6 年度は作成作業中）。

なお、一般財団法人短期大学基準協会による平成 24 年度第三者評価の結果、適格と認定されている。

１３．情報の公表

教育研究活動等に関する情報の公表については、教育研究上の目的や基本組織、教員組織や入学者、授業に関する事柄など、基本的な情報は全て本学のホームページに公表している（大阪成蹊短期大学 TOP http://tandai.osaka-seikei.ac.jp/index.html）。

ア．大学の教育研究上の目的に関すること

学則をホームページで公表すると共に、建学の精神「桃李不言下自成蹊」及び行動指針「忠恕」についても掲載している（TOP＞大学紹介＞建学の理念）。また、建学の精神及び行動指針については、学校案内への記載はもとより、新入生及びその保護者に対し、毎年解説文を配布し周知を図る。

イ．教育研究上の基本組織に関すること

学科等教育研究の基本組織とその目的について、ホームページに公表し、学内外に広く周知している（TOP＞大学紹介＞組織図）（TOP＞大学情報＞教育研究上の基本組織とその目的、入学者の受入方針、学生が修得すべき知識・能力）。

ウ．教員組織、教員の数並びに各教員の有する学位及び業績に関すること

教員数データとして、専任教員数、年齢構成、専任教員と非常勤講師比率、教員一人あたりの学生数及び教員組織、教員が有する学位及び業績をホームページで公表し、学内外に広く周知する（TOP＞大学情報＞教員数データ（専任教員数、専任教員と非常勤教員の比率、教員一人当たりの学生数））（TOP＞大学情報＞教員組織、教員が有する学位及び業績）。

エ．入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針（TOP＞大学情報＞教育研究上の基本組織とその目的、入学者の受入方針、学生が修得すべき知識・能力）及び入学定員、収容定員、在学者数、卒業者数、進路状況・就職実績（TOP＞大学情報＞学生数データ（定員数、現員数、社会人学生数、卒業者数））等をホームページに公表している。併せて、学生募集要項を発行し広く学内外に公表している。また、大学案内を発行し、本学に関する情報を、オープンキャンパスや入試説明会並びに高校訪問時において積極的に公表している。

オ．授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

シラバスをホームページに掲載し、授業科目、授業概要、授業計画、授業時間外の学修、授業形態、授業目標、評価方法、評価基準、教科書・参考書、履修条件、履修上の注意、オフィスアワーを学内外に広く公表している（TOP＞大学情報＞シラバス 2014（平成 26）年度用)。また、履修の手引きと授業概要を発行し、授業科目、授業の方法及び年間の授業の計画等について学生・教職員に周知徹底している。

カ．学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価については、成績評価、卒業認定、学位授与の基準についてはホームページにて公表するとともに、履修の手引きに掲載し、履修ガイダンスにおいて学生に周知徹底している（TOP＞大学情報＞学修の成果に係る評価、卒業の認定に当たっての基準、取得可能学位)。

キ．校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

キャンパスの概要、運動施設の概要、休息を行う環境、課外活動施設等についてホームページに公表している（TOP＞大学情報＞校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境)。また、学生便覧を発行し、図書館の利用案内、情報機器施設等利用案内を掲載し、オリエンテーションで学生に周知徹底している。

ク．授業料、入学料その他、大学が徴収する費用に関すること

授業料、入学料及び教育充実費、学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）その他大学が徴収する費用に関しては、ホームページに公表している（TOP＞大学情報＞授業料、入学料等)。また、学生募集要項を発行し、入学検定料、授業料等大学が徴収する費用について周知している。

ケ．大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援についてホームページに公表し、学生及び学外者に周知している（TOP＞大学情報＞学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援)。学生の健康診断・健康相談については保健センターにおいて実施し、様々な悩みの相談については、臨床心理士によるカウンセリングも実施している。なお、学生への就学支援、就職支援、学生生活支援については学生便覧に掲載するとともにオリエンテーションにおいて学生に周知徹底している。

１４．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では FD 委員会を設け、教員の授業改善に向けた取り組みを積極的に実施している。原則全ての専任教員が、常時授業を公開している。また各年度の前後期に行われる授業アンケートや、研修会、ワークショップなどを通して、組織的に教育内容の改善に努めてい

る。なお、昨年度実施した研修会は以下のとおりである。

・「アクティブラーニングを促す教育技法」ワークショップ
　佐藤浩章氏（大阪大学教育学修支援センター准教授）
・「＜新しい能力＞とその評価―パフォーマンス評価を中心に―」
　松下佳代氏（京大高等教育研究開発推進センター教授）
・「PBL の実際とその工夫
「キャリアデザインⅡ」におけるアクティブラーニングについて」研修会
　門脇英純氏（大阪成蹊大学芸術学部教授）

上記 FD 委員会の活動に加えて、学園全体の教学改革のための組織として、高等教育研究所を設置しており、アクティブラーニングや PBL など、授業方法の改善から教育評価、学生授業アンケートなどの組織的教育研究に係る改善を図っている。

１５．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

ア．教育課程内の取り組み

アパレル・ファッション業界において、顕著に活躍している人物（主に本学科卒業生）を授業に招聘し、業界での経験や学びのアドバイス等について話を聴く機会を、複数の授業で設ける。これは学生の将来に向けてのモチベーションや現在の学びに対する意欲の向上等をねらいとしている。

イ．教育課程外の取り組み

就業意識を養う就職ガイダンスや学内企業セミナーも活発に行われ、個別のキャリア・カウンセリングや模擬面接の実施、資格取得対策講座の開設、就職に関する情報の個別提供等を精力的に行うことによって、学生の人間形成とキャリア形成の両面的な促進を図る。

ウ．適切な体制の整備

「就職委員会」及び事務所管部門の「就職部」さらに「教育研究支援センター」等の緊密な連携をもとに、学生の社会的及び職業的な自律に必要な能力の養成に努めていく。教育研究支援センターでは資格取得の講習会等の実施を担当する。また、就職部主催の系統的かつ横断的な就活サポート体制に加え、専任教員が教育課程内・外の取り組みに際して手厚い個別相談及び指導を継続して行う体制をとり、学生一人ひとりの適性を見極めその適性に応じた親身な教育指導を行う。その目的は生涯を通じた持続的な就業力の養成にあり、学生の豊かな人間形成とキャリア設計に貢献する。

資料目次

（巻末資料 1）国内アパレル総小売市場規模推移

（巻末資料 2）「繊研」電子版 2014 年 9 月 5 日「売り手市場が顕著、厳しい採用環境」

（巻末資料 3）「大阪成蹊学園定年規程」「大阪成蹊学園特別招聘教員就業規則」

（巻末資料 4-1）履修モデル（アパレル・スタイリストコース）

（巻末資料 4-2）履修モデル（ファッションコーディネートコース）

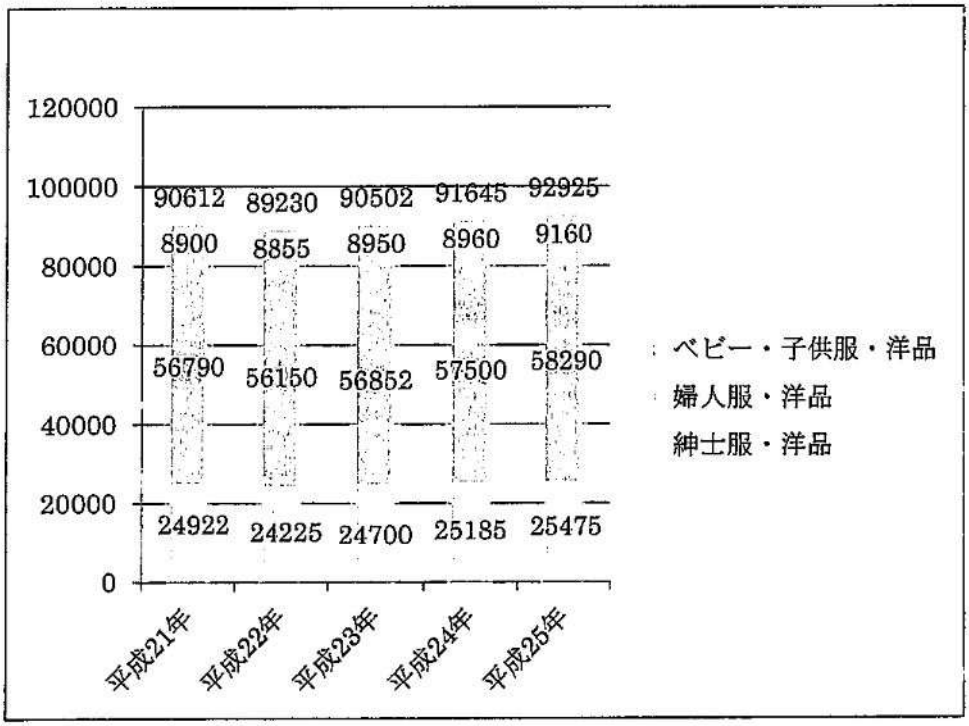
（巻末資料 5）平成 28 年度教室使用状況表

（巻末資料 6）大阪市教育委員会からの教育実習受入承諾書及び実習先一覧
大阪府教育委員会からの介護等体験実習受入承諾書及び実習先一覧
大阪府社会福祉協議会からの介護等体験実習受入承諾書

（巻末資料 1）

国内アパレル総小売市場規模推移

（単位：億円）



矢野経済研究所「国内アパレル市場に関する調査結果 2014」より作成

（巻末資料 2）
「繊研」電子版 2014 年 9 月 5 日「売り手市場が顕著、厳しい採用環境」

繊研plus
No.1ファッションビジネス専門紙

【総合】売り手市場が顕著、厳しい採用環境

2014年9月5日 09:04

マイナビとMORIパーソネル・クリエイツは、共同で運営する「FB（ファッションビジネス）就職セミナー」（「マイナビ2015」と共催）で今年3回目となる秋の陣を開く。対象は来春の新卒者と既卒者、外国人留学生。秋口に業界特化型の新卒者向け合同企業説明会を開く例は珍しいが、販売職の人材不足などを背景に一昨年から開いている。6日に東京、8日に大阪で開催する。

FB就職セミナーはFB業界最大の新卒採用イベントで、例年2月前半に東京、大阪、名古屋で実施している。売り手市場の傾向が強まった昨年から6月ごろに夏の陣も開き、春、夏、秋の3回に開催を増やしている。

今年は2月の出展企業数が3会場合計で過去最高となり、採用意欲が高まっている半面、来場者数は前年比で東京10%減、大阪15%減、名古屋は20%以上減少し、「より売り手市場の傾向が顕著」と主催者は危機感を募らせる。

有効求人倍率も昨年11月から1.0以上に回復し、今年6月から1.1を上回る中、「金融や商社など大手も含めて全体に採用を増やす中、内勤と比べて労働条件の厳しい店頭での販売職を学生が避け、他業界や一般職に流れる傾向が強い。活発な商業施設の開発を背景に新規出店の条件は広がっているのに、飲食やFB業界は採用が厳しい」という。

FB業界は経験者の募集で人が集まらなくなり、退職者の補充や出店に伴う人の手当てが追いつかず、昨年から高卒も含め新規採用枠を拡大する企業が増えている。FB就職セミナーの2回目は東京が17社、大阪が限定10社が出展、3回目は東京11社、大阪が全産業の合同説明会内のゾーン出展で3社が出展予定だ。

東京は、春から3回連続で参加のフランドル、シュガー・マトリックス、クロスカンパニー、出店拡大中のアーバンリサーチ、大手との競合が激しい春と夏は出なかった呉服やジュエリーの中小企業も出展する。本気度の強い学生が集まり、採用に至る率が高いため、出展企業は正式に内定を出す10月を控えて採用を増やしたい考えだ。

（巻末資料 3）「大阪成蹊学園定年規程」「大阪成蹊学園特別招聘教員就業規則」

○大阪成蹊学園定年規程

昭和44年4月1日
制定

第1条　大阪成蹊学園(以下「学園」という。)に勤務する専任教職員の定年は、次のとおりとする。

(1)　大学並びに短期大学の教授、准教授、講師及び助教は、満65歳とする。

(2)　中学・高等学校の教諭及び養護教諭は、満62歳とする。

(3)　幼稚園の教諭は、満60歳とする。

(4)　事務職員、技術職員及び校務員は、満62歳とする。

(5)　大学並びに短期大学において、副学長、学部長、学長補佐、学科長の役職にある教員のうち、副学長、学部長にあっては、その教員の定年退職日の翌日から起算して、2年を超えない範囲内で、また、学長補佐、学科長にあっては、その教員の定年退職日の翌日から起算して、1年を超えない範囲内で期限を定め、それぞれの当該役職に従事するために定年期限を延長することができる。但しいずれの場合も70歳を超えることはできない。

第2条　退職時期は、定年に達した日の属する年度末とする。なお、延長された期限が到来する前に、延長事由が存しなくなった場合の退職時期は、当該年度末とする。

第3条　学園の役員であって常勤する者については、この規程を適用しない。

第4条　「大阪成蹊大学及びびわこ成蹊スポーツ大学の教員任期に関する規程」及び「大阪成蹊短期大学の教員任期制に関する規程」に定める任期期間の途中であっても、学園定年規程を優先して適用する。

附　則

平成17年3月31日現在学園に専任技術職員及び校務員として在籍している者(平成15年度開設の大学設置申請において採用予定の者で平成17年4月1日以降に勤務する者を含む。)は下記の規程を適用する。

(1)　技術職員及び校務員は、満67歳とする。

附　則

この規程は、昭和44年4月1日から施行する。

附　則(昭和47年4月1日)

この規程は、昭和47年4月1日から施行する。

附　則(昭和63年4月1日)

この規程は、昭和63年4月1日から施行する。

附　則(平成4年4月1日)

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附　則(平成15年4月1日)

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附　則(平成17年3月18日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附　則(平成18年12月21日)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附　則(平成21年12月15日)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附　則(平成22年9月21日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

○大阪成蹊学園特別招聘教員就業規則

平成21年1月22日
制定

(目的)

第1条　この規程は、大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学及び大阪成蹊短期大学(以下「本学」という。)の特別招聘に任用する教員(以下「特別招聘教員」という。)に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

2　この規程及びこれに付随する諸規程に定められていない事項については、労働基準法、「大阪成蹊学園就業規則」の定めによる。ただし特定の招聘教員について異なる定めをした場合はこの限りではない。

(定義)

第2条　特別招聘教員とは、国内外において顕著な業績、高度の専門的学識又は技能を有する者で、本学において教育研究に従事する教員として、大阪成蹊学園定年規程にかかわらず外部から招聘し、期間を定めて雇用する教員をいう。また、外部招聘以外に、本学教員として在籍し、顕著な教育研究上の業績を有する者や、本学の教育研究活動の進展に寄与すると認められる者が、本学を退職した場合、教育研究業務に著しく支障があると認められる場合は、退職後、特別招聘教員として、招聘する場合があり、いずれも任期制教員の適用外とする。

(採用)

第3条　特別招聘教員の招聘は、選考によるものとし、「大学教員資格審査等委員会」の議を経て、これを理事会において審議するものとする。

(雇用契約書)

第4条　学園は特別招聘教員の採用に際しては、次の各号に掲げる事項を記載した雇用契約書を取り交わすものとする。

(1)　雇用契約期間に関する事項
(2)　就業の場所及び従事する業務に関する事項
(3)　始業及び就業の時刻、休憩時間、休日及び休暇に関する事項
(4)　給与に関する事項
(5)　退職に関する事項
(6)　安全・衛生に関する事項
(7)　私学共済加入等に関する事項

(雇用期間)

第5条　特別招聘教員の雇用期間は、原則満年齢70歳に達する年度末までを限度に、1年毎の契約更新を行う。なお新学部等の設置に際しては、満年齢70歳を超える場合であっても、完成年度の年度末まで理事会の決定により雇用を継続できるものとする。

2　前項の更新の可否は当法人の経営状況、教員の勤務成績及び勤務態度等によって理事長が決定する。

3　更新後の雇用期間は4月1日から翌年3月31日までとする。

4　契約更新をしない場合は、契約期間満了日の30日前までに当該教員に通知する。

ただし、契約期間満了後に更新しないことをあらかじめ通知している場合は、この限りではない。

(教員の階層)

第6条　特別招聘教員は、原則として教授職とする。

(勤務時間)

第7条　勤務時間は休憩時間を除き、1週間に40時間を超えないものとする。

始業時刻及び終業時刻は、次のとおりとする。

始業時刻　午前8時50分

終業時刻　午後5時20分

休憩時間は、1時間とする。

2　業務の都合、勤務場所等により、前項と異なる定めをすることができる。

また、休憩時間の配分は、勤務場所等によって所属長がこれを定める。

(出退勤記録)

第8条　特別招聘教員は、各人が毎日始業開始時刻及び終業時刻を勤務時間等の自己確認記録表に記録して就業を明らかにする。

(遅刻、早退、欠勤等)

第9条　遅刻、早退又は欠勤するときは、事由を具して届出て、業務に支障を来たさぬようにすること。

2　病気欠勤が7日以上に及ぶときは医師の診断書を添付するものとする。

(休日)

第10条　特別招聘教員の休日は、次のとおりとする。

(1)　土日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日

(2) 12月29日から翌年の1月3日まで
(3) 学園創立記念日(4月20日)

(休日出勤)
第11条 業務の都合上必要とする場合は、休日に勤務させることがある。この場合は原則として他の日に振替休日を取るものとする。

(有給休暇)
第12条 特別招聘教員には、労働基準法に定める年次有給休暇(以下「年休」という)日数を与える。
2 前1項の年休は、その願いがあっても業務運営上支障があると認めた場合は他の時期に変更することがある。
3 年休は1日又は半日を単位として請求することができる。
4 年休は、これを次年度に繰り越すことができる。ただし請求期限は2年とする。

(服務規律)
第13条 服務規律は「大阪成蹊学園就業規則」第19条に準ずるものとする。

第14条 特別招聘教員は次の各号のいずれかに該当する行為をしてはならない。
(1) 理事長の許可を受けないで、在籍のまま他事業に従事し、または労務に服すること。
(2) 学園の名誉または信用を傷つけるような行為をすること。
(3) 業務上の機密事項または学園が不利益となる事項をもらすこと。
(4) 職務上の権限を超え、または専断的な行為をすること。
(5) 学園内での政治活動、宗教活動その他教育に直接関係のない活動を理事長の許可を得ずに行うこと。
(6) 学園の内外を問わず職員として体面を傷つける行為をすること。

(給与)
第15条 特別招聘教員の給与は年俸制とし、その者の学歴及び業績評価等を勘案し個別に定める。
2 月額支給額は、年俸額の12分の1を支給する。
3 月額で支給する給与の計算期間は当月1日から月末までとする。
4 給与は、毎月21日に支給する。21日が休日に当たる場合は、その前日に支給する。
5 採用する月において、その月の雇用期間が1ヶ月に満たない場合は、当該月度の勤務日数を基に日割計算を行う。
6 通勤費以外の手当並びに退職金は支給しない。

7　通勤費は「大阪成蹊学園給与規程」第17条及び第18条の規程を準用し支給する。

第16条　給与は通貨で所得税、社会保険料その他法令で定められたもの等を控除して本人が指定する銀行口座に振り込み支給する。

第17条　特別招聘教員採用にあたっての提出書類は「大阪成蹊学園就業規則」第26条の規程を準用する。

第18条　特別招聘教員が雇用契約期間の途中において契約を解約し、退職しようとするときは、1ヶ月前までに所属長を経て退職願いを理事長宛提出するものとする。

第19条　次の各号の一に該当するときは、その教員の雇用契約は解約とし、特別招聘教員としての身分を失う。

(1)　雇用契約の途中で、解約を申し出て承認されたとき。
(2)　「大阪成蹊学園就業規則」第49条第2項別表第1により解雇されたとき。
(3)　更新時、雇用契約の合意に至らなかったとき。

(解約)

第20条　特別招聘教員が次の各号のいずれかに該当するときは雇用契約を解約する。

(1)　雇用契約期間満了で学園からの再契約の意思表示がなかったとき。
(2)　死亡したとき。
(3)　精神又は身体の障害については、適正な雇用管理を行ない、雇用の継続に配慮してもなおその障害により業務に耐えられないと認められたとき。
(4)　勤務態度または能力・適正が著しく劣るとき、及び注意・指導を受けて直らないとき。
(5)　第13条及び第14条の服務規程に違反したとき。
(6)　無断欠勤が14日に及んだとき。
(7)　成年被後見人または被保佐人になったとき。
(8)　禁固刑以上の刑に処せられたとき。
(9)　事業の運営上止むを得ない事情又は天変地異、その他これに準ずる止むを得ない事情により、事業の継続が不可能になったとき。
(10)　その他、「大阪成蹊学園就業規則」第49条第2項別表第1に規定する非違行為のいずれかに該当するとき。

(解約の予告)

第21条　契約を解約するときには、30日前に予告するかまたは30日分の平均賃金を支給す

る。平均賃金を支給したときは、その日数を予告すべき日数より減ずる。
ただし、前条1号から3号による場合はこの限りではない。

(解約の制限)

第22条　次の場合は解約をしない。ただし、行政官庁の認定を受けた場合は、この限りではない。

(1)　業務上の負傷、疾病により就業できない期間及びその後の30日間。

(2)　女性については産前6週間(多胎妊娠の場合は14週間)、産後8週間内の当該休業期間中及びその後30日間。

(解約の特例)

第23条　第20条9号及び10号に該当するときは第21条の規程にかかわらず、即時解約する。

(退職後の責務)

第24条　退職又は解雇された特別招聘教員は、在職中に知りえた秘密を他に漏らしてはならない。

(病者の就業禁止)

第25条　学園は特別招聘教員が、次の各号のいずれかに該当するときは、医師の判断により就業を禁止する。

(1)　法定伝染病にかかっている場合

(2)　著しく伝染の危険がある疾病にかかっている場合

(3)　前各号の擬似患者または就業により疾病が悪化する恐れのある場合

(4)　その他の疾病で就業が不適当と認められた場合

(安全及び衛生)

第26条　特別招聘教員は、安全、衛生及び健康確保について、関係法令ほか、学園の指示を守るとともに、学園が行う定期健康診断の受診、その他安全衛生に関する措置に互いに協力しなければならない。

(医師の指示)

第27条　公衆衛生上、医師が予防医学的措置を必要と認めたときは、特別招聘教員は医師の指示に従う。

(業務上の災害補償)

第28条　特別招聘教員が業務上負傷し、又は疾病にかかった場合は、労働者災害補償保険

法の規定するところにより補償を受ける。

2　前項の補償が行われるときは、学園は労働基準法上の補償の責を免れる。

第29条　この規程の改廃は理事会にて行う。

附　則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附　則(平成22年7月20日)

この規則は、平成22年7月20日から施行する。

附　則(平成23年2月15日)

この規則は、平成23年4月1日より施行する。

附　則(平成24年11月22日)

この規則は、平成24年12月1日から施行する。

附　則(平成27年4月23日)

この規則は、平成27年4月23日から施行する。

（巻末資料4-1）履修モデル（アパレル・スタイリストコース）

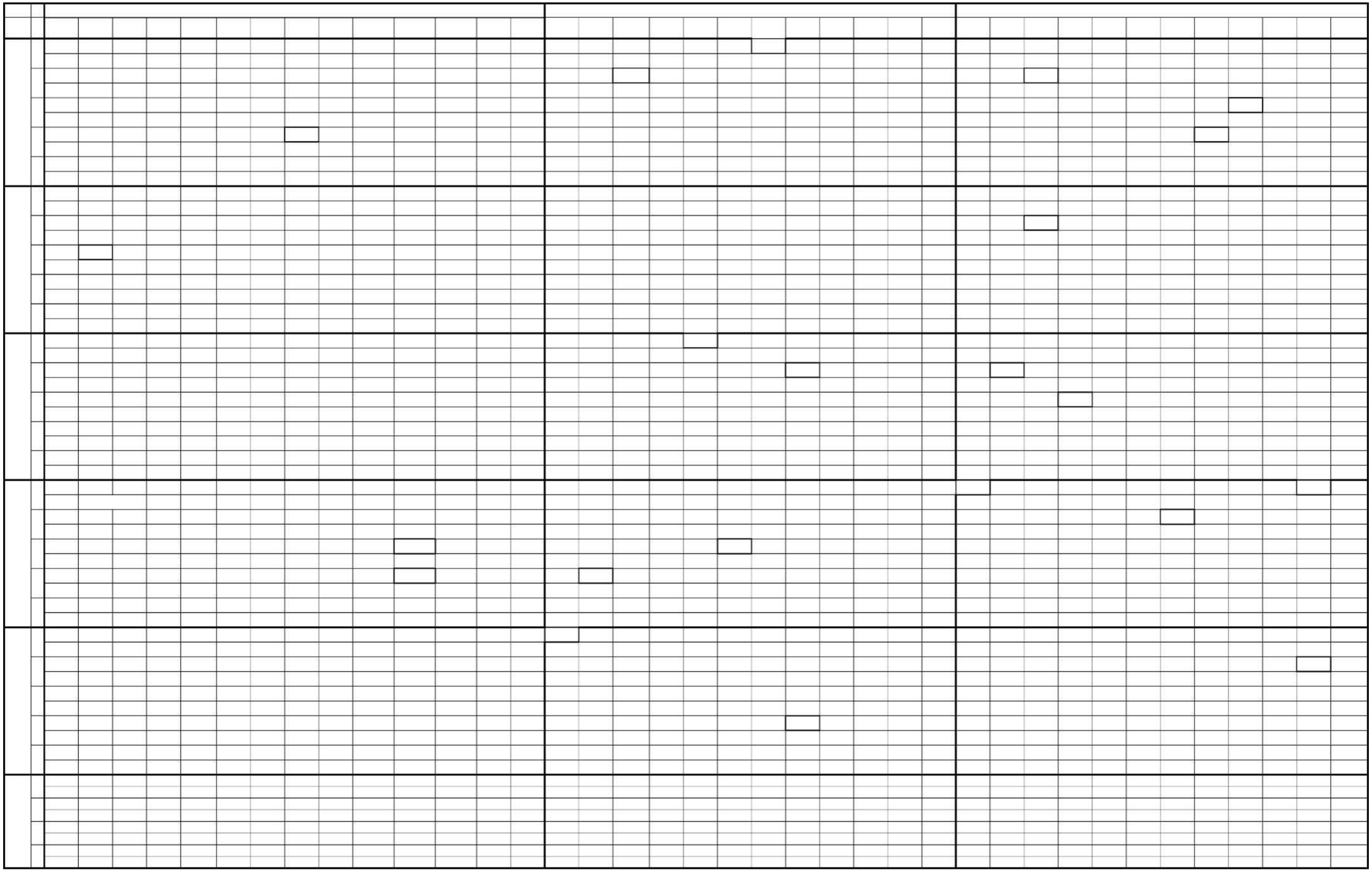
科目区分		授業科目名	単位	年次配当・単位				卒業要件
				1年次		２年次		
				前期	後期	前期	後期	
共通科目	Ⅰ群　ことばとコミュニケーション	Active English Ⅰ	1	1				１か国語２単位以上
		Active English Ⅱ	1		1			
	Ⅱ群　健康・生命・環境をいつくしむ	健康とスポーツ	2	2				10単位以上
	Ⅲ群　世の中に眼を開く	社会福祉と暮らしの法	2		2			
	Ⅳ群　人・心・生活をたずねる	文学・歴史・宗教	2		2			
	Ⅴ群　就職・社会参加に取り組む	成蹊基礎セミナー	2	2				
		キャリアデザイン	2		2			
学科科目		生活デザイン総論	2	2				５０単位以上
		キャリアディベロップメント	2		2			
		アパレル繊維学	2	2				
		アパレル材料学	2		2			
		ファッションデザイン論	2	2				
		アパレル設計実習Ⅰ	1	1				
		アパレル設計実習Ⅱ	1	1				
		アパレル設計実習Ⅲ	1		1			
		アパレル設計実習Ⅳ	1		1			
		デザイン特論Ⅰ	2			2		
		デザイン特論Ⅱ	2				2	
		被服整理学	2	2				
		家庭経営学	2			2		
		保育学	2			2		
		食物学	2		2			
		マーケティング論	2				2	
		ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽ概論	2	2				
		業界研究	2		2			
		パターンメイキングⅠ	2	2				
		パターンメイキングⅡ	2		2			
		創作研究Ⅰ	2			2		
		創作研究Ⅱ	2				2	
		デザイン表現実習Ⅰ	1	1				
		デザイン表現実習Ⅱ	1		1			
		色彩学	2	2				
		染色加工学	2			2		
		衣環境学	2		2			
		住居学	2			2		
共通科目			12		7			
学科科目			50		15	12	6	
合　　計			62		22	12	6	

（巻末資料4-2）履修モデル(ファッションコーディネートコース)

科目区分		授業科目名	単位	年次配当・単位 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	卒業要件
共通科目	Ⅰ群　ことばとコミュニケーション	Active English Ⅰ	1	1				1か国語2単位以上
		Active English Ⅱ	1		1			
	Ⅱ群　健康・生命・環境をいつくしむ	健康とスポーツ	2	2				10単位以上
	Ⅲ群　世の中に眼を開く	社会福祉と暮らしの法	2		2			
	Ⅳ群　人・心・生活をたずねる	文学・歴史・宗教	2	2				
	Ⅴ群　就職・社会参加に取り組む	成蹊基礎セミナー	2	2				
		キャリアデザイン	2		2			
学科科目		生活デザイン総論	2	2				50単位以上
		キャリアディベロップメント	2		2			
		アパレル繊維学	2	2				
		アパレル材料学	2		2			
		ファッションデザイン論	2	2				
		アパレル設計実習Ⅰ	1	1				
		アパレル設計実習Ⅱ	1	1				
		アパレル設計実習Ⅲ	1		1			
		アパレル設計実習Ⅳ	1		1			
		デザイン特論Ⅰ	2			2		
		デザイン特論Ⅱ	2				2	
		被服整理学	2	2				
		家庭経営学	2			2		
		保育学	2			2		
		食物学	2		2			
		マーケティング論	2				2	
		ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽ概論	2	2				
		業界研究	2		2			
		ショップ経営学	2				2	
		販売論	2		2			
		ﾌｧｯｼｮﾝｱｲﾃﾑ演習	1		1			
		ファッションコーディネート論	2				2	
		ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ論	2			2		
		ヘアメイク演習	1			1		
		色彩学	2	2				
		染色加工学	2			2		
		衣環境学	2		2			
		住居学	2			2		
共通科目			12	7	5			
学科科目			50	14	15	13	8	
合　　計			62	21	20	13	8	

(巻末資料5)平成28年度教室使用状況表

平成28年度　前期　教室使用状況表(講義・演習室)



平成28年度　前期　教室使用状況表(実習室等特別教室)

平成28年度　後期　教室使用状況表（講義・演習室）

平成28年度　後期　教室使用状況表(実習室等特別教室)

(参考資料6)

大市教委第３１４７号
平成２７年３月５日

大阪成蹊学園
理事長　石　井　　茂　様

大阪市教育委員会
教育長　山本　晋次

教育実習の受入について

貴学より依頼（平成２７年２月２７日付）のあった教育実習の受入について、貴学より所定の手続き後、教育実習承認申請があった場合は、大阪市立小学校・中学校にて教育実習を受け入れることを承諾します。

記

１．教育実習の受け入れに係る学科及び免許状の種類
　生活デザイン学科（入学定員５０名）
　　中学校教諭二種免許状
　栄養学科　　（入学定員１２０名）
　　栄養教諭二種免許状

２．授業科目名及び教育実習の受け入れ時期
　教育実習Ⅰ　（平成２９年５月以降）
　教育実習Ⅱ　（平成２９年５月以降）
　栄養教育実習　（平成２９年９月以降）

３．所管学校数（平成２６年５月１日現在）
　小学校　　２９８校
　中学校　　１３０校

番号	区名	校園名	57	港区	田中小学校	114	淀川区	三国小学校
1	北区	滝川小学校	58	港区	八幡屋小学校	115	淀川区	北中島小学校
2	北区	堀川小学校	59	港区	波除小学校	116	淀川区	西中島小学校
3	北区	西天満小学校	60	港区	築港小学校	117	淀川区	塚本小学校
4	北区	菅北小学校	61	港区	南市岡小学校	118	淀川区	木川南小学校
5	北区	豊崎東小学校	62	港区	港晴小学校	119	淀川区	東三国小学校
6	北区	豊崎本庄小学校	63	港区	弁天小学校	120	淀川区	西三国小学校
7	北区	中津小学校	64	港区	池島小学校	121	淀川区	新東三国小学校
8	北区	大淀小学校	65	大正区	三軒家西小学校	122	淀川区	宮原小学校
9	北区	豊仁小学校	66	大正区	泉尾東小学校	123	東淀川区	東淡路小学校
10	北区	豊崎小学校	67	大正区	中泉尾小学校	124	東淀川区	西淡路小学校
11	北区	扇町小学校	68	大正区	北恩加島小学校	125	東淀川区	菅原小学校
12	北区	弘済小学校	69	大正区	南恩加島小学校	126	東淀川区	新庄小学校
13	都島区	桜宮小学校	70	大正区	鶴町小学校	127	東淀川区	大隅東小学校
14	都島区	中野小学校	71	大正区	泉尾北小学校	128	東淀川区	豊里小学校
15	都島区	高倉小学校	72	大正区	平尾小学校	129	東淀川区	啓発小学校
16	都島区	淀川小学校	73	大正区	三軒家東小学校	130	東淀川区	小松小学校
17	都島区	都島小学校	74	大正区	小林小学校	131	東淀川区	淡路小学校
18	都島区	内代小学校	75	大正区	鶴浜小学校	132	東淀川区	下新庄小学校
19	都島区	東都島小学校	76	天王寺区	真田山小学校	133	東淀川区	井高野小学校
20	都島区	大東小学校	77	天王寺区	味原小学校	134	東淀川区	大桐小学校
21	都島区	友渕小学校	78	天王寺区	桃陽小学校	135	東淀川区	豊新小学校
22	福島区	福島小学校	79	天王寺区	五条小学校	136	東淀川区	東井高野小学校
23	福島区	玉川小学校	80	天王寺区	聖和小学校	137	東淀川区	大隅西小学校
24	福島区	野田小学校	81	天王寺区	大江小学校	138	東淀川区	豊里南小学校
25	福島区	吉野小学校	82	天王寺区	生魂小学校	139	東淀川区	大道南小学校
26	福島区	大開小学校	83	天王寺区	天王寺小学校	140	東成区	東小橋小学校
27	福島区	鷺洲小学校	84	浪速区	塩草立葉小学校	141	東成区	大成小学校
28	福島区	海老江東小学校	85	浪速区	栄小学校	142	東成区	中道小学校
29	福島区	海老江西小学校	86	浪速区	難波元町小学校	143	東成区	北中道小学校
30	福島区	上福島小学校	87	浪速区	大国小学校	144	東成区	中本小学校
31	此花区	西九条小学校	88	浪速区	恵美小学校	145	東成区	東中本小学校
32	此花区	四貫島小学校	89	浪速区	日東小学校	146	東成区	今里小学校
33	此花区	島屋小学校	90	浪速区	日本橋小学校	147	東成区	片江小学校
34	此花区	伝法小学校	91	浪速区	敷津小学校	148	東成区	神路小学校
35	此花区	梅香小学校	92	西淀川区	柏里小学校	149	東成区	深江小学校
36	此花区	高見小学校	93	西淀川区	野里小学校	150	東成区	宝栄小学校
37	此花区	酉島小学校	94	西淀川区	姫里小学校	151	生野区	北鶴橋小学校
38	此花区	春日出小学校	95	西淀川区	姫島小学校	152	生野区	御幸森小学校
39	中央区	玉造小学校	96	西淀川区	福小学校	153	生野区	鶴橋小学校
40	中央区	南大江小学校	97	西淀川区	大和田小学校	154	生野区	東桃谷小学校
41	中央区	中大江小学校	98	西淀川区	川北小学校	155	生野区	勝山小学校
42	中央区	高津小学校	99	西淀川区	佃小学校	156	生野区	林寺小学校
43	中央区	南小学校	100	西淀川区	香簑小学校	157	生野区	生野小学校
44	中央区	開平小学校	101	西淀川区	歌島小学校	158	生野区	中川小学校
45	中央区	中央小学校	102	西淀川区	出来島小学校	159	生野区	東中川小学校
46	西区	西船場小学校	103	西淀川区	佃西小学校	160	生野区	小路小学校
47	西区	日吉小学校	104	西淀川区	佃南小学校	161	生野区	東小路小学校
48	西区	九条南小学校	105	西淀川区	御幣島小学校	162	生野区	田島小学校
49	西区	九条東小学校	106	淀川区	神津小学校	163	生野区	舎利寺小学校
50	西区	九条北小学校	107	淀川区	田川小学校	164	生野区	生野南小学校
51	西区	本田小学校	108	淀川区	加島小学校	165	生野区	巽小学校
52	西区	堀江小学校	109	淀川区	三津屋小学校	166	生野区	北巽小学校
53	西区	明治小学校	110	淀川区	新高小学校	167	生野区	西生野小学校
54	港区	市岡小学校	111	淀川区	野中小学校	168	生野区	巽南小学校
55	港区	磯路小学校	112	淀川区	十三小学校	169	生野区	巽東小学校
56	港区	三先小学校	113	淀川区	木川小学校	170	旭区	清水小学校

171	旭区	古市小学校	228	住之江区	南港光小学校	285	西成区	萩之茶屋小学校
172	旭区	大宮小学校	229	住之江区	南港緑小学校	286	西成区	今宮小学校
173	旭区	高殿小学校	230	住之江区	南港桜小学校	287	西成区	天下茶屋小学校
174	旭区	大宮西小学校	231	住之江区	南港渚小学校	288	西成区	岸里小学校
175	旭区	生江小学校	232	住之江区	清江小学校	289	西成区	玉出小学校
176	旭区	城北小学校	233	住吉区	東粉浜小学校	290	西成区	千本小学校
177	旭区	新森小路小学校	234	住吉区	住吉小学校	291	西成区	橘小学校
178	旭区	太子橋小学校	235	住吉区	長居小学校	292	西成区	梅南小学校
179	旭区	高殿南小学校	236	住吉区	依羅小学校	293	西成区	弘治小学校
180	城東区	榎並小学校	237	住吉区	墨江小学校	294	西成区	松之宮小学校
181	城東区	関目小学校	238	住吉区	遠里小野小学校	295	西成区	長橋小学校
182	城東区	鯰江小学校	239	住吉区	清水丘小学校	296	西成区	北津守小学校
183	城東区	今福小学校	240	住吉区	南住吉小学校	297	西成区	津守小学校
184	城東区	聖賢小学校	241	住吉区	大領小学校	298	西成区	南津守小学校
185	城東区	鴫野小学校	242	住吉区	苅田小学校			
186	城東区	中浜小学校	243	住吉区	山之内小学校			
187	城東区	城東小学校	244	住吉区	苅田南小学校			
188	城東区	諏訪小学校	245	住吉区	苅田北小学校			
189	城東区	成育小学校	246	住吉区	大空小学校			
190	城東区	すみれ小学校	247	東住吉区	桑津小学校			
191	城東区	東中浜小学校	248	東住吉区	北田辺小学校			
192	城東区	放出小学校	249	東住吉区	田辺小学校			
193	城東区	関目東小学校	250	東住吉区	東田辺小学校			
194	城東区	森之宮小学校	251	東住吉区	南田辺小学校			
195	城東区	鯰江東小学校	252	東住吉区	南百済小学校			
196	鶴見区	榎本小学校	253	東住吉区	育和小学校			
197	鶴見区	茨田南小学校	254	東住吉区	鷹合小学校			
198	鶴見区	茨田北小学校	255	東住吉区	今川小学校			
199	鶴見区	鶴見小学校	256	東住吉区	矢田小学校			
200	鶴見区	今津小学校	257	東住吉区	矢田東小学校			
201	鶴見区	茨田東小学校	258	東住吉区	矢田西小学校			
202	鶴見区	茨田西小学校	259	東住吉区	矢田北小学校			
203	鶴見区	横堤小学校	260	東住吉区	湯里小学校			
204	鶴見区	みどり小学校	261	東住吉区	長谷川小学校			
205	鶴見区	鶴見南小学校	262	平野区	喜連小学校			
206	鶴見区	茨田小学校	263	平野区	平野西小学校			
207	鶴見区	焼野小学校	264	平野区	平野小学校			
208	阿倍野区	高松小学校	265	平野区	長吉小学校			
209	阿倍野区	常盤小学校	266	平野区	瓜破小学校			
210	阿倍野区	金塚小学校	267	平野区	加美小学校			
211	阿倍野区	丸山小学校	268	平野区	加美南部小学校			
212	阿倍野区	晴明丘小学校	269	平野区	平野南小学校			
213	阿倍野区	阿倍野小学校	270	平野区	長吉東小学校			
214	阿倍野区	阪南小学校	271	平野区	喜連西小学校			
215	阿倍野区	長池小学校	272	平野区	長吉南小学校			
216	阿倍野区	苗代小学校	273	平野区	瓜破北小学校			
217	阿倍野区	晴明丘南小学校	274	平野区	長原小学校			
218	住之江区	粉浜小学校	275	平野区	喜連東小学校			
219	住之江区	安立小学校	276	平野区	瓜破東小学校			
220	住之江区	敷津浦小学校	277	平野区	長吉六反小学校			
221	住之江区	加賀屋小学校	278	平野区	加美北小学校			
222	住之江区	住吉川小学校	279	平野区	長吉出戸小学校			
223	住之江区	北粉浜小学校	280	平野区	瓜破西小学校			
224	住之江区	住之江小学校	281	平野区	喜連北小学校			
225	住之江区	平林小学校	282	平野区	加美東小学校			
226	住之江区	加賀屋東小学校	283	平野区	川辺小学校			
227	住之江区	新北島小学校	284	平野区	新平野西小学校			

◇平成26年度　中学校一覧

北区	都島区	中央区	西淀川区	東成区	東住吉区	住吉区	天王寺区
北稜	高倉	東	淀	東陽	田辺	三稜	天王寺
大淀	桜宮	南	西淀	本庄	東住吉	我孫子	夕陽丘
豊崎	都島	上町	歌島	玉津	中野	住吉	高津
新豊崎	淀川	西区	佃	相生	矢田	大和川	天王寺夜間
天満	友渕	西	東淀川区	生野区	白鷺	東我孫子	浪速区
天満夜間	旭区	花乃井	淡路	大池	矢田南	墨江丘	難波
福島区	旭陽	堀江	柴島	勝山	矢田西	大領	日本橋
八阪	大宮	港区	瑞光	生野	平野区	我孫子南	木津
下福島	旭東	市岡	中島	東生野	摂陽	住之江区	阿倍野区
野田	今市	港	東淀	田島	平野	住吉第一	昭和
此花区	城東区	港南	井高野	鶴橋	長吉	加賀屋	文の里
春日出	放出	市岡東	新東淀	巽	瓜破	住之江	阪南
梅香	蒲生	築港	大桐	新生野	加美	新北島	松虫
此花	城陽	大正区	淀川区	新巽	長吉西	南港北	阿倍野
咲くやこの花	菫	大正東	十三	東生野夜間	喜連	南港南	文の里夜間
弘済	城東	大正中央	新北野		長吉六反	真住	
	鯰江	大正西	三国		瓜破西	西成区	
	鶴見区	大正北	美津島		加美南	天下茶屋	
	茨田		東三国		平野北	今宮	
	緑		宮原			成南	
	茨田北				長谷川	鶴見橋	
	今津					玉出	
	横堤					梅南	

教委支第１０４７号
平成２７年４月６日

学校法人　大阪成蹊学園
理事長　石　井　　茂　様

大阪府教育委員会
教育長　向井　正博

介護等体験受入承諾書

学校法人大阪成蹊学園が設置する大阪成蹊短期大学の教職課程に係る介護等体験の受け入れについて、下記のとおり承諾します。

記

１．介護等体験の受け入れに係る学科及び免許状の種類
　生活デザイン学科（入学定員５０名）
　　中学校教諭二種免許状（家庭）

２．介護等体験（特別支援学校）の受入時期
　平成２８年４月以降

３．受入可能学校数（平成２６年５月１日現在）
　特別支援学校　１校程度
　（平成２７年度中に決定し、平成２８年度以降実施する）

以上

介護等体験受入承諾書

平成27年3月25日

学校法人　大阪成蹊学園
理事長　石　井　　茂　様

社会福祉法人　大阪府社会福祉協議会
常務理事　井手之上優　印

学校法人大阪成蹊学園が設置する大阪成蹊短期大学の教職課程に係る介護等体験の受け入れについて、下記のとおり承諾します。

記

1．介護等体験の受け入れに係る学科及び免許状の種類
　生活デザイン学科（入学定員５０名）
　　中学校教諭二種免許状（家庭）

2．介護等体験（社会福祉施設）の受入時期
　平成２８年４月以降

3．受入可能施設数　（平成２６年５月１日現在）
　社会福祉施設　79　施設

以上

H27年度介護等体験受入可能施設一覧(大阪市内)

	ID	法人名	施設名	種別	住所
1	H005	(福)みなと寮	救護施設　第2港晴寮	救護施設	大阪市港区田中3−1−130
2	H009	(福)大阪自彊館	白鷺寮	救護施設	大阪市西成区天下茶屋1−3−17
3	H011	(福)大阪自彊館	甲子寮	救護施設	大阪市西成区天下茶屋1−3−17
4	H012	(福)大阪自彊館	三徳寮	救護施設	大阪市西成区萩之茶屋1−9−14
5	J015	社会福祉法人　みおつくし福祉会	南さくら園	母子生活支援施設	大阪市阿倍野区阪南町5−12−24
6	J016	社会福祉法人　大念仏寺社会事業団	ボ・ドーム大念仏	母子生活支援施設	大阪市平野区平野上町1−7−3
7	J064	社会福祉法人　大阪福祉事業財団	豊里学園	障害児入所施設　福祉型	大阪市旭区太子橋1−16−24
8	J066	(福)いわき学園	敷津浦学園	障害児入所施設	大阪市住之江区南加賀屋3−10−27
9	R015	(福)仁晃会	養護老人ホームすみれ苑	養護老人ホーム	大阪市西区川口3−6−14
10	R016	(福)天森醫和会	天森養護老人ホーム	養護老人ホーム	大阪市天王寺区城南寺町2−23
11	R025	(社)宥恵会	ゆうけいハートフル	養護老人ホーム	大阪市住吉区遠里小野2-7-20
12	R047	(福)　都島友の会	特別養護老人ホームひまわりの郷	特別養護老人ホーム	大阪市都島区都島本通4−10−19
13	R050	(福)ともしび福祉会	特別養護老人ホーム福島ともしび苑	特別養護老人ホーム	大阪市福島区吉野5−6−11
14	R052	(福)芙蓉福祉会	ケアセンター水都ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市此花区西九条1−1−2
15	R054	(福)亀翠会	特別養護老人ホーム江之子島コスモス苑	特別養護老人ホーム	大阪市西区江之子島1−8−44
16	R062	(福)四天王寺福祉事業団	四天王寺きたやま苑	特別養護老人ホーム・デイサービスセンター	大阪市天王寺区北山町9−6
17	R066	(福)松福会	西淀川特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市西淀川区大和田2−5−11
18	R067	(福)井高野福祉会	特別養護老人ホーム井高野園	特別養護老人ホーム	大阪市東淀川区井高野3−1−58
19	R069	(福)大阪自彊館	特別養護老人ホームジュネス	特別養護老人ホーム	大阪市東淀川区東淡路1−4−49
20	R073	(福)クローバー会	特別養護老人ホームサン・アクエリア	特別養護老人ホーム	大阪市生野区新今里4−11−17
21	R074	(福)弘仁会	特別養護老人ホームレインボー今里	介護老人福祉施設　特別養護老人ホーム	大阪市生野区中川1−6−20
22	R080	(福)リベルタ	生江特別養護老人ホーム白寿荘	特別養護老人ホーム	大阪市旭区生江3−27−1
23	R081	(福)旭長寿の森	特別養護老人ホームあいあい	特別養護老人ホーム	大阪市旭区赤川1−6−12
24	R086	(福)恩賜財団済生会支部大阪府済生会	野江特別養護老人ホーム城東園	特別養護老人ホーム	大阪市城東区今福東2−2−25
25	R089	(福)育徳会	特別養護老人ホームいくとく	特別養護老人ホーム	大阪市阿倍野区天王寺町北3-18-16
26	R090	(福)大阪平成会	ふれ愛丸山荘	特別養護老人ホーム	大阪市阿倍野区丸山通1−2−8
27	R095	(福)帝塚山福祉会	帝塚山特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市住吉区帝塚山東2−1−35
28	R099	(福)城南福祉会	特別養護老人ホーム城南ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市東住吉区住道矢田4-20-17
29	R101	(福)隆生福祉会	特別養護老人ホームゆめあまみ	特別養護老人ホーム	大阪市東住吉区矢田7−6−10
30	R103	(福)牧方報育園	特別養護老人ホーム山愛	特別養護老人ホーム	大阪市西成区南津守1−4−7
31	R113	(福)ジー・ケー社会貢献会	介護老人福祉施設グルメ杵屋社会貢献の家	特別養護老人ホーム	大阪市住之江区浜口東2−5−14
32	R117	(福)和悦会	加美北特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市平野区加美北7−1−2
33	R118	(福)愛和福祉会	特別養護老人ホーム愛和	特別養護老人ホーム	大阪市平野区長吉六反2−1−6
34	R119	(福)永寿福祉会	特別養護老人ホーム長吉	特別養護老人ホーム	大阪市平野区長吉川辺3-20-14
35	R120	社会福祉法人　友篤会	特別養護老人ホーム紅生園喜連東	特別養護老人ホーム	大阪市平野区喜連東5−13−30
36	R121	社会福祉法人永寿福祉会	永寿特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市平野区瓜破南1−2−11
37	R122	(福)永寿福祉会	特別養護老人ホーム喜連	特別養護老人ホーム	大阪市平野区喜連2丁目2−40
38	R123	社会福祉法人　恩賜財団済生会支部大阪府済生会	中津特別養護老人ホーム喜久寿苑	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	大阪市北区芝田2−10−39
39	R124	(福)北慶会	特別養護老人ホーム北野よろこび苑	特別養護老人ホーム	大阪市北区神山町15−12
40	R311	(福)森の宮福祉会	高齢者総合ケアセンター　ハミングベル中道	特別養護老人ホーム	大阪市東成区中道2−7−1
41	R329	社会福祉法人　寄恵会	特別養護老人ホームゆうけい創和	特別養護老人ホーム	大阪市住吉区遠里小野2−7−20
42	R360	(福)城南福祉会	デイサービスセンター博寿荘	デイサービスセンター	大阪市平野区喜連東3−6−40
43	R361	(福)治栄会	からまつ苑デイサービスセンター	デイサービスセンター	大阪市都島区中野町5−10−70
44	R372	(福)南海福祉事業会	ブルーム北加賀屋	デイサービスセンター	大阪市住之江区北加賀屋1−5−6
45	R536	医療法人明生会	介護老人保健施設桜の宮苑	介護老人保健施設	大阪市都島区都島中通1−7−1
46	R541	(医)社団　緑会	介護老人保健施設エバーグリーン	介護老人保健施設	大阪市大正区泉尾2−20−4
47	R549	宗教法人　在日本南プレスビテリアンミッション	淀川キリスト教病院老人保健施設	介護老人保健施設	大阪市東淀川区淡路2−1−41
48	R555	特定医療法人　清翠会	大阪市立介護老人保健施設おとしよりすこやかセンター北部館	介護老人保健施設	大阪市旭区高殿6−14−41
49	R556	特定医療法人　清翠会	牧老人保健施設	介護老人保健施設	大阪市旭区生江2−15−14
50	R566	(医)橘会	介護老人保健施設たちばな	介護老人保健施設	大阪市東住吉区住道矢田9-11-11
51	R572	(医)協和会	淀川老人保健施設ハートフル	介護老人保健施設	大阪市淀川区十三東5−3−29
52	R582	(福)永寿福祉会	永寿ケアセンター	介護老人保健施設	大阪市平野区瓜破南1−2−30
53	R586	医療法人　泰山会	介護老人保健施設青葉	介護老人保健施設	大阪市北区中崎西3−3−40
54	R678	(医)医誠会	介護老人保健施設エスペラル井高野	介護老人保健施設	大阪市東淀川区井高野4−6−37
55	R702	(福)和悦会	浜特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	大阪市鶴見区浜5-6-14
56	R709	福)浪速松楓会	特別養護老人ホーム寿幸苑	特別養護老人ホーム	大阪市生野区林寺4-13-14
57	R737	社会福祉法人　凛風会	デイサービスセンター凛風おおさか	老人デイサービスセンター	大阪市北区大淀南2-5-20
58	R741	社会福祉法人　永寿福祉会	長吉デイサービスセンター	デイサービスセンター	大阪市平野区長吉川辺3-20-14
59	R752	社会福祉法人　芙蓉福祉会	介護老人保健施設なごみだいら	介護老人保健施設	大阪市西淀川区福町2丁目11-7
60	R753	社会福祉法人　治栄会	わかまつ園	障害者支援施設	大阪市城東区野江3丁目10-22
61	S004	(福)日本ライトハウス	日本ライトハウスきらきら	障害者支援施設	大阪市鶴見区今津中2−4−37
62	S021	(福)恩賜財団済生会支部大阪府済生会	障害者支援施設　北村園	障害者支援施設	大阪市大正区北村3−5−10
63	S022	(福)大阪自彊館	エフォール	障害者支援施設	大阪市東淀川区東淡路1−4−49
64	S167	(福)牧方報育園	第一博愛	障害者支援施設	大阪市西成区南津守1−4−7
65	S191	(福)日本ヘレンケラー財団	ふるうむ此花	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市此花区島屋3−2−32
66	S199	(福)大阪福祉事業財団	あさひ希望の里	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市旭区太子橋1−16−22
67	S201	(福)大阪福祉事業財団	すみれ共同作業所	障害者福祉サービス事業を行う施設	大阪市城東区古市1−21−38
68	S203	(福)四天王寺福祉事業団	障害者活動センター四天王寺さんめい苑	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市阿倍野区三明町1−2−29
69	S296	(福)ノーマライゼーション協会	西淡路希望の家	知的障害者通所授産施設	大阪市東淀川区西淡路1−13−28
70	S298	(福)ひがしよどがわ福祉会	あすわ〜く	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市東淀川区豊新1−3−3
71	S299	(福)　あさか会	はぁとらんど浅香	障害福祉サービス事業を行なう施設	大阪市住吉区浅香1−7−15
72	S442	(福)大阪市障害者福祉・スポーツ協会	大阪市立中央授産場	知的障害者援護施設・身体障害者援護施設	大阪市天王寺区東上町4−17
73	S448	(福)よさみ野福祉会	よさみ野障害者作業所	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市住吉区山之内4−12−31
74	S450	(福)大阪府肢体不自由者協会	なにわの宮	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市中央区法円坂1-1-35アネックスパル法円坂　5階
75	S451	(福)大阪府家内労働センター	連合授産場	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市天王寺区上汐5−2−3
76	S453	(福)永寿福祉会	永寿の里　若葉	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市平野区長吉川辺3丁目20番14号
77	S599	(福)日本ヘレンケラー財団	障害者支援施設アテナ平和	障害者支援施設	大阪市阿倍野区美章園3-7-2
78	S607	社会福祉法人　大阪聴覚障害者福祉会	あいらぶ工房	障害福祉サービスを行なう施設	大阪市港区港晴1-7-4
79	S615	社会福祉法人　なかま福祉会	みつき	障害福祉サービス事業を行う施設	大阪市城東区鴫野東1-6-25

学生の確保の見通し等を記載した書類

１　学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）学生の確保の見通し

①　定員充足の見込み

生活デザイン学科は、現在の総合生活学科生活デザインコースの教育課程を踏襲し、学科を設置するもので、生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材の育成をめざす。

本学科の基となる、総合生活学科の募集状況は資料 1 のとおりであり、志願者数等安定的に推移している。また、現在の生活デザインコースでは、平成 23 年度から平成 26 年度の総合生活学科入学者のうち、毎年 50 人程度のコース希望者を受け入れており、平成 27 年度は 61 人であった（資料 2 参照)。

一方、生活デザイン学科への社会的な人材需要の動向に目を向ければ、アパレル・ファッション業界において、専門の知識・技術を備えた人材の需要は根強くあり、本学においても生活デザインコースの就職率は毎年高く、平成 26 年度卒業者の就職内定率は 100%である。

本学では、このような社会の要請に応えるため生活デザイン学科を設置し、入学定員を 50 人とする。入学定員設定の考え方は、従来の総合生活学科入学者の、学科の基となる生活デザインコースへの希望状況（資料 2 参照）や、高校生への進学希望アンケート調査の結果（資料 3 参照）及び、本学科の教員数や施設設備をもとに本学科の特色である各種技術の修得を図る実習指導に相応しいきめ細かい指導を可能にする少人数クラス編成等を勘案して設定した。

また、定員充足の根拠については、従来の総合生活学科入学者の、学科の基となる生活デザインコースへの希望状況（資料 2 参照）や、高校生への進学希望アンケート調査の結果（資料 3 参照)、生活デザインコースで実施した平成 26 年度新入生アンケート調査の結果（資料 4-1～4-3 参照)、及び本学の取組実績等としている。

なお、入学定員は後述に示すとおり、客観的データに基づき算出したものであることから確実に充足する見込みであり、また大阪府の 18 歳人口の推移と本学科の基となる総合生活学科の志願倍率の状況は資料 5-1,5-2 のとおりであり、長期的かつ安定的に学生の確保を図ることができる見通しである。

②　定員充足の根拠となる客観的な調査結果の概要

生活デザイン学科の基となる総合生活学科の募集状況は、資料 1 のとおりである。総合生活学科の過去 5 ヵ年の推移を見ると、志願者数は平成 23 年度が 250 人で平成 27 年度で

は 323 人、受験者数は平成 23 年度が 249 人で平成 27 年度が 321 人であり、志願倍率においては平成 23 年度が 1.14 倍で平成 27 年度では 1.47 倍となった。また、従来の総合生活学科入学者の、生活デザイン学科の基となる生活デザインコースの希望者数は、資料 2 のとおり、毎年 50 人程度となっており、平成 27 年度は 61 人であった。生活デザインコースは、根強い人気で毎年 50 人程度が確実に希望している。

一方、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」（平成 22 年度版～26 年度版）のデータによると「学科系統別の動向」（家政系）の過去 5 ヵ年の志願倍率及び入学定員充足率は、平成 22 年度 1.35 倍／87.72%、23 年度 1.30 倍／84.78%、24 年度 1.29 倍／83.45%、25 年度 1.36 倍／87.01%、26 年度 1.31 倍／84.48%と志願倍率はほぼ 1.3 倍で入学定員充足率は 80%台の半ばを上下して推移している（資料 6 参照）。さらに、同事業団の「規模別の動向」で本学が位置すると思われる入学定員 500 人以上の短期大学について、過去 5 ヵ年の志願倍率及び入学定員充足率を見てみると、平成 22 年度 2.08 倍／102.41%、23 年度 2.03 倍／98.96%、24 年度 2.04 倍／95.97%、25 年度 2.08 倍／100.61%、26 年度 2.24 倍／100.74%と志願倍率は安定して 2 倍を上回っている（資料 7 参照）。また、入学定員充足率は、資料 7 のとおり平成 23 年度、24 年度は 100%を若干下回ったが、平成 25 年度から 100%台へと回復しており、募集が安定していることが見て取れる。これに対し、本学の現総合生活学科の直近の募集状況において、志願倍率は「学科系統別の動向」に示す 1.3 倍より高く、加えて平成 24 年度以降は入学定員を充足している（資料 1 参照）。また、高校生の進路決定には、短大の入学定員規模が大きな判断要素となっていることが資料 7 の直近の 5 ヵ年のデータにより明らかであり、入学定員が 500 人を超える本学は、今後もこの傾向が続くものと考えられ、学生確保の根拠となるデータである。

また、受験校選びの判断材料を得るための重要な機会となっている本学科のオープンキャンパスにおいて、総合生活学科の生活デザインコースを目的として参加する生徒数は平成 23 年度募集の 144 人から平成 27 年度募集では 171 人と、対平成 23 年度比 1.23 倍の来場者数となっている（資料 8 参照）。コース希望者数と同様に大きな増減はないものの根強い人気のある学びの分野であることが分かる。

さらに、長期的に安定して学生を確保できる根拠として、本学の地元である大阪府の 18 歳人口の動態を基に説明する。大阪府の 18 歳人口の今後の推移は 5-1 のとおりである。本学総合生活学科の平成 27 年度入試の志願倍率は、1.47 倍であり、大阪府における平成 27 年度入試の対象となる 18 歳人口は、80,765 人である。また、平成 37 年度入試の対象となる 18 歳人口は 72,882 人となり、対 27 年度比は 90.2%となる。本学の 1.47 倍の志願倍率に対 27 年度比の大阪府における 18 歳人口の変動率 90.2%を単に乗じると平成 37 年度入試の志願倍率は 1.33 倍と予測され、現状と大きな差異はなく長期的、安定的に学生確保ができると考える（資料 5-2 参照）。

次に、現総合生活学科の入学者に対するアンケートの分析を元に、本学と競合校の状況及び本学の強みを明らかにし、定員充足の根拠を示す。

本学では、毎年、新入生に対しアンケートを実施している（コース毎に調査を実施）。その中に、本学及び他校のオープンキャンパスへの参加状況や、他校への受験状況を尋ねる項目を設定している。平成 26 年度の総合生活学科の生活デザインコースの新入生に対するアンケートの回答状況は資料 4-1～4-3 のとおりである。資料 4-1 をみると、アンケートに回答した生活デザインコースの新入生の 90.2%が 1 回以上本学のオープンキャンパスに参加していると回答しており、オープンキャンパスが、受験生が志望校を決定するにあたり重要な判断要素となっていることが分かる。また、同新入生の 56.9%が他の大学、短期大学、専門学校等のオープンキャンパスに参加したと回答しているが、実際に受験したと回答したのは、3.9%に留まっている。すなわち、新入生の半数以上は、他校のオープンキャンパスに参加し、進学先として本学と他校とを比較したうえで、本学を選択しているということである。これらの数字は、生活デザインコースの教育内容や環境等に十分魅力を感じて選択していることを表しており、教育に対する評価、人気の表れと理解できる。

同アンケートにおいては、具体的にどこの大学、短期大学、専門学校等のオープンキャンパスに参加しているかについても尋ねている。それらの回答のうち、短期大学に限定した場合、回答を得た生活デザインコース新入生のオープンキャンパス参加校や参加件数の状況は資料 4-2 のとおりである。また同新入生の本学への入学理由については資料 4-3 のとおりとなっている。同アンケートの調査結果に基づき、競合校等の分析を以下に示す。

生活デザイン学科の競合校となるのは、資料 4-2 より、大阪夕陽丘学園短期大学、大手前短期大学、大阪女子短期大学であるといえる。しかし、大阪夕陽丘学園短期大学キャリア創造学科には、ファッションクリエイトコースに加え、フードデザインコースや製菓クリエイトコース等が含まれており、大手前短期大学についてはユニット自由選択制をとっている。また、大阪女子短期大学においても、生活科学科にライフプロデュース専攻と食物栄養専攻が混在しているため、同系統の学びに対する募集状況を抽出することができなかった。なお、同アンケート調査の上位に位置する大阪青山大学短期大学部及び関西外国語大学短期大学部には同系統の学科等は設置していないので除外した。そのため、競合校の募集状況を明らかにすることができなかった。しかし、こうした競合校に対し、生活デザインコース新入生のうち、これら競合する学びを含む他の短期大学を受験した者はなく、生活デザイン学科の募集においても安定して学生を確保できると考えられる。また、先の新入生アンケートでは、本学に入学を決めた理由として、「資格、免許取得に有利」という理由が最も多いが（資料 4-3 参照）、本学を含め、競合短期大学のホームページにおける該当コース紹介ページで「取得できる免許や資格」として挙げられているものは資料 9 のとおりである。本学では、中学校教諭二種免許（家庭）を含む、10 種類の資格、免許を掲げており、他校と比して充実している。今回設置する生活デザイン学科においてもこうした幅広い資格等の取得のサポートを充実させるため、学生確保につながると考えている。

さらに本学では、併設の大阪成蹊女子高校から内部進学者が入学している。平成 23 年度以降の実績は資料 10 のとおりである。生活デザインコースでは、平成 23 年度は 0 人、平成 24 年度は 2 人であったが、平成 25 年度 5 人、26 年度 6 人、27 年度は 15 人と年々増加している。これは、後述するが、併設高校から本学への内部進学を強化する学園方針に基づく施策の実施によるものであり、今後ともこの施策を継続するため、本学科への併設高校からの内部進学者は、平成 28 年度入学生募集以降も一定数見込めるものと考える。

また、生活デザイン学科の入学定員を 50 人と設定するにあたって、平成 28 年度募集の対象となる現高校 2 年生を対象とした進学希望アンケート調査を平成 27 年 2 月 17 日から 3 月 13 日の間で実施した。アンケート結果は以下のとおりである（資料 3 参照)。

アンケートの実施にあたっては、調査を依頼する高校を次の条件で抽出した。

①平成 26 年度の入試において本学を含めた短期大学への進学実績が 10 人以上の高校

②過去 5 ヵ年で本学への志願実績のある高校

③主に大阪北部等本学への通学に便利な高校

①については、各校のホームページ及び受験情報誌により対象校を抽出した。②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪府北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県（神戸市以東）とした。本調査は①から③までの全ての条件を満たした高校 47 校（併設の大阪成蹊女子高校を含む）で実施した。実施にあたっては、本学の入試広報部の職員が各校の進路指導部等に訪問し、調査の趣旨等を説明の上、協力をお願いし、承諾を得た高校には、後日アンケート用紙を必要部数送付或いは持参し、各校において実施いただいた。回収は、郵送或いは入試広報部員が訪問し行った。なお、学科の名称、養成する人物像、設置場所（アクセス)、学生納付金、競合する短期大学及び学科の名称を中心に、高校生に対し必要な情報を明示し、実施している。また、高校生の負担を考慮して、本学が同時に学科設置を構想している調理・製菓学科、栄養学科及び収容定員増を構想している幼児教育学科を含めた 4 学科について、同一のアンケート用紙を用いて一括で実施した。

アンケート調査は、全 3 問を設定し、問 1 で性別、問 2 で進学希望、問 3 で居住地を問い、それぞれ〇印で選択する方式とした。調査の結果、問 2 の「以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか」において生活デザイン学科に〇印を付した高校生が併設高校の 41 人を含めて 434 人であった。入学定員の 50 人に対し、8.68 倍となる回答を得ており、定員を充足できる根拠となる調査結果であった。

以上のとおり、生活デザイン学科の定員充足の根拠となる調査結果の概要に示した従来の総合生活学科の募集状況、全国の同系統の学科の動向、規模別による動向等データ及び、生活デザイン学科の基となる生活デザインコースへの希望者の推移、オープンキャンパス

への参加者数の推移、新入生アンケートの分析、併設高校からの内部進学者数の推移、平成 28 年度募集対象の高校生への進学希望アンケート調査の結果、大阪府の 18 歳人口の推移に伴う平成 37 年度の志願倍率の予測等データにより、新設する生活デザイン学科の入学者を、長期的に安定して確保できると考える。

③　学生納付金の設定の考え方

生活デザイン学科の学生納付金は、入学金が 25 万円、授業料が 102 万円で、初年度納入額が 127 万円、2 年次が授業料 102 万円で、2 年間の学生納付金額は 229 万円となっている。他の短期大学との比較は資料 11 のとおりである。実習費、諸会費等は、実費負担での表記が多いため、省いている。また本学は授業料に施設費等を含めている。

2 年間の学生納付金額を競合校と比較すると、本学を含めた 4 校の平均は 230 万円であり、本学の学生納付金はこれらのほぼ中間の金額となっており、社会的にも適切な金額と考えている（資料 11 参照）。

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

本学園では平成 22 年度から新理事長が就任し、経営陣を刷新するとともに、学園の諸改革に着手した。特に、学生募集については、組織の整備（募集本部、入試企画部、入試広報部、入試事務部、広報部の設置）、陣容強化（担当理事制、本部長職、2 部長制の導入）、募集要員の増員、教職協働組織の立上げ（理事長、学長をはじめ、教職員幹部が全員参加する募集強化対策会議を月一回の定例開催）等学生募集業務全般の見直しを行った。その結果として、本学及び併設大学の入学者数は資料 12-1 のとおり、平成 23 年度の 1,129 人から平成 27 年度は 1,547 人となり、本学及び併設大学とも入学定員を充足している。なお、本学では資料 12-2 のとおり、平成 23 年度の 602 人から平成 27 年度は 697 人の入学者数となった。また、併設高校から本学への内部進学の強化を重点課題として取上げ、高大連携の一層の促進、教員の交流の促進等取り組んでいる。その成果として内部進学者数が平成 23 年度の 46 人から平成 27 年度は 178 人まで増加したことも、短期大学の学生募集に大いに貢献している（資料 13 参照）。

上記は、以下の学生確保に向けた各取組の成果であると考えている。

① 高校訪問

前述の通り、組織の整備や担当役員の配置及び募集要員の増員等さらに教職協働組織の立上げ等により、近隣高校への募集訪問を強化した。訪問高校数や訪問回数を増やし、教員と職員が同道する回数を増やすことで学科等の説明をより詳細に行い、本学への理解を深めている。

② オープンキャンパス

本学では、3 月から 12 月まで合計 12 回のオープンキャンパスを実施して、高校生の本学への理解を深めている。毎回各学科等ごとに工夫をこらし模擬授業等様々なイベントを実施している。また、大学の施設設備等を知る機会としてキャンパスツアーを実施したり、入試対策講座を実施したり、多様な受験機会を活用できるように入試説明会を開催している。

③ 進学相談会

3月から翌年2月にかけて実施される広告代理店等の企画する会場での進学相談会に平成27年度募集では183会場に参加した。大阪、京都、兵庫を中心に奈良、和歌山或いは中国・四国地方等近畿圏以外の入学実績のある地域にも参加をして受験生獲得を目指している。

④ 各高校内入試説明会

高校内で開催される入試説明会へも積極的に参加している。高校から本学へ直接要望があるケースと広告代理店が企画するものがあり、平成 27 年度募集では 200 校以上に参加している。

⑤ 高校教員対象入試説明会

高校の進路指導担当教員を本学に招き、入試全般の説明や学校見学会を実施し、本学への理解を深めていただき、高校生への進路指導の一助となる機会を設けている。

⑥ インターネット等広報ツール

地域を選ばず、不特定多数への広報が可能なインターネットは、最近では特に重要な広報ツールとなっている。本学においても広報部を設置して、担当の職員によるきめ細かな管理を行い、高校生や保護者、高校教員等にタイムリーな情報等の発信に務めている。

また、本学の学びや特色等をより説明するためのツールとして大学案内を作成し、高校進路指導部への送付やオープンキャンパス、進学相談会等において高校生に手渡すなどしている。さらに、受験産業が発行する受験情報誌も積極的に活用し、受験生獲得を図っている。

⑦ マスメディアの広報

本学では、平成25年より、4月から11月にかけてテレビを活用した広報を実施している。また、朝日新聞、読売新聞等全国紙を活用した広報も毎年行っている。

⑧併設高校生及び教員対象説明会

併設校の生徒及び教員の本学への理解を深めるため、それぞれ説明会を実施している。特に、生徒に対しては、ミニオープンキャンパスの形態で、模擬授業等を行い、本学への進学意欲向上へとつなげている。

以上の通り、様々な機会や媒体を活用して高校生、保護者、高校教員等の本学への理解を深める取り組みを行っており、次年度以降も方針に変更はなく一層精力的に広報活動等の学生確保に向けた具体的取り組みを展開する予定である。

２　人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する。

（２） 上記（１）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

① 社会的な人材需要の動向

矢野経済研究所「国内アパレル市場に関する調査結果 2014」によれば、2013 年の国内アパレル総小売市場規模は前年比 101.4%の 9 兆 2925 億円であった（資料 14 参照)。品目別でみても、紳士服、婦人服、ベビー・子ども服のいずれも前年を上回っている。こうした市場規模の拡大に対して、特に販売職の人材不足が課題となっている。発行部数 20 万部のファッションビジネス専門誌「繊研」の電子版 2014 年 9 月 5 日の記事「売り手市場が顕著、厳しい採用環境」によれば、退職者の補充や出店に伴う人の手当てが追いつかず、昨年から高卒も含め新規採用枠を拡大する企業が増えており、昨今ファッションビジネスにおける就職セミナーの開催や参加企業が増えている（資料 15 参照)。このようなアパレル・ファッション業界における動向をみるに、本学科の人材養成の目的である生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材の育成は、上記のとおり社会の要請に応えるものである。

② 地域的な人材需要の動向

地域的な人材需要の動向を明らかにするものとして、企業への本学科卒業生の採用意向調査（アンケート）を平成 27 年 1 月 26 日から 2 月 27 日の間で実施した（資料 16 参照)。

このアンケートは、本学就職部の職員がアンケート用紙を持参し、アパレル・ファッション業界企業の人事担当者に本学に新設する学科の概略を記した案内をもとに育成する人材像等を含めた、学科設置の趣旨の説明を行ったうえで実施したものである。調査対象として、本学の現総合生活学科での採用実績企業を中心に、アパレル・ファッション業界及びその周辺企業 29 社を抽出した。

アンケートでは、「Ｑ１．大阪成蹊短期大学生活デザイン学科の卒業生を採用する可能性はありますか？（あてはまるもの１つに○を、1.を選択する場合には予定人数をご記入ください)」との設問に合計 27 社から採用したいとの回答を得、予定採用人数は 83 人であった。入学定員 50 人に対し、1.66 倍の採用人数の回答を得た。

こうした地域的な人材需要の状況は、生活デザインコースの就職内容に反映されている。過去 3 ヶ年の生活デザインコースの就職率は資料 17 のとおりであり、平成 24 年度 96.7%、

平成 25 年度 96.9%、平成 26 年度 100%となっており、地域からの人材需要の高さを表している。

本学科の人材養成の目的である生活全般に対する理解を深めながら、衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材の育成は、上記のとおり地域の要請にも応えるものである。

資料目次

(資料1)　総合生活学科募集状況（平成23年度～27年度）

(資料2)　総合生活学科入学者の各コースへの希望者数（平成23年度～27年度）

(資料3)　進学希望アンケート調査（生活デザイン学科）

(資料4-1)　平成26年度新入生アンケート回答結果（生活デザインコース）

(資料4-2)　本学生活デザインコース平成26年度新入生の本学以外の短期大学オープン
キャンパス参加校、参加件数及び受験校、受験件数の内訳

(資料4-3)　本学生活デザインコース平成26年度新入生の本学入学理由

(資料5-1)　大阪府の18歳人口の推移（平成27年度～37年度）

(資料5-2)　総合生活学科の平成37年度学生募集の志願倍率の算出

(資料6)　学科系統別の動向（家政系）

(資料7)　規模別の動向（平成23年度～26年度）

(資料8)　オープンキャンパス参加者数（平成23年度～27年度入学生の募集）

(資料9)　本学生活デザイン学科及び競合短期大学で「取得できる免許や資格」の比較

(資料10)　併設高校からの内部進学者数（平成23年度～27年度）

(資料11)　本学生活デザイン学科競合校の学生納付金一覧

(資料12-1)　大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学の
3大学合計の入学者数推移

(資料12-2)　大阪成蹊短期大学の入学者数推移

(資料13)　併設高校から本学各学科への内部進学者数推移（平成23年度～27年度入学）

(資料14)　国内アパレル総小売市場規模推移

(資料15)　繊研　（電子版　2014年9月5日）

(資料16)　大阪成蹊短期大学　生活デザイン学科（平成28年4月　届出設置予定）
構想に係るアンケート調査

(資料17)　過去3ヵ年の総合生活学科各コースの就職状況（平成24年度～26年度）

（資料1） 総合生活学科募集状況（平成23年度～27年度）　（単位：人）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
入学定員(A)	220	220	220	220	220
志願者数(B)	250	276	286	353	323
受験者数	249	275	283	351	321
合格者数	246	264	272	302	289
入学者数	212	247	254	284	266
志願倍率(B)/(A)	1.14	1.26	1.30	1.60	1.47

（資料2） 総合生活学科入学者の各コースへの希望者数（平成23年度～27年度）　（単位：人）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
生活デザインコース	50	44	49	54	61
食物コース	82	84	102	112	96
栄養コース	80	119	103	118	109
総合生活学科　計	212	247	254	284	266

（資料 3）

進学希望アンケート調査
（生活デザイン学科）

目　次

1．調査概要

2．生活デザイン学科アンケート集計結果

3．調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

1. 調査概要

（1） 調査目的　：本調査は、平成28年4月設置予定の大阪成蹊短期大学生活デザイン学科（仮称）の学生確保の見通しについて客観的なデータを取得するために実施した。
なお、本調査は、高校生の負担を考慮して、本学が同時に設置する調理・製菓学科、栄養学科及び収容定員増を予定している幼児教育学科を含め4学科について同一のアンケート用紙を使用して一括で実施した（アンケート用紙参照）。

（2） 調査期間　：平成27年2月17日（火）～3月13日（金）

（3） 調査方法　：対象高校の進路指導部等に本学入試広報部員が訪問し、アンケート調査の趣旨を説明するとともに調査への協力を依頼した。
アンケート調査を承諾いただけた高校にアンケート調査用紙を必要部数郵送し（一部持参あり）、各校においてアンケート調査を実施いただいた。
なお、回収は、郵便にて本学へ返送いただいたが、一部入試広報部員による回収もあった。

（4） 調査対象　：高校2年生（平成27年3月現在）

（5） 調査内容　：アンケート用紙に設置する学科の名称、養成する人材像、設置するコース、取得可能な資格・免許、就職状況、設置場所（アクセス）、本学以外の同様の学びがある短期大学の紹介、学生納付金等の情報を明示し、対象学科への進学希望について意思を確認する内容とした。
設問は全3問とし、各設問に選択肢を用意し○印で選択する方式で、問2において、当該学科への進学希望を確認した。

（6） 調査高校数　：47校 （178クラス）　（大阪31校（公立23、私学8）、京都7（私学7）、兵庫9（公立6、私学3））

（7） 回答数内訳　：全回答数　6,513枚
有効回答数 6,364枚
無効回答数 149枚 （全3問全てに回答をしていないもの、同一設問内に○印が2つ以上等）

（8） 高校の抽出　：アンケート調査を実施するにあたり、以下の条件全てに合致する高校を抽出した。
① 平成26年度入試において本学を含めた短期大学への進学実績が10人以上の高校
② 過去5ヵ年で本学への志願実績のある高校
③ 主に大阪北部等本学への通学に便利な高校
①については、各校のホームページ及び受験情報誌により対象校を抽出
②については、本学所有のデータにより抽出し、③の通学に便利な高校は、高校の所在地が大阪北部各市等、大阪市内、京都市内及び兵庫県（神戸市以東）とした。

2. 生活デザイン学科アンケート集計結果

①	アンケート協力高校数	47校　（併設高校を含む）
②	アンケート回答総数	6、513枚（併設高校を含む）
③	アンケート無効回答総数	149枚　（併設高校を含む）
④	アンケート有効回答総数	6、364枚（併設高校を含む）

問1 あなたの性別を教えてください。
（該当するものに○を付けてください）

1. 男	2,402
2. 女	3,962
合計	6,364

問2 以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
（該当するもの一つに○を付けてください）

生活デザイン学科	434
うち、併設高校	41
その他の学科	1,762
いずれにも進学したいと思わない	4,168
合計	6,364

問3 あなたの居住地を教えてください。
（該当するもの一つに○を付けてください）

1. 大阪市内	1,502	2. 吹田市	339	3. 摂津市	130	4. 茨木市	205	5. 高槻市	265
6. 豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡			727	7. 大阪府（その他）	868	8. 兵庫県（尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡）			1,111
9. 兵庫県（その他）	186	10. 京都市・亀岡市以南	692	11. 京都府（南丹市以北）	180	12. 奈良県	42	13. その他（　）	117
								合計	6,364

【調査結果のまとめ】

問1　あなたの性別を教えてください。(該当するもに○を付けてください)

有効回答数　6,364人のうち　男性　2,402人　女性　3,962人
男性37.7%、女性62.3%であった。
調査依頼校の抽出条件に本学を含めた短期大学への進学実績が含まれるため女性の比率が高くなったと考えられる。

問2　以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。(該当するもに○を付けてください)

生活デザイン学科を選択した高校生数は有効回答数の6.8%にあたる434人であった。なお、その他の学科1,762人、いずれにも進学したいと思わない4,168人であった。

問3　あなたの居住地を教えてください。(該当するものに○を付けてください)

大阪市内　24%、大阪北部(吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡)26%、大阪府(その他)14%　大阪府下に64%が居住している。以下、
兵庫県神戸市以東(尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡)17%、兵庫県(その他)3%、
京都市・亀岡市以南　11%、京都府(南丹市以北)3%及び奈良県等その他　3%という結果であった。

3. 調査協力高校及びアンケート各項目の高校別回答数等明細一覧

2015/3/16

（生活デザイン学科）

	高校名	公立・私立区分	実施クラス数	回収枚数（有効回答）	性別		進学したい		いずれにも進学したいとは思わない	居住地													無効
					男性	女性	生活デザイン学科	その他の学科		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
1	*大阪成蹊女子*	私	11	399	0	399	41	234	124	158	71	17	25	30	40	23	28	3	1	0	0	3	2
2	渋谷	公	7	263	126	137	22	84	157	29	3	0	0	0	224	3	4	0	0	0	0	0	6
3	北摂つばさ	公	6	214	87	127	21	47	146	40	22	51	73	18	5	1	1	0	0	0	1	2	6
4	京都明徳	私	7	254	127	127	19	70	165	2	2	0	2	2	0	4	0	0	205	28	0	9	4
5	鶴見商業	公	7	240	22	218	19	49	172	145	0	3	0	1	0	90	0	0	0	0	0	1	8
6	大阪	私	9	354	233	121	18	65	271	131	63	13	31	30	26	17	35	6	1	0	0	1	9
7	豊島	公	6	227	97	130	17	82	128	14	47	4	9	3	148	1	0	0	1	0	0	0	2
8	西	公	4	147	50	97	16	30	101	121	1	1	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0
9	北淀	公	5	180	72	108	15	48	117	122	25	13	5	1	12	2	0	0	0	0	0	0	11
10	東淀川	公	7	270	102	168	14	63	193	166	34	1	1	1	61	2	0	0	0	1	2	1	1
11	尼崎（県立）	公	8	291	125	166	13	75	203	1	0	0	0	0	0	0	285	5	0	0	0	0	4
12	京都外大西	私	3	116	38	78	12	30	74	4	2	1	4	4	1	2	0	1	70	17	2	8	2
13	京都翔英	私	6	224	152	72	12	51	161	5	1	0	1	1	0	3	1	0	141	58	2	11	3
14	芦屋学園	私	5	146	94	52	12	32	102	2	1	0	0	1	0	1	84	55	0	0	1	1	5
15	*京都西山*	私	5	177	0	177	10	74	93	1	3	2	2	18	1	0	0	0	109	28	1	12	2
16	京都橘	私	3	123	54	69	10	22	91	0	1	0	0	1	0	10	1	0	53	24	24	9	1
17	箕面東	公	5	172	61	111	9	32	131	9	26	0	7	0	126	2	1	0	0	1	0	0	6
18	守口東	公	2	68	18	50	9	19	40	22	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	2	8
19	宝塚西	公	5	192	80	112	9	45	138	0	0	0	0	0	0	0	184	6	2	0	0	0	1
20	尼崎双星	公	5	149	77	72	8	27	114	1	0	0	0	0	0	0	147	0	1	0	0	0	6
21	箕面学園	私	2	90	71	19	8	18	64	5	5	0	9	3	36	0	27	2	0	2	1	0	5
22	あべの翔学	私	4	120	0	120	8	29	83	52	0	0	0	0	0	60	1	0	0	0	2	5	12
23	茨田	公	5	169	72	97	8	34	127	78	0	0	0	0	1	79	1	1	1	0	1	7	9
24	阪南大学	私	2	72	45	27	7	17	48	29	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	3	0	4
25	*夙川学院*	私	4	121	0	121	7	25	89	6	1	1	0	0	1	2	65	44	0	0	0	1	2
26	北かわち皐が丘	公	3	114	49	65	7	33	74	2	0	0	0	0	0	99	1	0	0	0	1	11	1
27	西寝屋川	公	3	91	35	56	7	24	60	11	0	0	0	0	0	78	0	0	0	0	1	1	4
28	芦間	公	2	73	43	30	6	14	53	30	0	3	0	0	0	34	0	0	0	0	0	6	0
29	清明学院	私	1	36	19	17	6	8	22	15	0	0	0	0	1	18	1	0	1	0	0	0	0
30	尼崎北	公	4	116	54	62	6	28	82	0	0	0	0	0	0	0	111	5	0	0	0	0	0
31	宝塚東	公	1	35	14	21	6	14	15	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	1
32	柴島	公	2	76	21	55	6	16	54	54	6	0	0	2	11	3	0	0	0	0	0	0	1
33	芥川	公	2	76	28	48	5	19	52	2	1	0	5	64	2	1	1	0	0	0	0	0	1
34	八尾北	公	2	75	23	52	5	21	49	30	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	1
35	大冠	公	2	74	35	39	5	23	46	3	0	1	12	53	5	0	0	0	0	0	0	0	2
36	茨木西	公	1	33	18	15	4	8	21	4	9	9	8	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3
37	扇町総合	公	1	33	3	30	4	11	18	19	0	1	0	1	2	8	0	0	0	0	0	2	1
38	交野	公	3	112	50	62	4	28	80	10	0	0	0	0	0	92	0	0	0	0	0	10	2
39	伊丹北	公	2	74	32	42	4	16	54	0	0	0	0	0	0	0	72	2	0	0	0	0	0
40	神戸野田	私	2	60	11	49	3	14	43	1	0	0	0	0	0	1	2	56	0	0	0	0	1
41	京都両洋	私	2	74	56	18	3	15	56	2	0	0	0	3	0	0	0	0	56	11	0	2	1
42	汎愛	公	3	114	65	49	3	21	90	74	1	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	5	1
43	*華頂女子*	私	2	80	0	80	3	26	51	3	3	0	0	3	2	2	2	0	49	10	0	6	2
44	昇陽	私	3	98	34	64	3	19	76	81	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	5
45	*星翔*	私	2	68	0	68	0	55	13	9	8	0	5	4	20	1	21	0	0	0	0	0	0
46	島本	公	1	42	5	37	0	29	13	3	3	9	6	20	1	0	0	0	0	0	0	0	1
47	枚岡樟風	公	1	32	4	28	0	18	14	6	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	1	2
合計			178	6364	2402	3962	434	1762	4168	1502	339	130	205	265	727	868	1111	186	692	180	42	117	149

※実施クラス数の欄において数字が太字でかつ下線を付しているのは、2年生全クラスで実施したことを表す

※イタリックは女子高校

大阪成蹊短期大学

新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）および「幼児教育学科」への進学希望アンケート調査

2016年（平成28年）4月、従来のコースを基にした新学科（「生活デザイン学科」「調理・製菓学科」「栄養学科」）の設置及び「幼児教育学科」の入学定員の増員（240人→300人）を構想しています。

<u>各学科における説明をよく読んで、最終ページのアンケートにお答えください。</u>

なお、皆さんより得られた情報は学科設置及び入学定員増の構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

このアンケートは2015年（平成27年）2月現在、
<u>高校2年生の皆さん</u>
が対象となります。

大阪成蹊短期大学「生活デザイン学科（仮称）」

設置構想に係るアンケート調査

平成27年4月に高校3年生になられる皆さんへ

現在、大阪成蹊短期大学にある総合生活学科生活デザインコースの実績を基に、高校生の皆さんの進路希望や社会のニーズに応え、学びの一層の充実を図るため、「生活デザイン学科」として学科を設置することを構想しています。「生活デザイン学科」では、「衣の領域において快適な衣生活を創造し、アパレル・ファッション業界で活躍できる専門性と実践力を身につけた良識ある人材を育成する」ことを目的とし、下記のコースを設ける予定です。

設置するコース

1. アパレル・スタイリストコース
素材やデザインに関する専門的な知識をはじめ、着る人の個性を表現するための豊かな感性を持ち、イメージを形に変えるために必要な知識と技術を身につけた人材を育成する

2. ファッションコーディネートコース
イメージを表現するための、ファッションに関する総合的な知識を養い、TPOと流行を見極める感性と技術を身につけた人材を育成する。

取得可能な資格・免許

2級衣料管理士資格、パターンメイキング技術検定、きもの文化検定、色彩検定、販売士
パーソナルカラー検定、ファッションビジネス能力検定、中学校教諭二種免許（家庭）
司書教諭資格、図書館司書資格

就職状況

「生活デザインコース」平成26年度卒業生就職内定率（2月現在、希望者ベース）100%

アクセス

阪急相川駅（阪急梅田駅より14分）から300m
JR吹田駅、地下鉄井高野駅から通学バス（無料）で5分

本学以外に服飾関係の学びがある短期大学（参考）

大手前短期大学ライフデザイン総合学科、大阪夕陽丘学園短大キャリア創造学科
大阪女子短期大学生活科学科

学生納付金

初年次学生納付金　1,270,000円、2年次　1,020,000円

以上をご確認いただいたうえで、アンケートにお答えください。なお、ご回答いただきました内容は、設置構想に係る統計資料としてのみ活用し、個人の情報として扱うことは一切ございません。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

アンケート回答用紙

問１　あなたの性別を教えてください。
（該当するものに○を付けてください）

１．男性　　２．女性

問２　以下のいずれかの学科に進学したいと思いますか。
（該当するもの一つに○を付けてください）

１．生活デザイン学科
２．調理・製菓学科
３．栄養学科
４．幼児教育学科
５．いずれにも進学したいと思わない

問３　あなたの居住地を教えてください。
（該当するものに○を付けてください）

１．大阪市内　２．吹田市　３．摂津市　４．茨木市　５．高槻市
６．豊中市、池田市、箕面市、豊能郡、三島郡　７．大阪府（その他）
８．兵庫県（尼崎市、伊丹市、西宮市、宝塚市、川西市、川辺郡）９．兵庫県（その他）
10．京都市・亀岡市以南　11．京都府（南丹市以北）12．奈良県
13．その他（　　）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

（資料4-1）平成26年度新入生アンケート回答結果（生活デザインコース）

本学オープンキャンパス参加状況（平成26年度本学生活デザインコース新入生）

選　択　肢		回答数	構成比(%)
本学オープンキャンパスに参加した		46	90.2%
	1回参加した	30	58.8%
	2回以上参加した	16	31.4%
参加しなかった		4	7.8%
無回答		1	2.0%
合　計		51	100.0%

平成26年度本学総合生活学科生活デザインコース新入生へのアンケート結果

本学以外の大学、短期大学、専門学校等のオープンキャンパス参加状況（平成26年度本学生活デザインコース新入生）

選　択　肢		回答数	構成比(%)
他校のオープンキャンパスに参加した		29	56.9%
	1～3校参加した	24	47.1%
	4校以上参加した	5	9.8%
参加しなかった		20	39.2%
無回答		2	3.9%
合　計		51	100.0%

平成26年度本学総合生活学科生活デザインコース新入生へのアンケート結果

本学以外の短期大学への受験状況（平成26年度本学生活デザインコース新入生）

選　択　肢	回答数	構成比(%)
受験した	2	3.9%
受験しなかった	49	96.1%
無回答	0	0.0%
合　計	51	100.0%

平成26年度本学総合生活学科生活デザインコース新入生へのアンケート結果

（資料4-2）本学生活デザインコース平成26年度新入生の本学以外の短期大学オープンキャンパス参加校、参加件数及び受験校、受験件数の内訳

	短期大学	オープンキャンパス参加校、件数		受験校、受験件数	
		回答総数	22	回答総数	0
		回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
1	大阪夕陽丘学園短期大学	5	22.7%	0	0.0%
2	大手前短期大学	4	18.2%	0	0.0%
3	大阪女子短期大学	3	13.6%	0	0.0%
4	大阪青山大学短期大学部	3	13.6%	0	0.0%
5	関西外国語大学短期大学部	2	9.1%	0	0.0%
6	大阪城南女子短期大学	1	4.5%	0	0.0%
7	四天王寺大学短期大学部	1	4.5%	0	0.0%
8	武庫川女子大学短期大学部	1	4.5%	0	0.0%
9	甲子園短期大学	1	4.5%	0	0.0%
10	東大阪短期大学	1	4.5%	0	0.0%

平成26年度本学総合生活学科生活デザインコース新入生へのアンケート結果

上記は他校のオープンキャンパス参加者29人（資料4-1参照）のうち、他の短期大学のオープンキャンパスに参加した高校生の学校別参加件数

（資料4-3）本学生活デザインコース平成26年度新入生の本学入学理由

	選択肢	回答数	構成比
1	資格、免許取得に有利	30	24.8%
2	就職実績、内容	22	18.2%
3	通学が便利	19	15.7%
4	学生生活が楽しめそう	14	11.6%
5	校風や雰囲気	13	10.7%
6	設備や環境が整っている	10	8.3%
7	学生の面倒見が良い	5	4.1%
8	教員が魅力的	4	3.3%
9	伝統や実績	3	2.5%
10	その他	1	0.8%
	合　計	121	100.0%

平成26年度本学総合生活学科生活デザインコース新入生へのアンケート結果

質問項目「大阪成蹊短期大学に入学を決めた理由」に対する回答結果（複数回答可）

（資料5-1） 大阪府の18歳人口の推移 （平成27年度～37年度）　　（単位：人）

入学年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成27年度比
大阪府の18歳人口	80,765	83,243	83,617	86,273	84,097	83,201	82,080	79,692	77,633	76,043	72,882	90.2%

大阪府の18歳人口は文部科学省学校基本調査をもとにしたリクルート進学総研「18歳人口・大学／専修学校進学率・残留率の動向-都道府県別分析：関西版-」を参照した

（資料5-2） 総合生活学科の平成37年度学生募集の志願倍率の算出　　（単位：倍）

入学年度	平成27年度 (a)	人口変動率 (b)	平成37年度 (a)X(b)
志願倍率	1.47	0.902	1.33

平成26年度の志願倍率をベースに人口の減少率を乗じて平成37年度の志願倍率を算出
総合生活学科の志願倍率は（資料1参照）

(資料6)学科系統別の動向(家政系)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
志願倍率(倍)	1.35	1.30	1.29	1.36	1.31
入学定員充足率(%)	87.72	84.78	83.45	87.01	84.48

日本私立学校振興・共済事業団 「私立大学・短期大学等入学志願動向」平成22年度～26年度版より

(資料7) 規模別の動向(平成23年度～26年度)

規模別の動向(短期大学:入学定員500人以上)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
志願倍率 (倍)	2.08	2.03	2.04	2.08	2.24
入学定員充足率 (%)	102.41	98.96	95.97	100.61	100.74

日本私立学校振興・共済事業団 「私立大学・短期大学等入学志願動向」平成22年度～26年度版より

(資料8) オープンキャンパス参加者数 (平成23年度～27年度入学生の募集)

(単位:人、倍)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	対23年度比
総合生活学科	715	759	845	924	880	1.23
生活デザインコース	144	165	161	200	171	1.23
食物コース	283	286	413	397	381	1.23
栄養コース	288	308	271	327	328	1.14

（資料9）本学生活デザイン学科及び競合短期大学で「取得できる免許や資格」の比較
（各大学のホームページにて「取得できる免許や資格」として挙げられているもの）

大阪成蹊短期大学	生活デザイン学科	アパレル・スタイリストコース	ファッションコーディネート
		2級衣料管理士資格	2級衣料管理士資格
		きもの文化検定	きもの文化検定
		販売士	販売士
		色彩検定	色彩検定
		ファッションビジネス検定	ファッションビジネス検定
		中学校教諭二種免許（家庭）	中学校教諭二種免許（家庭）
		司書教諭資格	司書教諭資格
		図書館司書資格	図書館司書資格
		パターンメイキング技術検定	
			パーソナルカラー検定
大阪夕陽丘学園短期大学	キャリア創造学科	ファッションデザインコース	ビューティーデザインコース
		衣料管理士	メイクセラピー検定
		ファッション販売能力検定	ネイリスト技能検定
		ファッションビジネス検定	アロマテラピー検定
		パーソナルカラー検定	パーソナルカラー検定
大手前短期大学	ユニット自由選択制	ファッションビジネス	ファッションクリエイト
		ファッション販売能力検定	パターンメイキング技術検定
		ファッションビジネス能力検定	ファッション販売能力検定
		販売士検定	ファッションビジネス能力検定
		色彩検定	きもの文化検定
		サービス接遇検定	
		プレゼンテーション実務士	
大阪女子短期大学	生活科学科ライフプロデュース専攻	ファッションコース	ビューティコース
		ファッションビジネス能力検定	JNECネイリスト技能検定
		ファッション販売能力検定	ケセランパサランメイクアップ検定
		色彩検定	メイクセラピー検定
			色彩検定

（資料10） 併設高校からの内部進学者数 （平成23年度～27年度）

（単位:人）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
生活デザインコース	0	2	5	6	15
食物コース	4	9	12	25	33
栄養コース	0	8	4	14	15
合計	4	19	21	45	63

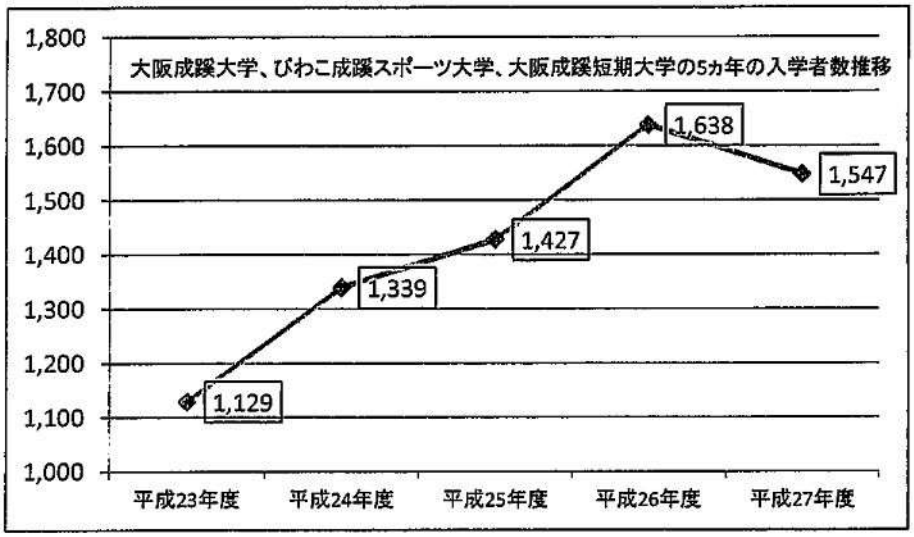
（資料11） 本学生活デザイン学科競合校の学生納付金一覧

（単位:円）

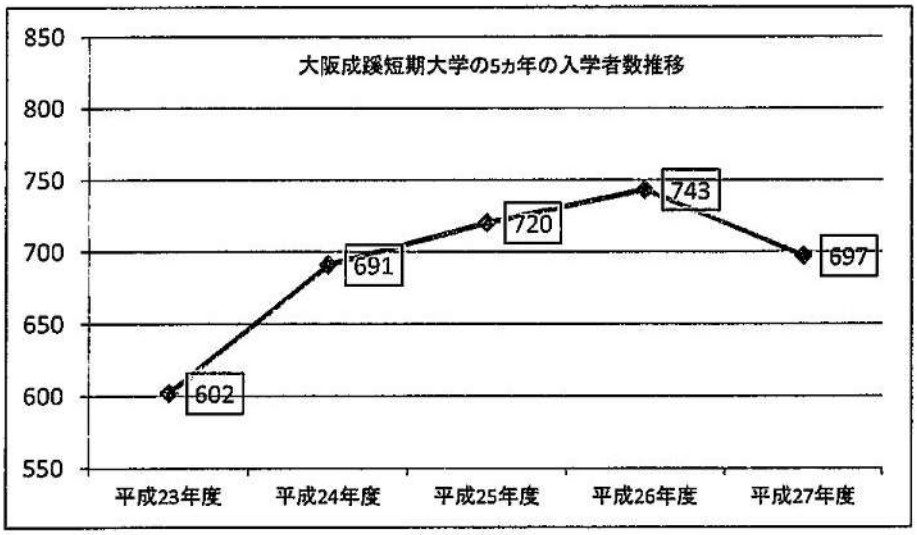
大学	学科	入学金	授業料	施設費等	初年度納入額	2年間学費
大手前短大	ライフデザイン総合学科	250,000	720,000	230,000	1,200,000	2,150,000
大阪夕陽丘学園短大	キャリア創造学科	200,000	840,000	180,000	1,220,000	2,240,000
本学	生活デザイン学科	250,000	1,020,000		1,270,000	2,290,000
大阪女子短大	生活科学科	200,000	860,000	300,000	1,360,000	2,520,000
平均		225,000	860,000	236,667	1,262,500	2,300,000

※実習費は実費負担の表記が多いため、省いている。諸会費も同様。
※各短期大学のホームページから引用

（資料12-1） 大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、
大阪成蹊短期大学の3大学合計の入学者数推移
（平成23年度～平成27年度）　（単位：人）



（資料12-2） 大阪成蹊短期大学の入学者数推移
（平成23年度～平成27年度）　（単位：人）

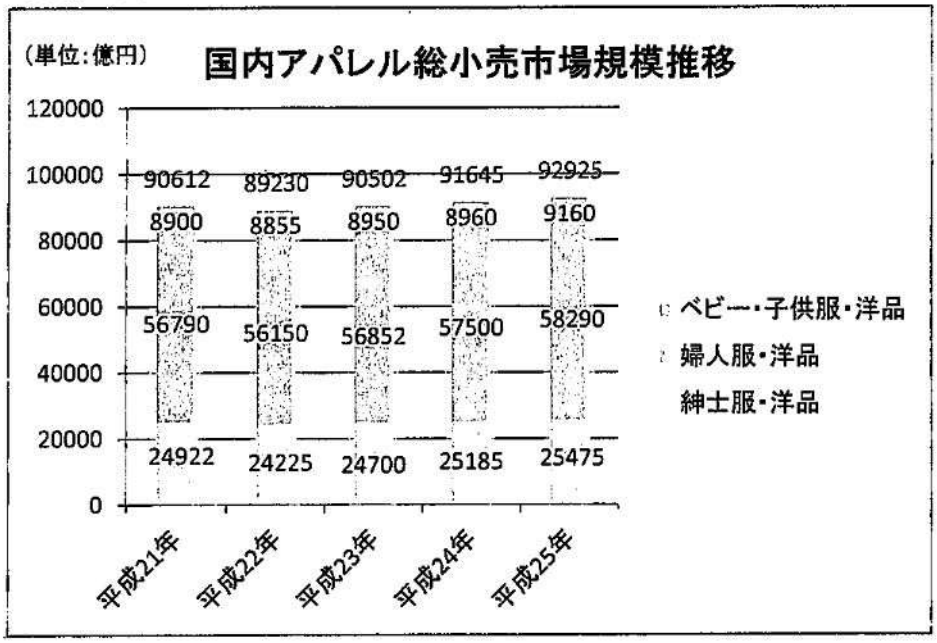


（資料13） 併設高校から本学各学科への内部進学者数推移 （平成23年度～27年度入学）

（単位:人）

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総合生活学科		4	19	21	45	63
	生活デザインコース	0	2	5	6	15
	食物コース	4	9	12	25	33
	栄養コース	0	8	4	14	15
幼児教育学科		39	33	65	67	87
観光学科		2	7	5	15	19
グローバルコミュニケーション学科		0	4	3	11	3
経営会計学科		1	3	1	10	6
合計		46	66	95	148	178

（資料14）国内アパレル総小売市場規模推移



矢野経済研究所「国内アパレル市場に関する調査結果2014」より作成

（資料15）

繊研oil
No.1ファッションビジネス専門紙

【総合】売り手市場が顕著、厳しい採用環境

2014年9月5日 09:04

マイナビとMORIパーソネル・クリエイツは、共同で運営する「FB（ファッションビジネス）就職セミナー」（「マイナビ2015」と共催）で今年3回目となる秋の陣を開く。対象は来春の新卒者と既卒者、外国人留学生。秋口に業界特化型の新卒者向け合同企業説明会を開く例は珍しいが、販売職の人材不足などを背景に一昨年から開いている。6日に東京、8日に大阪で開催する。

FB就職セミナーはFB業界最大の新卒採用イベントで、例年2月前半に東京、大阪、名古屋で実施している。売り手市場の傾向が強まった昨年から6月ごろに夏の陣も開き、春、夏、秋の3回に開催を増やしている。

今年は2月の出展企業数が3会場合計で過去最高となり、採用意欲が高まっている半面、来場者数は前年比で東京10%減、大阪15%減、名古屋は20%以上減少し、「より売り手市場の傾向が顕著」と主催者は危機感を募らせる。

有効求人倍率も昨年11月から1.0以上に回復し、今年6月から1.1を上回る中、「金融や商社など大手も含めて全体に採用を増やす中、内勤と比べて労働条件の厳しい店頭での販売職を学生が避け、他業界や一般職に流れる傾向が強い。活発な商業施設の開発を背景に新規出店の条件は広がっているのに、飲食やFB業界は採用が厳しい」という。

FB業界は経験者の募集で人が集まらなくなり、退職者の補充や出店に伴う人の手当てが追いつかず、昨年から高卒も含め新規採用枠を拡大する企業が増えている。FB就職セミナーの2回目は東京が17社、大阪が限定10社が出展、3回目は東京11社、大阪が全産業の合同説明会内のゾーン出展で3社が出展予定だ。

東京は、春から3回連続で参加のフランドル、シュガー・マトリックス、クロスカンパニー、出店拡大中のアーバンリサーチ、大手との競合が激しい春と夏は出なかった呉服やジュエリーの中小企業も出展する。本気度の強い学生が集まり、採用に至る率が高いため、出展企業は正式に内定を出す10月を控えて採用を増やしたい考えだ。

（資料 16）大阪成蹊短期大学　生活デザイン学科（平成 28 年 4 月　届出設置予定）構想に係るアンケート調査

平成 27 年 1 月

採用ご担当者各位

大阪成蹊短期大学 就職部

大阪成蹊短期大学
生活デザイン学科（平成 28 年 4 月 届出設置予定）に関するアンケート調査のお願い

拝啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて現在大阪成蹊短期大学では、総合生活学科生活デザインコースの教育内容、指導法、環境等を一層充実させ、平成 28 年 4 月に「生活デザイン学科」を設置するため、文部科学省へ届出申請を行う準備を進めております。

新学科では「デザイナー」「パタンナー」「スタイリスト」「コーディネーター」など、アパレル・ファッション業界で活躍できる人材の育成をめざします。現在の学びの特色を生かしつつ、新学科において更なる特色化を構想しております。

社会人基礎力、人間力を身につけた多様な人材を育て、社会に送り出していきたいと考えております。

こうした新学科の設置に関し、文部科学省への届出申請に際しまして、企業様の採用等社会のニーズ調査の必要があります。

つきましては、ご多忙中誠に恐縮ではございますが、別紙アンケート調査にご協力のほどお願い申し上げます。

なお、本アンケートで得られた情報は、文部科学省への申請資料として活用するのみであり、その他の目的に使用することはございません。

何卒、ご協力くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

以上

〔解答用紙〕

大阪成蹊短期大学生活デザイン学科（平成28年４月 届出設置予定）
構想に係るアンケート調査

貴社名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｑ１．大阪成蹊短期大学生活デザイン学科の卒業生を採用する可能性はありますか？
（あてはまるもの１つに○を、１．を選択する場合には予定人数をご記入ください）

１．採用したい　（予定人数：　　人）
２．どちらとも言えない
３．採用しない

Ｑ２．貴社が採用する学生に求めるものは何ですか？
（あてはまるもの全てに○をご記入ください）

１．コミュニケーション能力　　２．基礎的な学力
３．専門的な知識　　４．社会常識
５．積極的な行動力　　６．仕事への積極性
７．チームで働く力　　８．主体性
９．目標達成への意欲　　１０．課題解決能力
１１．忍耐力　　１２．ボランティアでの経験など
１３．取得資格　　１４．その他（　　）

ご協力ありがとうございました。

大阪成蹊短期大学 就職部

生活デザイン学科　企業アンケート回収状況

	企業名	業種	上場区分	会社概要	採用予定人数
1	㈱オンワード樫山　大阪支店	アパレル	未上場	資本金:50億円 売上高:1583億円 従業員数:6355名 採用実績:06年1名、10年2名	4
2	㈱ワールドストアパートナーズ	アパレル	未上場	資本金:3000万円 売上高:3137億3700万円 従業員数:13508名 採用実績:12年3名、13年2名、14年1名	5
3	㈱ジョイックスコーポレーション	アパレル	未上場	資本金:5000万円 売上高:283億円 従業員数:1008名 採用実績:13年1名	2
4	ジャヴァグループ	アパレル	未上場	資本金:5億7900万円 売上高:458億1800万円 従業員数:2387名 採用実績:05年1名	4
5	㈱サンエーインターナショナル	アパレル	未上場	資本金:1億円 売上高:1028億5900万円 従業員数:770名 採用実績:08年2名、12年1名	3
6	㈱バロックジャパンリミテッド	アパレル	未上場	資本金:38億円 従業員数:1182名 採用実績:10年2名、11年1名、12年1名	1
7	㈱シティーヒル	アパレル	未上場	資本金:6000万円 売上高:125億円 従業員数:732名 採用実績:10年1名、12年1名、14年2名	1
8	㈱クロスカンパニー	アパレル	未上場	資本金:1億円 売上高:784億円 従業員数:2750名 採用実績:11年3名、12年2名、14年5名	3
9	㈱ナルミヤ・インターナショナル	アパレル	未上場	資本金:9億2055万円 売上高:164億円 従業員数:1144名 採用実績:12年2名、13年2名、14年1名	1
10	㈱F・Oインターナショナル	アパレル	未上場	資本金:1000万円 売上高:255億5800万円 従業員数:750名 採用実績:14年1名	1
11	双日インフィニティ㈱	アパレル	未上場	資本金:28億45000万円 従業員数:540名 採用実績:なし	3
12	㈱ジャパンイマジネーション	アパレル	未上場	資本金:6100万円 売上高:237億円 従業員数:1105名 採用実績:12年1名、13年3名、14年3名	10
13	㈱パル	アパレル	東証1部上場	資本金:31億8100万円 売上高:1000億円 従業員数:2422名 採用実績:12年2名、13年1名、14年4名	10
14	㈱アングローバル	アパレル	未上場	資本金:9000万円 売上高:112億5800万円 従業員数:354名 採用実績:なし	1
15	㈱フランドル	アパレル	未上場	資本金:5000万円 売上高:325億円 従業員数:1647名 採用実績:07年4名、09年1名、14年3名	3
16	アッシュ・ペー・フランス㈱	アパレル	未上場	資本金:5000万円 売上高:110億円 従業員数:850名 採用実績:06年1名、07年2名	6
17	㈱ファミリア	子供服用品	未上場	資本金:8000万円 売上高:142億円 従業員数:695名 採用実績:13年1名	1
18	㈱オリーブ・デ・オリーブ	アパレル	未上場	資本金:5000万円 売上高:74億円 従業員数:251名 採用実績:12年1名、13年1名	5
19	大松(株)	アパレル	未上場	資本金:1億2000万円 売上高:75億3000万円 従業員数:167名 採用実績:07年2名	2
20	啓明商事㈱	和装専門商社	未上場	資本金:2068万円 売上高:6億6000万円 従業員数:26名 採用実績:06年1名	1
21	ゴールドフラッグ㈱	インナーウェア	未上場	資本金:1000万円 売上高:33億8500万円 従業員:118名 採用実績:なし	2
22	(株)ミルク	貴金属・宝石製造販売	未上場	資本金:2000万円 売上高:40億円 従業員数:118名 採用実績:07年1名	1
23	㈱カミオジャパン	雑貨企画・製造・販売	未上場	資本金:7990万円 売上高:43億円 従業員数:145名 採用実績:06年1名、13年1名	2
24	㈱そごう・西武　西武高槻店	百貨店	未上場	資本金:100億円 売上高:8347億2330万円 従業員数:214名 採用実績:12年2名、13年4名、14年1名	2
25	寺内㈱	総合御売商社	未上場	資本金:5億1000万円 売上高:202億円 従業員数:665名 採用実績:09年1名、09年1名	3
26	㈲神戸岡本プロフィール	婦人服販売	未上場	資本金:300万円 売上高:18億7200万円 従業員数:140名 採用実績:14年1名	3
27	㈱大丸松坂屋セールスアソシエーツ	百貨店	未上場	資本金:9000万円 売上高:10億2900万円 従業員数:2835名 採用実績:12年1名、13年2名、14年1名	3
	合計				83

大阪成蹊短期大学　生活デザイン学科の卒業生を採用する可能性はありますか？

1. 採用したい　　27社(予定人数:83人)
2. どちらとも言えない　　2社
3. 採用しない　　0社

（資料17）過去3ヵ年の総合生活学科各コース別就職率推移

（平成24年度～26年度）　　（単位：%）

	平成24年度卒業生	平成25年度卒業生	平成26年度卒業生
生活デザインコース	96.7	96.9	100
食物コース	96.6	96.9	100
栄養コース	98.5	98.9	100

別記様式第３号（その１）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
—	学長	ｷﾑﾗ　ｶｽﾞｱｷ 木村　一信 ＜平成２７年４月＞		博士 (文学)		大阪成蹊短期大学 教授 (平成27.4)

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（生活デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授 (学科長)	サワダ　カズヤ 澤田　和也 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		情報処理概論 キャリアディベロップメント デザイン特論Ⅰ デザイン特論Ⅱ 被服整理学 ﾃｷｽﾀｲﾙ基礎実験※ 染色加工学 繊維加工学 被服整理学実験	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 2前	2 2 2 2 2 1 2 2 1	1 1 2 2 1 2 1 1 2	大阪成蹊短期大学 教授 （平17.4）	5日
2	専	教授	ハヤカワマサアキ 早川　雅明 ＜平成28年4月＞		社会学士		ファッションビジネス概論 デザイン特論Ⅰ デザイン特論Ⅱ 業界研究	1前 2前 2後 1後	2 2 2 2	1 2 2 1	畿央大学 非常勤講師 （平15.9）	3日
3	専	准教授	マツオカ　エリコ 松岡　依里子 ＜平成28年4月＞		修士※ （被服環境学）		生活デザイン総論 キャリアディベロップメント デザイン特論Ⅰ デザイン特論Ⅱ 家庭経営学 マーケティング論 ファッション心理学 ファッション文化論	1前 1後 2前 2後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 2 2 1 1 1 1	大阪成蹊短期大学 准教授 （平24.4）	5日
4	専	講師	イトウ　ヨシテル 伊東　義輝 ＜平成28年4月＞		学士 （商学）		ファッションデザイン論 アパレル設計実習Ⅰ アパレル設計実習Ⅲ デザイン特論Ⅰ デザイン特論Ⅱ ファッションコーディネート論 創作研究Ⅰ 創作研究Ⅱ デザイン表現実習Ⅰ デザイン表現実習Ⅱ	1前 1前 1後 2前 2後 2後 2前 2後 1前 1後	2 1 1 2 2 2 2 2 1 1	1 2 2 2 2 1 2 2 2 2	大阪成蹊短期大学 講師 （平25.4）	5日
5	専	講師	アサノミマユミ 淺海　真弓 ＜平成28年4月＞		修士 （生活科学）		成蹊基礎セミナー 情報処理概論 キャリアディベロップメント ｱﾊﾟﾚﾙ繊維学 ｱﾊﾟﾚﾙ材料学 デザイン特論Ⅰ デザイン特論Ⅱ ﾃｷｽﾀｲﾙ基礎実験※ 色彩学 材料学実験	1前 1前 1後 1前 1後 2前 2後 1後 1前 2後	2 2 2 2 2 2 2 1 2 1	1 1 1 1 1 2 2 2 1 2	大阪成蹊短期大学 講師 （平26.4）	5日
6	兼担	教授	ナカ　イサオ 中　伊佐雄 ＜平成28年4月＞		社会学士		ホスピタリティー論	1前・後	2	1	大阪成蹊短期大学 教授 （昭53.4）	
7	兼担	教授	ハヤカワ　エイイチ 早川　榮一 ＜平成28年4月＞		教育学修士		キャリア演習	1後	2	1	大阪成蹊短期大学 教授 （昭56.4）	
8	兼担	准教授	サカネ　マサフミ 坂根　正史 ＜平成29年4月＞		専門学校卒		調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ	2前 2後	1 1	2 2	大阪成蹊短期大学 准教授 （平19.4）	
9	兼担	准教授	キム　ジソン 金　志善 ＜平成28年4月＞		博士 （商学）		海外語学演習（韓国語）	1前 「集中」	2	1	大阪成蹊短期大学 准教授 （平26.4）	
10	兼担	准教授	アサノ　ノリコ 浅野　法子 ＜平成28年4月＞		博士 （文学）		基礎日本語A 基礎日本語B	1前 1後	1 1	1 1	大阪成蹊短期大学 准教授 （平27.4）	
11	兼担	講師	ツマキ　マキコ 妻木 麻紀子 ＜平成28年4月＞		修士 （文学）		Active English Ⅰ Active English Ⅱ 海外語学演習（英語）	1前 1後 1後 「集中」	2 2 2	2 2 1	大阪成蹊短期大学 講師 （平25.4）	
12	兼担	講師	オリタ　ケイスケ 織田　恵輔 ＜平成28年4月＞		博士 （医学）		健康とスポーツ	1前	2	1	大阪成蹊短期大学 講師 （平26.4）	
13	兼担	講師	タケヤスチエ 竹安　知枝 ＜平成28年4月＞		修士 （学校教育学）		体育講義 体育実技	1前 1前	1 1	1 1	大阪成蹊短期大学 講師 （平26.4）	
14	兼担	講師	サエキ　アキコ 佐伯　暁子 ＜平成28年4月＞		博士 （文学）		日本事情	1後	2	1	大阪成蹊短期大学 講師 （平27.4）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
15	兼任	講師	フジモリアズサ 藤森　梓 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)		暮らしと金融	1後	2	1	大阪成蹊大学 講師 (平27.4)	
16	兼任	講師	マツシタエリコ 松下　恵利子 ＜平成28年4月＞		教育学士		コンピュータリテラシーＡ	1前	2	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平成27.4)	
17	兼任	講師	ジョナサン ガーヴィー ＜平成28年4月＞		B.A Personnel Management (英国)		英語会話１ 英語会話２	1･2前 1･2後	1 1	1 1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平24.4)	
18	兼任	講師	マ　キカン 馬　紀環 ＜平成29年4月＞		学士 (中国)		基礎中国語A 基礎中国語B	2前 2後	1 1	1 1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (昭60.10)	
19	兼任	講師	キム ソ ジン 金　素辰 ＜平成29年4月＞		修士 (言語文化学)		基礎韓国語A 基礎韓国語B	2前 2後	2 2	2 2	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平27.4)	
20	兼任	講師	イタミ　ヨシノリ 伊丹　芳徳 ＜平成28年4月＞		工学修士		基礎化学	1前	4	2	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平26.4)	
21	兼任	講師	マツモト　サキコ 松本　佐紀子 ＜平成28年4月＞		文学士		ＴＯＥＩＣ演習１ ＴＯＥＩＣ演習２	1･2前 1･2後	1 1	1 1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平27.4)	
22	兼任	講師	ヘシキ　リョウコ 平敷　亮子 ＜平成28年4月＞		修士※ (比較文化学)		Active English Ⅰ Active English Ⅱ	1前 1後	2 2	2 2	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平23.4)	
23	兼任	講師	アラキ　ヒデオ 荒木　秀夫 ＜平成28年4月＞		文学修士		人間学	1前･後	4	2	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平8.4)	
24	兼任	講師	イシイ　モトヒロ 石井　基博 ＜平成28年4月＞		博士 (哲学)		人権と社会	1後	2	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平17.4)	
25	兼任	講師	イマイ　タカシ 今井　孝司 ＜平成28年4月＞		修士※ (社会学)		ホスピタリティー論 アジアの未来と日本	1前・後 1後	2 2	1 1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平20.4)	
26	兼任	講師	ノカミ　エミ 野上　恵美 ＜平成28年4月＞		修士 (文化学)		暮らしと環境	1後	4	2	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平27.4)	
27	兼任	講師	タナカ　ヨシコ 田中　美子 ＜平成28年4月＞		修士※ (文学)		美学	1後	2	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平20.4)	
28	兼任	講師	ドイ　シュウシ 土井 脩史 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		暮らしと環境	1前･後	4	2	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平24.4)	
29	兼任	講師	ニシカワヒデトモ 西川　秀智 ＜平成28年4月＞		教育学修士		文学・歴史・宗教	1後	2	1	大阪成蹊大学 准教授 (平26.4)	
30	兼任	講師	モリ　シゲハル 森　茂治 ＜平成28年4月＞		商学士		ビジネスコミュニケーション 暮らしと経済	1前 1前	2 2	1 1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平20.4)	
31	兼任	講師	ナカガワヨウコ 中川　陽子 ＜平成28年4月＞		修士 (社会福祉学)		社会福祉と暮らしの法	1後	2	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平27.4)	
32	兼任	講師	ヨシダ　スミエ 吉田　澄江 ＜平成28年4月＞		学士 (文学)		コンピュータリテラシーＢ キャリア演習	1後 1後	2 2	1 1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平20.4) ｱﾄﾘｴ・ﾖｼﾀﾞ (平成18.10)	
33	兼任	講師	タカハシカズヒロ 髙橋　和広 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)		日本国憲法	1前	2	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平27.4)	
34	兼任	講師	コメタニ　ユウコ 米谷　侑子 ＜平成28年4月＞		短期大学卒		キャリアデザイン	1後	2	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平21.4) (株) aim 代表取締役 (平21.7)	
35	兼任	講師	ハマダ　ダイスケ 濱田　大助 ＜平成28年4月＞		高等学校卒		人間と文化	1前	2	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平22.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
36	兼任	講師	フジサキ ミワ 藤崎　美和 ＜平成28年4月＞		高等学校卒		アパレル設計実習Ⅱ アパレル設計実習Ⅳ	1前 1後	1 1	2 2	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平25.4)	
37	兼任	講師	ミズタニヨシコ 水谷　祥子 ＜平成28年4月＞		修士 (家政学)		アパレル設計実習Ⅱ アパレル設計実習Ⅳ	1前 1後	1 1	2 2	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平18.4)	
38	兼任	講師	フクニシ ユミコ 福西　由美子 ＜平成28年4月＞		専門学校卒		ドローイング演習 フェースメイク演習	1前 1前	2 2	2 2	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平19.4)	
39	兼任	講師	センダ　マキコ 千田　眞喜子 ＜平成28年4月＞		修士 (家政学)		日本の食文化 食物学	1後 1後	2 2	1 1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平16.4)	
40	兼任	講師	ハヤシトウコ 林　塔子 ＜平成28年4月＞		短期大学卒		ファッションアイテム演習	1後	1	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平24.4)	
41	兼任	講師	タカノクラ ムツコ 高野倉　睦子 ＜平成28年4月＞		博士 (医学)		衣環境学 衣環境学実験	1後 2後	2 1	1 2	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平26.4)	
42	兼任	講師	ムクノ　ヨウコ 向野　洋子 ＜平成29年4月＞		教育学士		保育学	2前	2	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平19.4) こうづやま・宮山 幼稚園 園長・理事長 (昭63.4)	
43	兼任	講師	ハシモトヨウヘイ 橋本　洋平 ＜平成29年4月＞		専門学校卒		ショップ経営学	2後	2	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平26.4)	
44	兼任	講師	コバヤシ ヤチエ 小林　八千枝 ＜平成29年4月＞		専門学校卒		生活造形実習Ⅰ 生活造形実習Ⅱ	2前 2後	1 1	2 2	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平24.4)	
45	兼任	講師	モリモトチサト 森本　千里 ＜平成29年4月＞		短期大学卒		ＣＡＤ演習	2前	1	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平26.4)	
46	兼任	講師	タカオ　ヤスナガ　リエ 高尾（安永）　理恵 ＜平成29年4月＞		専門学校卒		ネールアート演習	2後	1	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平20.4)	
47	兼任	講師	ヤノ　トモミ 矢野　知美 ＜平成29年4月＞		短期大学卒		ブライダルコーディネート論	2前	2	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平25.4)	
48	兼任	講師	ミヤケ　シオリ 三宅　詩織 ＜平成29年4月＞		専門学校卒		ヘアメイク演習	2前	1	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平27.4)	
49	兼任	講師	山下　麻子 ＜平成29年4月＞		ＭＦＡ (スウェーデン)		住居学	2前	2	1	GENETO一級建築事務所共同主宰 (平19.7)	
50	兼任	講師	アオキ　ジュンコ 青木　順子 ＜平成29年4月＞		家政学士		インテリアコーディネート論	2後	2	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平23.4) buuhuu-u一級建築士事務所　代表	
51	兼任	講師	ヤマモトタケハラ ヒトミ 山本（竹原）ひとみ ＜平成28年4月＞		修士 (芸術学)		販売論	1後	2	1	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平27.4)	
52	兼任	講師	キタダニサツキ 北谷　五月 ＜平成28年4月＞		専門学校卒		パターンメイキングⅠ パターンメイキングⅡ	1前 1後	2 2	2 2	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平27.4)	
53	兼任	講師	ハラダ　ヨウコ 原田　陽子 ＜平成28年4月＞		学士 (生活環境学)		アパレル設計実習Ⅰ アパレル設計実習Ⅲ	1前 1後	1 1	2 2	大阪成蹊短期大学 非常勤講師 (平27.4)	

別記様式第３号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

職　　位	学　　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　　計	備　　考
教　　授	博　　士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	1人	1人	
	短 期 大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　　士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　　師	博　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　　士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	学　　士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	短 期 大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　　教	博　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　　計	博　　士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修　　士	人	1人	人	1人	人	人	人	2人	
	学　　士	人	人	1人	人	人	人	1人	2人	
	短 期 大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	